



IBM Systems - iSeries

iSeries 接続

iSeries Access for Web

バージョン 5 リリース 4







**IBM Systems - iSeries**

**iSeries 接続**

**iSeries Access for Web**

バージョン 5 リリース 4

**ご注意**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、151 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM eServer iSeries Access for Web (5722-XH2) のバージョン 5、リリース 4、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

**原 典：** IBM Systems - iSeries  
Connecting to iSeries  
iSeries Access for Web  
Version 5 Release 4

**発 行：** 日本アイ・ビー・エム株式会社

**担 当：** ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

# 目次

<b>iSeries Access for Web</b> . . . . .	<b>1</b>	Web アプリケーション・サーバー環境での	
V5R4 の新機能 . . . . .	1	iSeries Access for Web の使用 . . . . .	93
トピックの印刷 . . . . .	3	Web アプリケーション・サーバー環境での	
iSeries Access for Web のライセンス情報 . . . . .	3	iSeries Access for Web の保管および復元 . . . . .	119
iSeries Access for Web 用のプラン . . . . .	5	ポータル環境の iSeries Access for Web . . . . .	121
iSeries Access for Web のオフライン . . . . .	5	ポータルの概念 . . . . .	121
セキュリティ上の考慮事項 . . . . .	7	ポータル環境での iSeries Access for Web の構	
チェックリスト: プラン、インストール、および		成 . . . . .	123
構成 . . . . .	14	ポータル環境での iSeries Access for Web のカ	
iSeries Access for Web をインストールするための		スタマイズ . . . . .	136
前提条件 . . . . .	15	ポータル環境での iSeries Access for Web の使	
iSeries サーバーへの iSeries Access for Web のイン		用 . . . . .	138
ストール . . . . .	23	ポータル環境での iSeries Access for Web の保	
iSeries Access for Web のインストール . . . . .	24	管および復元 . . . . .	146
iSeries Access for Web PTF のインストール . . . . .	25	iSeries Access for Web の削除 . . . . .	147
Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries		関連情報 . . . . .	148
Access for Web . . . . .	26	<b>付録. 特記事項 . . . . .</b>	<b>151</b>
Web アプリケーション・サーバー環境での		プログラミング・インターフェース情報 . . . . .	152
iSeries Access for Web の構成 . . . . .	26	商標 . . . . .	152
Web アプリケーション・サーバー環境での		資料に関するご使用条件 . . . . .	153
iSeries Access for Web のカスタマイズ . . . . .	76		



---

## iSeries Access for Web

iSeries™ Access for Web (5722-XH2) は、iSeries Access (5722-XW1) ファミリーのキー・プロダクトです。iSeries サーバー上の i5/OS™ リソースへの Web ブラウザー・ベースのアクセスを提供します。

iSeries Access for Web を使用すると、エンド・ユーザーは、Web ブラウザーを介して i5/OS のリソースをクライアントのデスクトップにまで展開し、企業全体で業務上の情報、アプリケーション、およびリソースを活用できるようになります。

iSeries Access for Web には、以下のような利点があります。

- サーバー・ベースである。
- Java™ サブレットおよびポートレット・テクノロジーによってインプリメントされている。
- 業界標準のプロトコルである HTTP、HTTPS、および HTML を使用している。
- 軽量であり、クライアント上にはブラウザしか必要としない。
- 5250 ユーザー・インターフェースを備え、iSeries のデータベース、統合ファイル・システム、プリンター、プリンター出力、ジョブ、バッチ・コマンド、およびメッセージなどの i5/OS リソースにアクセスできる。

---

## V5R4 の新機能

V5R4 の iSeries Access for Web には、数多くの新機能があります。

### 新規 Web アプリケーション・サーバー環境のサポート

以下に、Web アプリケーション・サーバー環境での新しいサポートを示します。

- **サポートされる Web アプリケーション・サーバー:** iSeries Access for Web ライセンス・プログラムでは、i5/OS V5R3 以降で実行されるロジカル・パーティションの以下の Web アプリケーション・サーバーがサポートされています。このサポートに関する最新情報については、IBM® iSeries Access for Web ホーム・ページを参照してください。
  - WebSphere® Application Server V6.0 for OS/400® (Base Edition、Express Edition、および Network Deployment Edition)
  - WebSphere Portal for iSeries V5.1.0.1
  - Workplace™ Services Express V2.5
  - WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.1
  - WebSphere Application Server V5.1 for iSeries
  - WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.0
  - WebSphere Application Server V5.0 for iSeries
  - WebSphere Portal for iSeries V5.0.2
  - ASF Tomcat
- **シングル・サインオン:** V5R4 より前の iSeries Access for Web では、HTTP 基本認証を使用して、ユーザーから iSeries ユーザー・プロファイルおよびパスワードを取得していました。このプロファイル情報は、他の iSeries Web ベース・アプリケーションと共有することができませんでした。このため、さまざまなアプリケーションによって、同じ内容のプロンプトがユーザーに対して複数回表示されることがありました。V5R4 の iSeries Access for Web では、WebSphere Application Server アプリケーション間

のシングル・サインオンを提供する WebSphere セキュリティー・モデルもサポートされています。このサポートは、iSeries Access for Web 資料では、アプリケーション・サーバー認証 と呼ばれています。

- **スタイル・シート:** iSeries Access for Web ページ・コンテンツの外観を外部のスタイル・シートで制御することができるようになりました。iSeries Access for Web に表示されるカスタマイズされたテンプレートを使用しているユーザーは、テンプレートを変更して新しいスタイル情報を含める必要があります。デフォルトの iSeries Access for Web とは異なる外観が必要なユーザーは、独自のスタイル・シートを指定することができます。
- **5250 機能:** 5250 セッション・サポートでは、バイパス・サインオン、HTML キーワード・サポート、ホット・スポット・サポートなどの機能が拡張されました。
- **カスタマイズ機能:** 構成データを転送することができるようになりました。これにより、iSeries Access for Web 管理者は、5250 セッションとマクロ、保管されているコマンド、データベース要求、My Folder の項目、およびポリシーをユーザー間で転送することができるようになります。
- **データベース機能:** この機能は拡張されています。
  - **オープン・オフィス:** OpenDocument スプレッドシート・フォーマットで「SQL の実行」および「テーブルへのデータのコピー」がサポートされるようになりました。
  - **WebSphere データ・ソース:** 「カスタマイズ」で WebSphere データ・ソース名を使用して、データベース接続を作成することができるようになりました。データ・ソース接続は、iSeries Access for Web データベース機能とともに使用することができます。
  - **統合ファイル・システムの宛先:** 「SQL の実行」で iSeries 統合ファイル・システムでの SQL 結果の格納がサポートされるようになりました。
  - **照会のインポート:** 「Import Query support (照会のインポート・サポート)」を使用すると、iSeries および DB2® UDB for iSeries Query Manager 照会ファイル・コンテンツの照会を iSeries Access for Web データベース要求にインポートすることができます。
  - **Find Record (レコードの検索):** 「Find record (レコードの検索)」を使用すると、データベース・テーブルのレコードを検索し、そのレコードの内容を表示することができます。「Find record (レコードの検索)」は、「テーブル」機能のアクションです。
- **Removal of HATS LE のサポート:** Host Access Transformation Server Limited Edition (HATS LE) は 5722-XH2 iSeries Access for Web プロダクトに組み込まれなくなりました。この機能の継続使用を希望するお客様は、スタンドアロンの HATS プロダクトを購入する必要があります。詳しくは、HATS Web サイトを参照してください。

## ポータル環境の新規サポート:



以下に、ポータル環境での新規サポートを示します。

- **データベース機能:** データベース機能では、iSeries SQL 要求および iSeries SQL Results - Viewer ポートレットがサポートされるようになりました。
- **ファイル機能:** この機能には、ZIP ファイルを作成、追加、および解凍する新しい iSeries Zip ポートレットがあります。
- **その他の機能:** iSeries Credentials およびデータ保管ポートレットに新機能があります。
- **iSeries Data Store:** iSeries Access for Web Data Store には、iSeries Access ポートレットによって保管されるデータベース要求などのデータのリストが表示されます。このリストから、項目の名前変更と削除を行えます。また、保管されているデータ項目へのアクセスを変更することもできます。



## 新機能または変更点の確認方法

技術的に変更された箇所を確認できるように、以下のイメージを使用します。

-  イメージ。新しい情報または変更情報の開始を示します。
-  イメージ。新しい情報または変更情報の終了を示します。

このリリースの新機能および変更点についての詳細は、『プログラム資料説明書』を参照してください。

### 関連概念

7 ページの『セキュリティー上の考慮事項』

iSeries Access for Web でのセキュリティー上の考慮事項について説明します。

9 ページの『シングル・サインオンの考慮事項』

このトピックでは、Web アプリケーション・サーバーおよびポータル環境での iSeries Access for Web によるシングル・サインオン (SSO) に関する考慮事項をリストします。

77 ページの『デフォルト・ページ・コンテンツ』

iSeries Access for Web は、ユーザー処置への応答として、たいていのページ・コンテンツを動的に生成します。コンテンツの残りは、静的 HTML ファイルから取得されます。スタイル・シートは、コンテンツの外観の特定の特徴を制御するためにも使用されます。

---

## トピックの印刷

この情報の PDF 版を表示し、印刷します。


PDF 版をダウンロードし、表示するには、「iSeries Access for Web」を選択します。

## PDF ファイルの保存

表示用または印刷用の PDF ファイルをワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. 印刷したいトピックを右マウス・ボタンでクリックする。
2. PDF をローカルで保存するオプションをクリックする。
3. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
4. 「保存」をクリックする。

## Adobe Reader のダウンロード

1. PDF ファイルを表示したり印刷したりするには、Adobe Reader が必要です。これは、Adobe Web サイト  からダウンロードできます。

---

## iSeries Access for Web のライセンス情報

IBM eServer™ iSeries Access for Web は、ライセンス・プログラムです。iSeries Access for Web のすべてのコンポーネントを使用する前に、iSeries Access Family (5722-XW1) のライセンスを取得しておく必要があります。

**重要:** V5Rx サーバーを使用するためには、iSeries Access Family 5722-XW1 のソフトウェア・ライセンス・キーが必要です。iSeries Access は、i5/OS V5Rx ソフトウェアのすべてのオーダーに同梱されている、V5Rx キー付きメディアに含まれています。5722-XW1 を発注すると、ライセンス・キーが付与されます。5722-XW1 を発注していない場合、キー付きメディアのプロダクトを 70 日間試用することができます。70 日の評価期間が終了すると、そのプロダクトを発注してソフトウェア・

ライセンス・キーを付与されなければ、そのプロダクトは使用不可になります。ソフトウェア・ライセンス・キーは 18 桁の許可コードで、キー付きメディアのソフトウェア・プロダクトや機能を、指定した iSeries サーバーで使用できるようにするものです。

ライセンス交付は、個々のクライアント・レベルではなく、iSeries Access Family (5722-XW1) のレベルで管理されます。したがって、お持ちのライセンスの範囲内であれば、iSeries Access for Windows® クライアントと iSeries Access for Web クライアントをどのように組み合わせて使用してもかまいません。

iSeries Access ライセンスを取得したカスタマーは、iSeries Access for Windows と iSeries Access for Web クライアントを自由に組み合わせてお使いいただくことができます。

iSeries Access Family の使用限度を判別するには、以下のようにします。

1. 接続しようとしている iSeries サーバーで、WRKLICINF コマンドを入力します。プロダクトのリストが表示されます。
2. プロダクト 5722XW1 ベース (フィーチャー 5050) の隣の入力フィールドに、5 と入力します。これで、使用限度を含む iSeries Access Family の詳細が表示されます。使用限度は、iSeries Access ファミリーについて購入したライセンスの数と等しくなければなりません。購入した数を超える数については、IBM のライセンス許諾違反となります。

サーバー上にある 5722-XW1 プロダクトの使用制限を更新するには、次に示されるステップを行ってください。

1. 接続しようとしている iSeries サーバーで、WRKLICINF コマンドを入力します。プロダクトのリストが表示されます。
2. プロダクト 5722XW1 V5 (フィーチャー 5050) の隣の入力フィールドに、2 と入力します。iSeries Access 用に購入したライセンス数に使用制限を変更します。iSeries Access 用にプロセッサ・ベースのオプションを購入した場合、使用限度の値として、\*NOMAX を入力してください。購入した数を超える数を入力すると、IBM のライセンス許諾違反となります。

ライセンス・キー情報を入力するには、以下のステップに従ってください。

1. 接続しようとしている iSeries サーバーで、WRKLICINF コマンドを入力します。プロダクトのリストが表示されます。
2. プロダクト 5722XW1 オプション 1 (フィーチャー 5101) の隣の入力フィールドに、2 と入力します。ライセンス・キー情報を入力します。

## WebSphere Application Server または ASF Tomcat

WebSphere Application Server または ASF Tomcat の下で実行されている iSeries Access for Web は、同時にアクティブになる HTTP セッション数を基準にライセンス交付されます。セッションの動作は、ブラウザのインプリメンテーションに依存します。たとえば、Internet Explorer の場合、新しいインスタンスはそれぞれ新しいセッションを開始するため、各インスタンスごとに固有のライセンスが使用されます。

Mozilla の場合、新しいインスタンスはそれぞれ同じセッションを使用するため、使用するライセンスは 1 つだけです。

iSeries Access for Web のライセンスは 5 分間隔で有効期限が切れます。アイドル状態が 5 分を超えると、セッションはライセンスを解放します。ライセンスの有効期限が切れた後でアクティビティ (新しい Web ページの取得) を実行すると、新しいライセンスが使用されます。たとえば、ユーザーが i5/OS にくつかのデータを要求するために iSeries Access for Web を使用すると、ライセンスがそのセッションによって取得されて「保持」されます。ブラウザが 5 から 10 分、アイドル状態になっていると、そのセッションで使用されていたライセンスは解放されます。このブラウザから iSeries Access for Web に対して別のアクションが実行されると、新しいライセンスが要求され、使用されます。

注: ライセンスが使用されるのは、iSeries Access for Web に対するアクティビティーのみです。同じブラウザのウィンドウで別の Web サイトをブラウズした場合、新しいライセンスが要求されることはありません。

## ポータル環境

ポータル環境の下で実行される iSeries Access ポートレットは、ページで 1 回以上、または複数ページで使用することができます。ポートレットの各インスタンスは、特定の i5/OS ユーザー・プロファイルを持つサーバーに接続するように構成されます。ライセンスは、ポータル・セッション内の各固有のサーバーとユーザー・プロファイルの組み合わせに対して使用されます。

構成済み iSeries Access ポートレットを含むページがアクセスされたときにライセンスが要求されます。構成済みサーバーおよびユーザー・プロファイルがこのポータル・セッション中に要求されなかった場合のみ、各ポートレットに対してライセンスが要求されます。ポータル・セッションが終了するまで、ライセンスは保持されます。

### 関連資料

16 ページの『iSeries のソフトウェア要件』

このトピックには、iSeries Access 用の iSeries ソフトウェア要件が含まれています。

---

## iSeries Access for Web 用のプラン

iSeries Access for Web は、Web ブラウザーから i5/OS リソースおよび機能にアクセスするための、使いやすいインターフェースを備えています。i5/OS 上にインストールされ、クライアント・コードのインストール、構成、および管理を不要にします。

iSeries Access for Web は、Web アプリケーション・サーバーのインスタンスで実行される Web アプリケーションとして、およびポータル環境で実行されるポータル・アプリケーションとしてインプリメントされます。i5/OS のリソースには、このどちらかのインターフェースからアクセスすることも、また、両方からアクセスすることもできます。

## iSeries Access for Web のオフアリング

iSeries Access for Web には、Web アプリケーションとポータル・アプリケーションの 2 つのオフアリングがあります。以下のトピックを参照して、各アプリケーションについて学習し、最適なアプリケーションを選択してください。

### Web アプリケーション

iSeries Access for Web は、Web アプリケーション・サーバーのインスタンスで実行される Web アプリケーションを提供します。

Web アプリケーションは、i5/OS リソースにアクセスするための機能を提供するサブレットのセットです。各機能は、個々の Web ページとしてアクセスされます。複数の機能に同時にアクセスするには、追加のブラウザー・ウィンドウが必要です。頻繁に使用される機能にすばやくアクセスするためにブックマークを作成することができます。

Web アプリケーション・サーバーのインスタンスで実行されている Web アプリケーションは、単一サーバー上にある i5/OS リソースへのアクセスを提供します。アクセスされているサーバーが、Web アプリケーションが実行されているサーバーである必要はありません。2 番目のサーバー上にある i5/OS リソースにアクセスするには、Web アプリケーションが 2 番目の Web アプリケーション・サーバー・インスタンスで実行されている必要があります。

Web アプリケーションは、同じサーバーの複数の Web アプリケーション・サーバー・インスタンスで実行することができ、各インスタンスは、異なるサーバーにある i5/OS リソースにアクセスします。

## Web サービス提供環境

HTTP サーバーと Web アプリケーション・サーバーを結合すると、iSeries Access for Web が提供する Web アプリケーション用の Web サービス提供環境が用意されます。HTTP サーバーは、ブラウザからクライアント HTTP 要求を受信し、処理するために Web アプリケーション・サーバー・インスタンスに送付します。

サポートされる Web サービス提供環境の最新のリストについては、iSeries Access for Web の Web ページを参照してください。このページは、サポートされるすべての追加の Web サービス提供環境に関する情報で更新されています。

### 関連概念

19 ページの『ブラウザの考慮事項』

26 ページの『Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web』

iSeries Access for Web には、ブラウザ・インターフェースを介して i5/OS リソースにアクセスするための一連の Java サブレットがあります。これらのサブレットは、Web アプリケーション・サーバー環境の iSeries サーバーで実行されます。IBM WebSphere サーバーおよび ASF Tomcat アプリケーション・サーバーの両方がサポートされています。

### 関連情報

IBM WebSphere Application Server

IBM HTTP Server for iSeries

## ポータル・アプリケーション

iSeries Access for Web は、WebSphere Portal や IBM Workplace Services Express などのポータル環境で実行されるポータル・アプリケーションを提供します。

ポータル・アプリケーションは、i5/OS リソースにアクセスするための機能を提供するポートレットのセットです。各ポートレットはページの一部としてアクセスされます。ポートレットをページ上で結合して、複数の機能に同時にアクセスすることができます。各ポートレットは 1 ページ上に複数回表示できます。ポートレットは他のアプリケーションからのポートレットとページ上で結合して、i5/OS からの情報と他の情報ソースからのデータを統合することができます。

ポータル・アプリケーションは、複数サーバーにある i5/OS リソースへのアクセスを提供します。ページ上の各ポートレットは、異なるサーバーにある i5/OS リソースにアクセスできます。ポートレットが 1 ページ上で複数回表示される場合は、ポートレットの各インスタンスが異なるサーバーにアクセスできます。

## Web サービス提供環境

HTTP サーバーと WebSphere Portal などのポータル・サーバーを結合すると、iSeries Access for Web が提供するポータル・アプリケーション用の Web サービス提供環境が用意されます。HTTP サーバーは、ブラウザからクライアント HTTP 要求を受信し、処理するためにポータル環境に送付します。

サポートされるポータル環境の最新のリストについては、iSeries Access for Web の Web ページを参照してください。このページは、サポートされるすべての追加ポータル環境に関する情報で更新されています。

### 関連概念

121 ページの『ポータル環境の iSeries Access for Web』

- | 19 ページの『ブラウザーの考慮事項』
- | 関連情報
- | IBM HTTP Server for iSeries
- | iSeries 上の WebSphere Portal

## セキュリティー上の考慮事項

このトピックでは、iSeries Access for Web のセキュリティーの考慮事項について説明します。

### 認証

iSeries Access for Web では、i5/OS リソースが適切なユーザー・プロファイルでアクセスされるように、ユーザー ID が認証されている必要があります。ユーザー ID の認証方法は、Web アプリケーションとポータル・アプリケーションで異なります。

#### Web アプリケーション

Web アプリケーションは、ユーザーを認証するか、WebSphere にユーザーの認証を許可するよう構成することができます。

Web アプリケーションでは、ユーザー・プロファイルおよびパスワードを使用して、i5/OS でユーザー ID を認証します。HTTP 基本認証を使用して、ユーザー・プロファイルおよびパスワードを求めるプロンプトが出されます。HTTP 基本認証は、ユーザー・プロファイルとパスワードをエンコードしますが、暗号化は行いません。伝送中の認証情報を保護するため、セキュア HTTP (HTTPS) を使用する必要があります。

WebSphere では、アクティブ・ユーザー・レジストリーを使用してユーザー ID を認証します。WebSphere では、HTTP 基本認証またはフォーム・ベース認証を使用して、ユーザー ID およびパスワードを求めるプロンプトが出されます。HTTP 基本認証は、ユーザー ID とパスワードをエンコードしますが、暗号化は行いません。フォーム・ベース認証では、ユーザー ID とパスワードが平文で送信されます。伝送中の認証情報を保護するため、セキュア HTTP (HTTPS) を使用する必要があります。

フォーム・ベース認証を使用して、WebSphere でユーザー ID が認証されるようにすると、Web アプリケーションが WebSphere シングル・サインオン (SSO) 環境に参加できるようになります。

WebSphere でユーザー ID が認証されると、Web アプリケーションでは、エンタープライズ識別マッピング (EIM) を使用して、認証された WebSphere ユーザー ID が i5/OS ユーザー ID にマップされます。

iSeries Access for Web および EIM については、『シングル・サインオンの考慮事項』のトピックを参照してください。

WebSphere シングル・サインオンについては、適切なバージョンの Information Center で『シングル・サインオンの構成』を参照してください。WebSphere Information Center へのリンクは、IBM WebSphere Application Server の資料にあります。

#### ポータル・アプリケーション

ポータル・アプリケーションでは、ユーザー ID の認証をポータル・サーバーに依存しています。

- | ポータル・サーバーでユーザー ID が認証されると、iSeries Access ポートレットを使用することができるようになります。各ポートレットには、i5/OS リソースにアクセスするときに使用する信用証明情報を選択する編集モードのオプションがあります。以下のいずれかのオプションを選択します。



### このポートレット・ウィンドウに固有の信用証明情報を使用する

このポートレット・インスタンスの i5/OS ユーザー・プロファイルおよびパスワードが提供されます。この信用証明情報は、他のポータル・ユーザーや現行ポータル・ユーザーの他のポートレット・インスタンスが使用することはできません。

### iSeries Credentials ポートレットで設定された信用証明情報を使用する

iSeries Credentials ポートレットを使用して定義された信用証明情報のリストから i5/OS ユーザー・プロファイルおよびパスワードが選択されます。この信用証明情報は現行ポートレット・ユーザーの他のポートレット・インスタンスが使用することができますが、他のポータル・ユーザーは使用することができません。

### 管理者が設定したシステム共有信用証明情報を使用する

Credentials Vault 管理者機能を使用してポータル管理者によって定義された信用証明情報のリストから i5/OS ユーザー・プロファイルおよびパスワードが選択されます。この信用証明情報は、すべてのポータル・ユーザーが使用することができます。

### 認証済み WebSphere 信用証明情報を使用する

認証済みポータル環境のユーザー ID が、EIM を使用して i5/OS ユーザー ID にマップされます。iSeries Access for Web および EIM については、『シングル・サインオンの考慮事項』のトピックを参照してください。

WebSphere Portal でユーザー ID が認証される仕組みについては、WebSphere Portal Information Center で「**Securing your portal (ポータルの保護)**」 → 「**Security Concepts (セキュリティ概念)**」 → 「**Authentication (認証)**」と参照してください。

## 機能へのアクセスの制限

ユーザーは、iSeries Access for Web の機能へのアクセスを制限されることがあります。アクセスの制限方法は、Web アプリケーションとポータル・アプリケーションで異なります。

Web アプリケーションの機能へのアクセス制限については、『ポリシー』を参照してください。

ポータル・アプリケーションの機能へのアクセス制限については、『ポータルの役割』を参照してください。

## オブジェクト・レベルのセキュリティ

iSeries Access for Web では、i5/OS リソースにアクセスするときに、オブジェクト・レベルのセキュリティが使用されます。i5/OS ユーザー・プロファイルに適切な権限がないユーザーは、i5/OS リソースにアクセスすることができません。

## セキュア HTTP (HTTPS)

データ暗号化とクライアント/サーバー認証のため、iSeries サーバーは、Secure Sockets Layer (SSL) というセキュリティ・プロトコルを使用するように構成できます。SSL、HTTPS、およびデジタル証明書については、以下を参照してください。

- HTTP Server 資料 (HTTP server documentation)  のセキュリティおよび SSL に関する情報。
- WebSphere Application Server 資料 (WebSphere Application Server documentation)  のセキュリティおよび SSL に関する情報。
- WebSphere Portal Information Center  の「**Securing your portal (ポータルの保護)**」。

- 1 • 『デジタル証明書マネージャー』。デジタル証明書および SSL を使用して複数アプリケーションでの通信を保護するには、この情報を使用します。

## 出口プログラム

iSeries Access for Web では、以下のホスト・サーバーを広範囲に利用しています。

- サインオン
- セントラル
- リモート・コマンド / プログラム・コール
- データベース
- ファイル
- ネットワーク印刷

これらのサーバー (特にリモート・コマンド / プログラム・コール) へのアクセスを制限する出口プログラムを使用すると、iSeries Access for Web 全体、あるいはその一部が機能しなくなります。

### 関連概念

19 ページの『ブラウザの考慮事項』

76 ページの『ポリシー』

ポリシーのカスタマイズ機能は iSeries Access for Web 機能へのアクセスを制御します。個々のポリシー設定は、iSeries ユーザーおよびグループ・プロファイル・レベルで管理することができます。

137 ページの『Portal の役割』

iSeries Access ポートレットが使用する WebSphere Portal 役割の割り当てについて説明します。

### 関連情報

デジタル証明書マネージャー (DCM)

## シングル・サインオンの考慮事項

このトピックでは、Web アプリケーション・サーバーおよびポータル環境での iSeries Access for Web によるシングル・サインオン (SSO) に関する考慮事項をリストします。

iSeries Access for Web では、WebSphere SSO 環境への参加がサポートされています。有効にすると、ユーザーは、iSeries Access for Web で i5/OS リソースにアクセスするときに WebSphere 信用証明情報を提供します。ユーザーはアクティブな WebSphere ユーザー・レジストリーで認証され、認証済み WebSphere ユーザー ID の i5/OS ユーザー・プロファイルへのマップには、エンタープライズ識別マッピング (EIM) が使用されます。i5/OS ユーザー・プロファイルを使用して、必要な i5/OS リソースへのアクセスを許可します。WebSphere でのシングル・サインオンは、Web アプリケーション・サーバー環境およびポータル環境の両方でサポートされています。

WebSphere および iSeries Access for Web での SSO には、以下の構成が必要となります。

- グローバル・セキュリティーが有効な WebSphere Application Server およびユーザーを認証するアクティブ・ユーザー・レジストリー。
- WebSphere ユーザー ID の i5/OS ユーザー・プロファイルへのマッピングを可能にする EIM ドメイン構成。
- WebSphere Application Server にインストールされ、構成されている EIM Identity Token Connector (リソース・アダプター)。

## WebSphere グローバル・セキュリティ

WebSphere グローバル・セキュリティについては、適切なバージョンの WebSphere Application Server Information Center で『グローバル・セキュリティの構成』を検索してください。 WebSphere Information Center へのリンクは、IBM WebSphere Application Server の資料にあります。

### EIM ドメイン構成

EIM ドメイン構成については、『エンタープライズ識別マッピングの構成』を参照してください。

### EIM Identity Token Connector

EIM Identity Token Connector は、iSeries Access for Web で WebSphere SSO を使用可能にする場合に、WebSphere にインストールされ、構成されている必要があるリソース・アダプターです。 iSeries Access for Web アプリケーションおよびポータル・アプリケーションは、コネクタからの ID トークンを要求します。 ID トークンは、現在認証済みの WebSphere ユーザーを表す暗号化されたデータ・ストリングです。 ID トークンは、EIM 探索操作への入力です。EIM 探索操作は、認証済み WebSphere ユーザー ID を i5/OS ユーザー・プロフィールにマップします。

このコネクタは、JNDI 名が **eis/IdentityToken** および **eis/iwa\_IdentityToken** の J2C 接続ファクトリーをサポートしています。デフォルト時、iSeries Access for Web は、JNDI 名 **eis/iwa\_IdentityToken** で定義されているファクトリーの構成値を使用しようとします。このファクトリーが見つからない場合は、JNDI 名 **eis/IdentityToken** で定義されているファクトリーの構成値が使用されます。

EIM Identity Token Connector 構成については、WebSphere Application Server バージョン 6.0 Information Center で、「アプリケーションとその環境の保護」 → 「IBM WebSphere Application Server セキュリティと既存のセキュリティ・システムとの統合」 → 「EIM Identity Token Connection Factory の構成 (Configure the EIM Identity Token Connection Factory)」を参照してください。

### 構成例

Web アプリケーション・サーバー環境で SSO を使用する iSeries Access for Web の構成例については、『シングル・サインオンを使用する WebSphere Application Server V6.0 for OS/400』を参照してください。

ポータル・アプリケーション環境で SSO を使用する iSeries Access for Web の構成例については、『シングル・サインオンを使用する WebSphere Portal - Express for Multiplatforms V5.0.2 (iSeries)』を参照してください。

#### 関連概念

143 ページの『IFrame』

iSeries Access for Web IFrame ポートレットを使用すると、ポータル環境から iSeries Access for Web サブレット機能にアクセスすることができます。

88 ページの『ログイン・テンプレート』

パラメーターを使用しないで iSeries Access for Web メインページにアクセスすると、メインページが表示されます。

77 ページの『デフォルト・ページ・コンテンツ』

iSeries Access for Web は、ユーザー処置への応答として、たいていのページ・コンテンツを動的に生成します。コンテンツの残りは、静的 HTML ファイルから取得されます。スタイル・シートは、コンテンツの外観の特定の特徴を制御するためにも使用されます。

#### 関連タスク



33 ページの『シングル・サインオンを使用する WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 の構成』

この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。ここでは、シングル・サインオン (SSO) を使用可能にして、WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 環境で iSeries Access for Web を実行するために必要なすべてのステップを説明します。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。

129 ページの『シングル・サインオンを使用する WebSphere Portal - Express for Multiplatforms V5.0.2 (iSeries) の構成』

この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。 WebSphere Portal Web サービス環境で、シングル・サインオン (SSO) を使用可能にした iSeries Access for Web を実行するために必要なすべてのステップについて説明しています。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。

#### 関連資料

26 ページの『Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web の構成』

iSeries Access for Web を iSeries サーバーにインストールしても、それだけでは使用可能になりません。 iSeries Access for Web を使用するためには、Web アプリケーション・サーバー (WebSphere または ASF Tomcat) に構成する必要があります。

123 ページの『ポータル環境での iSeries Access for Web の構成』

ポータル環境で iSeries Access for Web を構成するのに必要なステップに従います。

#### 関連情報

EIM (エンタープライズ識別マッピング)

#### エンタープライズ識別マッピングの構成:

WebSphere および iSeries Access for Web でシングル・サインオン (SSO) を使用可能にするには、EIM (エンタープライズ識別マッピング) を構成する必要があります。このトピックでは、EIM を構成するステップの概要を説明します。このステップは、EIM 環境をプランおよび構成する際の管理者のガイドとして意図されています。

EIM は、iSeries ナビゲーターのネットワーク・サブコンポーネントの一部です。 EIM についての情報は、『EIM (エンタープライズ識別マッピング)』トピックを参照してください。 EIM の構成は、以下のステップから構成されます。

- EIM ドメインを作成する。ステップ 1 を参照してください。
- ドメイン管理に EIM ドメインを追加する。ステップ 2 (12 ページ) を参照してください。
- EIM ソース・ユーザー・レジストリーを作成する。ステップ 3 (13 ページ) を参照してください。
- 各ユーザーの EIM ID を作成する。ステップ 4 (13 ページ) を参照してください。
- EIM ID にアソシエーションを追加する。ステップ 5 (13 ページ) を参照してください。

**EIM (エンタープライズ識別マッピング) を構成するためのステップは、以下のとおりです。**

1. EIM ドメインを作成する。 EIM ドメイン情報は Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリー・サーバーに格納されています。 EIM ドメインを作成するには、LDAP 管理者の識別名およびパスワードが必要です。 EIM ドメインを作成するには、以下のステップに従ってください。
  - a. iSeries ナビゲーターで、<ServerName> → 「ネットワーク」 → 「エンタープライズ識別マッピング」と展開する。
  - b. 「構成」を右クリックし、「構成」(または EIM が以前に構成されている場合は「再構成」)を選択して、EIM 構成ウィザードを開始する。

- c. 「ウェルカム」 ページで、「新規ドメインの作成と結合」を選択する。「次へ」を選択します。
- d. 「EIM ドメイン・ロケーションの指定」 ページで、以下のいずれかを適切に選択する。
  - 「ローカル・ディレクトリー・サーバーで」
  - 「リモート・ディレクトリー・サーバーで」
 「次へ」を選択します。

- e. 「ネットワーク認証サービスの構成」 ページで、「いいえ」を選択する。「次へ」を選択します。

注: ネットワーク認証サービスは、WebSphere 環境の EIM には必要ありません。ネットワーク認証サービスについて詳しくは、『ネットワーク認証サービス』トピックを参照してください。

- f. 「接続用のユーザーの指定」または「ディレクトリー・サーバーの構成」 ページのいずれかが表示されます。「ディレクトリー・サーバー・ポート番号」と同様に、ディレクトリー・サーバー管理者の「識別名」および「パスワード」を適切に指定します。次に例を示します。

識別名: cn=administrator

パスワード: myadminpwd

ポート: 389

「次へ」を選択します。

- g. 「ドメインの指定」 ページで、EIM ドメインの名前を入力する。例: ドメイン: EimDomain 「次へ」を選択します。
  - h. 「ドメインの親 DN を指定」 ページで、「いいえ」を選択する。「次へ」を選択します。
  - i. ディレクトリー・サーバーがアクティブな場合、変更が有効になるようにディレクトリー・サーバーを終了し、再始動することを示すメッセージが表示されます。ディレクトリー・サーバーを再始動するには、「はい」を選択します。
  - j. 「レジストリー情報」 ページで、「ローカル OS/400」を選択し、「Kerberos」を選択解除する。ローカル OS/400 レジストリー名を書き留めます。このレジストリー名は、EIM ID 用のアソシエーションを作成する際に使用されます。例: MYISERIES.MYCOMPANY.COM 「次へ」を選択します。
  - k. 「EIM システム・ユーザーの指定」 ページで、オペレーティング・システム機能の代わりに EIM 操作を実行する際にディレクトリー・サーバー管理者の識別名およびパスワードを使用するようにそのデフォルトを設定する。「次へ」を選択します。
1. 「サマリー」 ページで、EIM 構成情報を確認する。「完了」を選択します。
  2. ドメイン管理に EIM ドメインを追加する。ドメイン管理に EIM ドメインを追加するには、以下のステップに従います。
    - a. iSeries ナビゲーターで、<ServerName> → 「ネットワーク」 → 「エンタープライズ識別マッピング」と展開する。
    - b. 「ドメイン管理」を右クリックして、「ドメインの追加」を選択する。
    - c. 「ドメインの追加」ダイアログで、「EIM ドメインの作成」ステップのステップ 1g で指定した EIM ドメイン名を選択する。例:EimDomain。「OK」を選択します。
    - d. iSeries ナビゲーターにドメインが追加されます。ドメイン名の横の + を選択してドメインを展開します。
    - e. 「EIM ドメイン・コントローラーへの接続」プロンプトでディレクトリー・サーバー管理者の識別名およびパスワードを指定する。
    - f. 「ユーザー・レジストリー」および「ID」という 2 つのサブカテゴリーが表示されます。

3. EIM ソース・ユーザー・レジストリーを作成する。 EIM ソース・ユーザー・レジストリーを作成するには、以下のステップに従います。
  - a. iSeries ナビゲーターで、<ServerName> → 「ネットワーク」 → 「エンタープライズ識別マッピング」 → 「ドメイン管理」 → <DomainName> → 「ユーザー・レジストリー」と展開する。
  - b. 「ユーザー・レジストリー」を右クリックして、「レジストリーの追加」 → 「システム」と選択する。
  - c. 「システム・レジストリーの追加」ダイアログで、レジストリー名を入力する。 例: レジストリー: WebSphereUserRegistry
  - d. レジストリー・タイプ選択リストから「LDAP - ショート・ネーム」を選択する。 レジストリー・タイプ「LDAP - ショート・ネーム」は、V5R4M0 より前のリリースの iSeries ナビゲーターでは使用不可です。前のリリースの iSeries ナビゲーターを使用している場合は、レジストリー・タイプとして 1.3.18.0.2.33.14-caseIgnore を指定します。これは、LDAP ショート・ネーム属性で識別されるプリンシパルを持つレジストリー・タイプの ObjectIdentifier-normalization (OID) フォームです。この OID は、V5R4M0 iSeries ナビゲーターでは「LDAP - ショート・ネーム」にマップされます。「OK」を選択します。
4. 各ユーザーの EIM ID を作成する。 EIM ID は、WebSphere ユーザー・レジストリーの各ユーザーごとに作成する必要があります。 WebSphere ユーザー・レジストリーに新規ユーザーが追加された場合は、EIM ID を各新規ユーザーごとに作成する必要があります。 WebSphere ユーザー・レジストリーのユーザー用の EIM ID を作成するには、以下のステップに従います。
  - a. iSeries ナビゲーターで、<ServerName> → 「ネットワーク」 → 「エンタープライズ識別マッピング」 → 「ドメイン管理」 → <DomainName> → 「ID」と展開する。
  - b. 「ID」を右クリックして、「新規 ID」を選択する。
  - c. 「新規 EIM ID」ダイアログで、固有 ID 名およびオプションの説明を入力する。 例: Thomas R. Smith。「OK」を選択します。
  - d. iSeries Access for Web を使用する各 WebSphere ユーザーごとにステップ 4b および 4c を繰り返します。
5. EIM ID にアソシエーションを追加する。 各 EIM ID は 2 つの EIM アソシエーションを必要とします。このアソシエーションは、WebSphere ユーザー ID (ソース ID) を i5/OS ユーザー・プロファイル (ターゲット ID) にリンクします。 EIM ID にアソシエーションを追加するには、以下のステップに従います。 WebSphere ユーザー・レジストリーの新規ユーザーを表すために新規 EIM ID が追加された場合、このステップを繰り返して、対応する EIM アソシエーションを作成します。
  - a. iSeries ナビゲーターで、<ServerName> → 「ネットワーク」 → 「エンタープライズ識別マッピング」 → 「ドメイン管理」 → <DomainName> → 「ID」と展開する。 ID のリストが iSeries ナビゲーターの右のペインに表示されます。
  - b. ID を右クリックし、「プロパティ」を選択する。 例: Thomas R. Smith
  - c. 「アソシエーション」タブ付きページから、「追加」を選択して、WebSphere ユーザー・レジストリー・ソース・アソシエーションを追加する。
  - d. 「アソシエーションの追加」ダイアログで、以下のフィールドに値を入力する。 値を指定するか、「参照...」を選択して、既知の値のリストから選択することができます。
    - レジストリー: 「EIM ソース・ユーザー・レジストリーの作成」ステップのステップ 3c からソース・レジストリー名を指定する。 例: WebSphereUserRegistry
    - ユーザー: ユーザーの WebSphere ユーザー ID を指定する。 例: tsmith
    - アソシエーション・タイプ: ソース
 「OK」を選択します。

- e. 「アソシエーション」タブ付きページから、「追加」を選択して、i5/OS ユーザー・プロファイル・ターゲット・アソシエーションを追加する。
- f. 「アソシエーションの追加」ダイアログで、以下のフィールドに値を入力する。値を指定するか、「参照...」を選択して、既知の値のリストから選択することができます。
  - **レジストリー:** 「EIM ドメインの作成」ステップのステップ 1j (12 ページ) からターゲット・レジストリー名を指定する。例: MYISERIES.MYCOMPANY.COM
  - **ユーザー:** ユーザーの i5/OS ユーザー・プロファイル名を指定する。例: TOMSMITH
  - **アソシエーション・タイプ:** ターゲット

「OK」を選択してターゲット・アソシエーションを追加します。

- g. 「OK」を選択して、「プロパティ」ダイアログを閉じる。

#### 関連情報

EIM (エンタープライズ識別マッピング)

ネットワーク認証サービス

## チェックリスト: プラン、インストール、および構成

このチェックリストは、単純な iSeries Access for Web 環境をプラン、インストール、検査、および構成するために必要なステップを示しています。これらのステップは、他の Web アプリケーション、またはさらに複雑な Web 環境は考慮していません。

1. iSeries サーバーに、15 ページの『iSeries のハードウェア要件』でリストされている必要なハードウェアがあることを検査する。
2. iSeries サーバーに、16 ページの『iSeries のソフトウェア要件』でリストされている前提条件ソフトウェアおよび PTF があることを検査する。
3. Web ブラウザーが 19 ページの『Web ブラウザーの要件』にリストされている要件に適合することを検査する。
4. サーバーにベータ版の iSeries Access for Web がインストールされている場合は、新規リリースの iSeries Access for Web をインストールする前にそれを削除する。詳細については、21 ページの『ベータ版の削除』を参照してください。
5. 23 ページの『iSeries サーバーへの iSeries Access for Web のインストール』で説明されている手順で、iSeries Access for Web 製品および PTF を iSeries サーバーにインストールする。
6. iSeries Access for Web が提供する Web アプリケーションを使用する場合、26 ページの『Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web の構成』の手順に従ってください。

**注:** iSeries Access for Web の前のリリースからアップグレードしている場合でもこのステップは必要です。

7. iSeries Access for Web が提供するポータル・アプリケーションを使用する場合、123 ページの『ポータル環境での iSeries Access for Web の構成』の手順に従ってください。

**注:** iSeries Access for Web の前のリリースからアップグレードしている場合でもこのステップは必要です。

#### 関連概念

5 ページの『iSeries Access for Web のオファリング』  
iSeries Access for Web には、Web アプリケーションとポータル・アプリケーションの 2 つのオファリングがあります。以下のトピックを参照して、各アプリケーションについて学習し、最適なアプリケーションを選択してください。

## 関連タスク

119 ページの『Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web の保管および復元』  
iSeries Access for Web を保管し、別のサーバーに復元する方法について説明します。

## 関連資料

22 ページの『アップグレードの考慮事項』

このトピックでは、iSeries Access for Web の前のリリースからのアップグレードについて説明しま  
す。

146 ページの『ポータル環境での iSeries Access for Web の保管および復元』

iSeries Access for Web は、他の iSeries サーバーに伝搬することができますが、それを保存および復元  
する前に確認する必要があるいくつかの考慮事項があります。

## iSeries Access for Web をインストールするための前提条件

インストールを始める前に、この情報を使用して、すべてのハードウェア、ソフトウェア、および Web ブラウザー要件を満たしていることを確認してください。

### iSeries のハードウェア要件

このトピックには、iSeries Access for Web 用のサーバー・ハードウェア要件が含まれています。

### サーバー・モデル、プロセッサ機能、およびメモリー

ご使用のアプリケーション・サーバー・タイプに応じた、iSeries サーバーのために必要なサーバー・モデル、プロセッサ機能、およびサーバー・メモリーについては、以下を参照してください。

- WebSphere Application Server。

1. 適切な WebSphere Application Server バージョンおよびエディションをクリックする。
2. 「**前提条件 (Prerequisites)**」をクリックする。

- WebSphere Portal (iSeries の場合)。

1. WebSphere Portal のご使用の iSeries バージョン用の『ハードウェアおよびソフトウェア要件』に移動する。
2. 使用しているソフトウェアのリリース用の適切なリンクに従う。

- ASF Tomcat。

1. 「**Documentation**」をクリックする。
2. 「**V5Rx Information**」をクリックする。

### サーバー・ディスク・スペース

iSeries Access for Web を使用するためには、サーバー上に 470 MB の空きディスク・スペースが必要です。

#### 注:

1. iSeries Access for Web は、サーブレットとポートレットからなります。Web アプリケーション・サーバーのハードウェア要件を検討するときには、この点を考慮してください。
2. すべてのシステム構成のサイズ変更のヘルプを表示するには、IBM iSeries サポート Web ページの「**ツール (Tools)**」の下にある IBM Workload Estimator を使用する。

#### 関連概念






5 ページの『iSeries Access for Web のオフアリング』

iSeries Access for Web には、Web アプリケーションとポータル・アプリケーションの 2 つのオフアリングがあります。以下のトピックを参照して、各アプリケーションについて学習し、最適なアプリケーションを選択してください。

#### パフォーマンスの調整:

Web サービス提供環境をサポートするために必要とされる作業負荷は、従来の作業負荷環境よりも大きくなっています。Web サービス提供環境で効率的に動作するように、iSeries サーバーを調整しなければならない場合があります。

次の Web サイトでは、iSeries サーバーをこの環境用に調整するために役立つ情報が提供されています。

- IBM WebSphere Application Server for iSeries パフォーマンスの考慮 (IBM WebSphere Application Server for iSeries Performance Considerations) 。
- iSeries パフォーマンス性能ガイドライン文書 (iSeries performance capabilities guidelines documents) 。
- IBM iSeries サポート・ページ 上の「ツール (Tools)」 の下の、iSeries 用の IBM Workload Estimator 。

#### 関連概念

5 ページの『iSeries Access for Web のオフアリング』

iSeries Access for Web には、Web アプリケーションとポータル・アプリケーションの 2 つのオフアリングがあります。以下のトピックを参照して、各アプリケーションについて学習し、最適なアプリケーションを選択してください。

## iSeries のソフトウェア要件

以下の表は、iSeries Access for Web を実行するために必要となる必須およびオプションのソフトウェアを示しています。それぞれのプロダクトは、最新の修正レベルでインストールしてください。サポートされている各 Web 環境に関連した追加のソフトウェア要件があります。これらの前提条件にアクセスするために必要なステップは、表の下にリストされています。

表 1. 必須およびオプションのソフトウェア

プロダクト	オプション	説明
5722-SS1		i5/OS バージョン 5 リリース 3 以降
5722-SS1	3	拡張ベース・ディレクトリー・サポート
5722-SS1	8	AFP™ 互換フォント
5722-SS1	12	ホスト・サーバー
5722-SS1	30	QShell インタープリター
5722-SS1	34	デジタル証明書マネージャー 注: これは、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用する場合にだけ必要になります。
5722-IP1	Base	IBM Infoprint® Server 注: このソフトウェア・プロダクトは、PDF プリンター・サポートを使用する場合にのみ必要です。

表 1. 必須およびオプションのソフトウェア (続き)

プロダクト	オプション	説明
5722-JV1	Base 5 6	Java Developer Kit JDK 1.3 JDK 1.4 注: WebSphere Application Server、WebSphere Portal または ASF Tomcat の必要なバージョンの資料を参照してください。
5722-JC1	Base	Toolbox for Java
5722-TC1	Base	TCP/IP Connectivity Utilities
5722-DG1	Base	IBM HTTP Server 注: ASF Tomcat アプリケーション・サーバーは、このプロダクトの一部です。
5722-AC3	128-bit	Crypto Access Provider 128-bit for iSeries 注: <ul style="list-style-type: none"> <li>これは、V5R3 i5/OS ユーザーにのみ適用されます。</li> <li>これは、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用する場合にだけ必要になります。</li> </ul>
5722-XW1	Base オプション 1	iSeries Access iSeries Access Enablement Support
5733-W60 5722-E51 5733-W51 5722-IWE 5733-WS5	WebSphere Application Server の Web サイトを参照してください。	IBM WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 (Base Edition、Express Edition、および Network Deployment Edition) IBM WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.1 IBM WebSphere Application Server V5.1 for iSeries (Base Edition および Network Deployment Edition) IBM WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.0 IBM WebSphere Application Server V5.0 for iSeries (Base Edition および Network Deployment Edition)
		WebSphere Portal for iSeries V5.0.2.2 注: <ul style="list-style-type: none"> <li>これは、iSeries Access for Web 内で提供されるポータル・アプリケーションを使用したい場合にも必要です。WebSphere Portal for iSeries は、iSeries Access for Web で提供される Web アプリケーションの使用には必要ありません。</li> <li>サポートされているポータル環境の現行リストについては、IBM iSeries Access for Web ホーム・ページを参照してください。</li> </ul>

## WebSphere Application Server の前提条件

1. WebSphere Application Server 資料にアクセスする。
2. 適切な WebSphere Application Server のバージョンとエディションを選択する。
3. 「前提条件 (Prerequisites)」を選択する。

## WebSphere Portal (for iSeries) の前提条件

1. WebSphere Portal 資料にアクセスする。
2. 適切なバージョン・カテゴリを選択する。
3. 「**Hardware and Software Requirements (ハードウェアおよびソフトウェアの要件)**」を選択する。
4. WebSphere Portal のバージョンに適したオプションを選択する。

## ASF Tomcat の前提条件

1. HTTP Server 資料にアクセスする。
2. 「**資料 (Documentation)**」をクリックする。
3. 適切なリンクに従って、ご使用のソフトウェアのリリースの ASF Tomcat に関する概要にアクセスする。

### 関連概念

3 ページの『iSeries Access for Web のライセンス情報』

5 ページの『iSeries Access for Web のオファリング』

iSeries Access for Web には、Web アプリケーションとポータル・アプリケーションの 2 つのオファリングがあります。以下のトピックを参照して、各アプリケーションについて学習し、最適なアプリケーションを選択してください。

7 ページの『セキュリティ上の考慮事項』

このトピックでは、iSeries Access for Web のセキュリティの考慮事項について説明します。

### 関連資料

115 ページの『印刷』

iSeries Access for Web は、iSeries サーバーにあるスプール・ファイル、プリンター、プリンター共用、および出力待ち行列 にアクセスするためのサポートを提供します。また、SCS および AFP プリンター出力 を PDF 文書に自動変換するためのサポートも提供します。

## SSL の使用上の注意:

Secure Sockets Layer (SSL) は、iSeries Access for Web でサポートされています。

- 1 SSL を使用するには、適切な iSeries ソフトウェアを注文してインストールしてください。iSeries サーバーが稼働する国または地域に適した暗号化を使用していることを確認することは、ユーザーの責任になります。128 ビット・サーバーの暗号化が必要な場合は、オペレーティング・システムに応じて、適切なソフトウェアをインストールします。

i5/OS V5R3 の場合は、5722-AC3、Cryptographic Access Provider 128-bit for iSeries が必要となります。

i5/OS V5R4 の場合は、以下が必要となります。

- 5722-SS1 - デジタル証明書マネージャー (5722-SS1 オプション 34)
- 5722-DG1 - IBM HTTP Server

## PTF 要件:

- 1 必要なソフトウェアをサーバーにインストールした後、使用可能な最新の修正もロードして適用しなければなりません。



## 累積 PTF パッケージ

実行しているバージョン用の i5/OS の累積 PTF パッケージをインストールしてから、他のすべての修正をインストールするようにしてください。最新の i5/OS 累積 PTF パッケージをインストールしてから、WebSphere Application Server、WebSphere Portal、または ASF Tomcat のグループ PTF をインストールするようにしてください。

## WebSphere Application Server

WebSphere PTF はグループ PTF として出荷されます。これらのグループ PTF には、異なるソフトウェア・プロダクトにおいて、WebSphere を指定された修正レベルにするために必要なすべての修正が含まれています。適切な PTF を取得するには、WebSphere Application Server PTF (WebSphere application Server PTFs) Web ページを参照して、オペレーティング・システムのバージョンおよび WebSphere を選択します。

## WebSphere Portal - Express for iSeries V5.0.2

iSeries Access for Web を使用するには、WebSphere Portal - Express for iSeries が少なくとも修正レベル 5.0.2.2 になっている必要があります。修正情報にアクセスするには、iSeries での WebSphere Portal のサポート・ページを参照してください。

## ASF Tomcat および HTTP Server for iSeries

ASF Tomcat Web アプリケーション・サーバーは、IBM HTTP Server for iSeries ライセンス・プログラムの一部です。ASF Tomcat の PTF は、IBM HTTP Server for iSeries のグループ PTF に含まれて出荷されます。これらのグループ PTF には、HTTP Server を指定された修正レベルにするために必要なすべての修正が含まれています。適切なグループ PTF を取得するには、「HTTP Server: PTF およびサポート (HTTP Server: PTFs and Support)」ページを参照して、オペレーティング・システムのバージョンに対応したリンクに従います。

## Web ブラウザーの要件

次のブラウザーが iSeries Access for Web でテストされています。

- Firefox 1.0.2 (Windows および Linux®)
- Service Pack 1 を適用済みの Internet Explorer 6.0 (Windows)
- Mozilla 1.7 (Windows、Linux、および AIX®)
- Opera 7.54 (Windows および Linux)

現行の HTTP、HTML、および CSS 仕様をサポートする他のブラウザー (上記ならびに他のプラットフォーム用) も動作するはずですが、iSeries Access for Web でのテストは行っていません。

iSeries Access for Web を使用するためには、ブラウザー・セッション中に存続し、発信元のサーバーに戻される Cookie を、ブラウザーが受け入れるように構成する必要があります。Cookie の詳細については、ご使用のブラウザーのヘルプ情報を参照してください。

**ブラウザーの考慮事項:** このトピックには、iSeries Access for Web でのブラウザーに関する考慮事項が含まれています。

### ブラウザー・プラグイン

iSeries Access for Web によって戻されるコンテンツの中には、ブラウザー・プラグインまたは別のアプリケーションがなければ表示できないものがあります。

## Opera 6.0 ブラウザー

Opera 6.0 ブラウザーでは、PDF 文書にアクセスするために使用された URL にパラメーターが含まれている場合、Adobe Acrobat Reader プラグインを使用して PDF 文書を表示することができません。

## Web アプリケーション

以下の考慮事項は、iSeries Access for Web が提供する、ポータル・アプリケーションではなく、Web アプリケーションに適用されます。

### コンテンツ・タイプ (MIME タイプ) マッピング

ファイルをブラウザーにダウンロードする場合、iSeries Access for Web は、ファイル拡張子を使用して、ファイル・コンテンツ・タイプ (MIME タイプ) を判断しています。ファイル・コンテンツ・タイプは、情報をどのようにレンダリングすれば最善なのかを判断するためにブラウザーにより使用されています。iSeries Access for Web は、含まれているファイル拡張子とファイル・コンテンツ・タイプのマッピングを拡張したり、指定変更するための方法を備えています。詳細は、『ファイルの考慮事項』のコンテンツ・タイプ (MIME タイプ) マッピングを参照してください。

### ファイルのダウンロード時の「名前を付けて保存」ウィンドウの強制表示

Microsoft® Internet Explorer およびiSeries Access for Web の機能のいずれかを使用してファイルをブラウザーにダウンロードする場合、Internet Explorer が、ファイルを保管する機会を与えないでブラウザー・ウィンドウにファイルの内容を表示することがしばしばあります。Internet Explorer は、ファイル内のデータを検査し、ブラウザー・ウィンドウ内にデータを表示できるかどうか判別します。この問題に対処するには、『ファイルの考慮事項』のファイルのダウンロード時の「名前を付けて保存」ウィンドウの強制表示を参照してください。

### ログアウト

HTTP 基本認証は、ユーザーをログアウトする手段を持っていません。ブラウザーからユーザー ID をクリアするにはすべてのブラウザー・ウィンドウを閉じる必要があります。

### ブックマーク

Web アプリケーションのページには、簡単にアクセスできるようにブックマークを付けることができます。ウィザードの場合は、先頭ページにしかブックマークを付けられません。

**レルム** 「レルム」という用語は、HTTP 基本認証を使用してユーザー名とパスワードのプロンプトを表示するときに、一部のブラウザーで使用されている用語です。Web アプリケーションがユーザー ID を認証するように構成されている場合、レルムは、アクセスしている i5/OS リソースを含むサーバーのホスト名です。

**URL** Web アプリケーションのメインページにアクセスするには、`http://<server_name>/webaccess/iWAMain` を使用します。ホーム・ページにアクセスするには、`http://<server_name>/webaccess/iWAHome` を使用します。このページの両方をカスタマイズすることができます。

### 関連概念

5 ページの『Web アプリケーション』

iSeries Access for Web が提供する Web アプリケーションについて説明します。

6 ページの『ポータル・アプリケーション』

iSeries Access for Web が提供するポータル・アプリケーションについて説明します。

7 ページの『セキュリティ上の考慮事項』

iSeries Access for Web でのセキュリティ上の考慮事項について説明します。

77 ページの『デフォルト・ページ・コンテンツ』

iSeries Access for Web でカスタマイズされたページ・コンテンツを生成する方法について説明します。

## 関連情報

IBM WebSphere Application Server

IBM HTTP Server for iSeries

## ベータ版の削除

V5R4 iSeries Access for Web がリリースされる以前は、このソフトウェア・プロダクトはベータ版として使用可能になっていました。iSeries Access for Web の正式リリースをインストールする前に、iSeries サーバーからベータ版構成を削除し、プロダクトを削除する必要があります。

ベータ版がインストールされているかどうかを判別するためには、ライセンス・プログラムのバージョンを調べてください。ライセンス・プログラムのバージョンを調べるには、次のようにします。

1. サーバー・コマンド `DSPF STMF('/QIBM/ProdData/Access/Web2/config/prodinfo.properties')` を実行して製品情報を表示します。
2. `/QIBM/ProdData/Access/Web2/config/prodinfo.properties` で、次の行を調べます。

```
| vrm=5.4.0  
| fix=Beta-1
```

vrm が 5.4.0 になっていて、fix が Beta- で始まる場合には、ベータ版が実行されています。

ベータ版の除去は、次のようにして行います。

1. サーバーにサインオンする。
2. `QIWA2/RMVACCWEB2` コマンドを使用して、Web アプリケーション・サーバーおよびポータル・サーバーから構成情報を除去する。

```
| 注: 何が構成されているかを思い出せない場合には、  
| /QIBM/UserData/Access/Web2/config/instances.properties ファイルに、Web アプリケーション・サー  
| バーのバージョン、インスタンスまたはプロファイル、および構成されたアプリケーション・サー  
| バーがリストされています。instances.properties にリストされている値を RMVACCWEB2 コマン  
| ドの入力データとして使用し、表示された説明に従ってください。
```

3. 次のコマンドを実行する。DLTLICPGM LICPGM(5722XH2)
4. ディレクトリー `/QIBM/UserData/Access/Web2/logs` 内のすべてのファイルを削除する。
5. iSeries Access for Web のベータ版の使用時に作成されたユーザー・データを保持するかどうかを決定する。iSeries Access for Web によって作成されるユーザー・データは、ユーザー・ポリシーおよび設定、5250 セッションおよびマクロ、5250 キーパッド、データベース要求、保管済みコマンド、マイ・フォルダー項目、などのいずれかまたはすべてになります。ユーザー・データを iSeries Access for Web のベータ版または他のサポートされるリリースから離しておくこと、iSeries Access for Web の新規インストールで情報を再利用することができます。

```
| ベータ版の使用時に作成されたユーザー・データを使用しない場合は、iSeries Access for Web のベ  
| タ版で使用されるインスタンスに一致する /QIBM/UserData/Access/Web2 ディレクトリーを削除しま  
| す。使用しない、iSeries Access for Web の前のサポートされるリリースからのユーザー・データを持  
| っている場合も、そのディレクトリーを同じように削除することができます。
```

```
| ユーザー・データを使用する場合は、/QIBM/UserData/Access/Web2 ディレクトリーから何も削除しない  
| てください。iSeries Access for Web のベータ版および正式リリースで同じ Web アプリケーション・
```

サーバー・インスタンスを使用している場合、既存のユーザー・データが自動的に利用されます。新規の Web アプリケーション・サーバー・インスタンスを使用して、既存のユーザー・データを再利用する場合は、新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項のトピックを参照してください。

6. iSeries Access for Web のベータ版の使用時に作成されたユーザー・データを使用するかどうかを決定し、以下のいずれかを実行する。
  - ユーザー・データを使用しない場合、ディレクトリー /QIBM/UserData/Access/Web2 を削除する。
  - ユーザー・データを使用する場合、iSeries Access for Web の公式リリースを構成する際に、適切な値を指定する。CFGACCWEB2 コマンドを使用する場合、ステップ 2 (21 ページ) で RMVACCWEB2 に入力されたのと同じ値を入力します。
7. /QIBM/ProdData/Access/Web2 ディレクトリーが存在していないことを確認する。存在している場合には、削除してください。

#### 関連資料

76 ページの『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』

iSeries Access for Web を Web アプリケーション・サーバー用に構成し、新規の Web アプリケーション・サーバーを環境に追加するときに、この情報を使用します。

#### 関連情報

RMVACCWEB2 CL コマンド

## アップグレードの考慮事項

このトピックでは、iSeries Access for Web の前のリリースからのアップグレードについて説明します。

### アップグレード処理

iSeries Access for Web を前のリリースからアップグレードするには、2 つのステップを実行します。

1. iSeries サーバーに新しいリリースの iSeries Access for Web をインストールする。プロダクトの前のリリースが上書きされます。
2. iSeries Access for Web を構成または再構成する。これにより、新しいリリースで提供されている新規機能が使用可能になり、すべての既存のユーザー生成データが保持されます。

### ポータル環境の考慮事項

元のポータルの構成時に iSeries Access for Web デフォルト・ページを作成した場合は、このページを変更した場合に、アップグレードにおいてデフォルト・ページを再作成しないようにすることをお勧めします。このページを再作成すると、カスタマイズおよび構成設定がすべて失われます。

ページ作成オプションは、iSeries Access for Web 構成コマンド CFGACCWEB2 のパラメーターです。デフォルト・ページを再作成しない場合は、WPDFTPAG(\*NOCREATE) を指定します。デフォルト・ページを作成するには、WPDFTPAG(\*CREATE) を指定します。CFGACCWEB2 コマンドおよびそのパラメーターについて詳しくは、ヘルプ・テキストを参照してください。

**注:** IBM Web Administration for iSeries ウィザード・インターフェースを使用してポータル・インスタンスを作成し、iSeries Access for Web ポートレットを配置した場合は、iSeries Access for Web のデフォルト・ページが自動的に作成されています。

## | V5R1 iSeries Access for Web からのアップグレード

| サーバーに V5R1 iSeries Access for Web (5722-XH1) がインストールされている場合は、V5R4 iSeries  
| Access for Web (5722-XH2) をインストールしても V5R1 のインストールには影響を与えません。 V5R1  
| および V5R4 の iSeries Access for Web は、同じサーバーに共存できます。

| CFGACCWEB2 コマンドを使用して V5R4 iSeries Access for Web を構成する場合、このコマンドを初め  
| て実行するときに、次の処理が自動的に実行されます。

- | • V5R1 iSeries Access for Web のユーザー生成データが V5R4 iSeries Access for Web ディレクトリー構  
| 造にコピーされる。
- | • V5R1 iSeries Access for Web のポリシー情報が V5R4 iSeries Access for Web 構成にコピーされる。
- | • V5R1 iSeries Access for Web のファイル・コンテンツ・タイプ (MIME タイプ) マッピングが V5R4  
| iSeries Access for Web 構成にコピーされる。

| これらの処理が自動的に行われないようにするには、CFGACCWEB2 コマンドを実行する前に以下のステ  
| ップを実行してください。

- | 1. ファイル /QIBM/UserData/Access/Web2/config/migration.properties を作成する。
- | 2. エディターを使用して、was35migrationrun=true を migration.properties ファイルに追加する。

### | 関連概念

| 14 ページの『チェックリスト: プラン、インストール、および構成』

| このチェックリストは、単純な iSeries Access for Web 環境をプラン、インストール、検査、および構  
| 成するために必要なステップを示しています。これらのステップは、他の Web アプリケーション、ま  
| たはさらに複雑な Web 環境は考慮していません。

### | 関連タスク

| 24 ページの『iSeries Access for Web のインストール』

| サーバーに iSeries Access for Web をインストールするには、以下の手順に従います。

### | 関連資料

| 26 ページの『Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web の構成』

| iSeries Access for Web を iSeries サーバーにインストールしても、それだけでは使用可能になりませ  
| ん。 iSeries Access for Web を使用するためには、Web アプリケーション・サーバー (WebSphere また  
| は ASF Tomcat) に構成する必要があります。

| 123 ページの『ポータル環境での iSeries Access for Web の構成』

| ポータル環境で iSeries Access for Web を構成するのに必要なステップに従います。

### | 関連情報

| CFGACCWEB2 CL コマンド

---

## iSeries サーバーへの iSeries Access for Web のインストール

V5R4 iSeries Access for Web は、i5/OS V5R3 以降のリリースにインストールすることができます。

これ以前のリリースのサーバーを使用している場合は、『i5/OS および関連するソフトウェアのインストー  
ル、アップグレード、および削除』を参照し、サポートされているリリースにサーバーをアップグレードす  
る方法に関する説明をご覧ください。 i5/OS の新規リリースをインストールする必要がある場合は、  
iSeries Access for Web をインストールする前に新規リリースをインストールします。



- 注: iSeries サーバーをインストールするには、プロファイルに正しい特殊権限が必要になります。
- \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、\*SECADM の特殊権限を持つ必要があります。このセキュリティ・レベルが必要なのはインストールと構成のためだけであり、通常の iSeries Access for Web の使用には必要ありません。

#### 関連資料

16 ページの『パフォーマンスの調整』

Web サービス提供環境で効率良く動作するための iSeries サーバーの調整について説明します。

#### 関連情報

i5/OS および関連ソフトウェアのインストール、アップグレード、および削除

## iSeries Access for Web のインストール

サーバーに iSeries Access for Web をインストールするには、以下の手順に従います。

iSeries サーバーへの iSeries Access for Web (5722-XH2) のインストールでは、以下のことが行われます。

- 既にインストールされているリリースの iSeries Access for Web が上書きされる。
- 必須ライブラリー QIWA2 が作成される。
- 統合ファイル・システムで次のディレクトリー構造がセットアップされる。
  - /QIBM/ProdData/Access/Web2/...
  - /QIBM/UserData/Access/Web2/...
- インストール・メディアから iSeries サーバーにファイルがコピーされる。
- HTTP サーバー内または Web アプリケーション・サーバー内では、どのような構成も行われない。
- サーバーでは、どのようなジョブも開始または終了されない。

iSeries Access for Web をサーバーにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. iSeries サーバーに \*SECOFR 権限でサインオンする。
2. 前のリリースの iSeries Access for Web が 現在インストールされていて、Web アプリケーション・サーバー・インスタンス (WebSphere または ASF Tomcat) で実際に実行されている場合には、その Web アプリケーション・サーバー・インスタンス または iSeries Access for Web の Web アプリケーションを停止する必要があります。実行中のアプリケーションを停止するには、QIWA2/ENDACCWEB2 コマンドまたは Web アプリケーション・サーバーの管理コンソールを使用してください。
3. WRKACTJOB SBS(QSYSWRK) サーバー・コマンドを使用して、QSYSWRK サブシステムで実行されているすべてのジョブを表示する。QIWAPDFSRV ジョブが実行されている場合には、OPTION(\*IMMED) パラメーターでオプション 4 を使用して終了させてください。
4. ライセンス・プログラムが入っているメディアをインストール装置にロードする。ライセンス・プログラムが数種のメディアに入っている場合、どれをロードしてもかまいません。
5. iSeries コマンド・プロンプトに RSTLICPGM と入力し、「F4」を押してコマンドのプロンプトを表示させる。
6. 「インストール・オプション」画面に次の値を指定し、「実行」を押します。

表2. ライセンス・プログラムのインストール値

パラメーター名	パラメーター・キー	値
プロダクト	LICPGM	5722XH2
装置	DEV	OPT1 など
リストアされるオプション部分	OPTION	*BASE

ライセンス・プログラムがインストールされます。ライセンス・プログラムが複数のボリュームにわたっている場合、インストール・プログラムは新しいボリュームのロードを要求してきます。次のメディア・ボリュームをロードし、G を押してから、「実行」を押します。それ以上のメディア・ボリュームがない場合は、X を押してから、「実行」を押します。

注:

1. V5R1 iSeries Access for Web (5722-XH1) がすでにサーバーにインストールされている場合、V5R4 iSeries Access for Web (5722-XH2) をインストールしても V5R1 インストール・システムに影響はありません。V5R1 および V5R4 の iSeries Access for Web は、同じサーバーに共存できます。
2. iSeries Access for Web をインストールすると、その後、インストールされたライセンス・プログラムのリストに「5722-XH2 iSeries Access for Web」が表示されます。サーバー・コマンド GO LICPGM を使用し、オプション 10 を選択して、このリストを表示できます。
3. iSeries Access for Web をインストールしても、サーバー上で構成が行われたり、ジョブが開始されたりすることはありません。この構成は、使用する Web アプリケーション・サーバーまたはポータル・サーバーの別個のステップとして実行する必要があります。iSeries Access for Web の以前のリリースからアップグレードする場合でも、この構成を実行する必要があります。

#### 関連資料

22 ページの『アップグレードの考慮事項』

このトピックでは、iSeries Access for Web の前のリリースからのアップグレードについて説明します。

26 ページの『Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web の構成』

iSeries Access for Web を iSeries サーバーにインストールしても、それだけでは使用可能になりません。iSeries Access for Web を使用するためには、Web アプリケーション・サーバー (WebSphere または ASF Tomcat) に構成する必要があります。

123 ページの『ポータル環境での iSeries Access for Web の構成』

ポータル環境で iSeries Access for Web を構成するのに必要なステップに従います。

#### 関連情報

ENDACCWEB2 CL コマンド

## | iSeries Access for Web PTF のインストール

| iSeries Access for Web をサーバーにインストールした後、使用可能な最新の修正もロードして適用しなければなりません。

| iSeries Access for Web Service Pack PTF の情報は、iSeries Access for Web の Service Pack (PTF) 入手 | iSeries Access for Web Service Packs (PTFs) Available) ページにあります。このページ上で、iSeries Access | for Web 用の入手可能な最新の PTF、他の潜在的に関連する PTF、および修正を入手する方法を決定でき | ます。

| 注: iSeries Access for Web PTF をインストールするためのサーバー・コマンド「PTF のロード | (LODPTF)」および「PTF の適用 (APYPTF)」を使用しても、PTF で配布された修正を使用可能にでき | ません。PTF をロード、適用する前には、iSeries Access for Web PTF カバー・レターを常に確認し | て、修正を使用可能にするために必要な指示を読んでください。

## | iSeries Access for Web ポータル・ページ

| CFGACCWEB2 コマンドは、iSeries Access for Web ポートレットを WebSphere Portal 環境に配置するた | めに使用されます。CFGACCWEB2 コマンドの WPDFTPAG(\*CREATE) パラメーターは、デフォルトの

l iSeries Access for Web ポータル・ページを作成し、そのページに iSeries Access for Web ポートレットを追加します。ポートレットを使用する場合、まず構成する必要があります。ポートレット用の構成データは、ポートレットが存在するページに関連付けられています。

l WebSphere Portal 環境用の iSeries Access for Web PTF がサーバーにインストールされた場合、CFGACCWEB2 コマンドが実行され、ポートレットが WebSphere Portal 環境に再配置されます。CFGACCWEB2 コマンドで WPDFTPAG(\*NOCREATE) パラメーターを指定することをお勧めします。このパラメーターは、iSeries Access for Web ポートレットは再配置しますが、デフォルトの iSeries Access for Web ポータル・ページは再作成しません。これによって、iSeries Access for Web ポートレットおよびポータル・ページ用の構成およびカスタマイズ設定が保存されます。CFGACCWEB2 コマンドで WPDFTPAG(\*CREATE) が指定された場合、デフォルトの iSeries Access for Web ポータル・ページが再作成され、これらのページに関連するすべてのポートレット構成情報が失われます。

#### 関連概念

l 121 ページの『ポータル環境の iSeries Access for Web』  
ポータル環境で iSeries Access for Web を構成、カスタマイズ、使用、および保管する方法について説明します。

---

## Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web

iSeries Access for Web には、ブラウザ・インターフェースを介して i5/OS リソースにアクセスするための一連の Java サブレットがあります。これらのサブレットは、Web アプリケーション・サーバー環境の iSeries サーバーで実行されます。IBM WebSphere サーバーおよび ASF Tomcat アプリケーション・サーバーの両方がサポートされています。

以下のトピックでは、この環境でのプロダクトの構成、カスタマイズ、使用、および保管について説明します。

#### 関連概念

5 ページの『Web アプリケーション』  
iSeries Access for Web が提供する Web アプリケーションについて説明します。

## Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web の構成

iSeries Access for Web を iSeries サーバーにインストールしても、それだけでは使用可能になりません。iSeries Access for Web を使用するためには、Web アプリケーション・サーバー (WebSphere または ASF Tomcat) に構成する必要があります。

注: 前のリリースから iSeries Access for Web をアップグレードしている場合でも、構成を行って、新機能を使用可能にする必要があります。

### 構成コマンド

iSeries Access for Web には、サーバーで構成を実行したり管理するためのコマンドが備わっています。Web アプリケーション・サーバー内の iSeries Access for Web 構成の構成、開始、終了、および除去などの処理を行うためには、これらのコマンドを使用する必要があります。

CL コマンドおよびスクリプト・コマンドの両方が提供されます。CL コマンドはライブラリー QIWA2 にインストールされます。スクリプト・コマンドは、/QIBM/ProdData/Access/Web2/install にインストールされ、QShell 環境内で使用することができます。



iSeries Access for Web CL コマンドには次のようなものがあります。

- CFGACCWEB2: iSeries Access for Web アプリケーション・サーバーを構成します。
- STRACCWEB2: iSeries Access for Web アプリケーション・サーバーを始動します。
- ENDACCWEB2: 実行中の iSeries Access for Web アプリケーション・サーバーを終了します。
- RMVACCWEB2: iSeries Access for Web アプリケーション・サーバーを除去します。

iSeries Access for Web スクリプト・コマンドには次のようなものがあります。

- cfgaccweb2: iSeries Access for Web アプリケーション・サーバーを構成します。
- straccweb2: iSeries Access for Web アプリケーション・サーバーを始動します。
- endaccweb2: 実行中の iSeries Access for Web アプリケーション・サーバーを終了します。
- rmvaccweb2: iSeries Access for Web アプリケーション・サーバーを除去します。

注: WebSphere アプリケーション・サーバー・インスタンス用の構成コマンドを使用しているときに、構成コマンドが起動される場合は、アプリケーション・サーバー・インスタンスは実行中でなければなりません。ASF Tomcat アプリケーション・サーバーを使用している場合は、構成コマンドが起動されるときに、アプリケーション・サーバー・インスタンスが実行されていないようにすることをお勧めします。

異なるタイプのコマンドを提供することによって、最も使いやすいインターフェースを使用して iSeries Access for Web を管理する柔軟性が得られます。CL コマンドとスクリプト・コマンドは同じ機能を実行しますが、起動の仕方が異なるだけです。パラメーターも同じですが、入力方法が異なります。

## コマンド・ヘルプ

CL コマンド用のヘルプにアクセスするには複数の方法があります。コマンド行にコマンド名を入力して F1 を押します。あるいは、コマンド名を入力して F4 を押し、コマンドにプロンプトを出してから、任意のフィールドにカーソルを移動して F1 を押し、そのフィールドのヘルプを表示します。

スクリプト・コマンドに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。例えば、コマンド STRQSH を実行して QShell セッションを開始します。次に、コマンド /QIBM/ProdData/Access/Web2/install/cfgaccweb2 -? を入力します。

## 構成シナリオ

ユーザーが Web サービス提供環境に慣れていないで、HTTP および Web アプリケーション・サーバーを作成する必要がある場合、または iSeries Access for Web 用の新規の Web 環境を作成する場合は、プロセス全体を説明した例が使用できます。

ユーザーが Web サービス提供環境に慣れていて、HTTP および Web アプリケーション・サーバーを既に作成しており、使用準備ができている場合は、iSeries Access for Web コマンドを起動する方法およびコマンドに何を入力するかを示す例が使用できます。

### 関連タスク

24 ページの『iSeries Access for Web のインストール』  
サーバーに iSeries Access for Web をインストールするには、以下の手順に従います。

### 関連資料

22 ページの『アップグレードの考慮事項』  
このトピックでは、iSeries Access for Web の前のリリースからのアップグレードについて説明します。

## 関連情報

CFGACCWEB2 CL コマンド

STRACCWEB2 CL コマンド

ENDACCWEB2 CL コマンド

RMVACCWEB2 CL コマンド

## 新規 Web アプリケーション・サーバー環境の構成例

これらの例では、完全な Web サービス提供環境をセットアップする手順を段階的に説明します。

この手順では、HTTP サーバーおよび Web アプリケーション・サーバーの作成、iSeries Access for Web の構成、および iSeries Access for Web の Web ページにアクセスできるかどうかの確認について説明します。

以下の例に進む前に、チェックリストの計画、インストール、および構成が完了していることを確認してください。

### WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 の構成:

この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 環境で iSeries Access for Web を実行する場合に必要なステップをすべて説明しています。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。

Web サービス提供環境の構成は、以下のステップから構成されます。

- IBM Web Administration for iSeries インターフェース (IBM HTTP Server for iSeries としても知られる) を始動する。ステップ 1 を参照してください。
- HTTP Web サーバーおよび WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 Web アプリケーション・サーバーを作成する。ステップ 2 を参照してください。
- iSeries Access for Web を構成する。ステップ 3 (29 ページ) を参照してください。
- Web 環境を開始する。ステップ 4 (32 ページ) を参照してください。
- ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。ステップ 5 (32 ページ) を参照してください。

Web サービス環境を構成するには、以下のステップを実行します。

1. IBM Web Administration for iSeries インターフェースを開始する。
  - a. サーバーへの 5250 セッションを開始する。
  - b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでサインオンする。
  - c. サーバー・コマンド STRTCPSVR SERVER(\*HTTP) HTTPSVR(\*ADMIN) を実行して、Web 管理インターフェースを開始する。
  - d. 5250 セッションを最小化する。
2. HTTP Web サーバーと WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 Web アプリケーション・サーバーを作成する。
  - a. ブラウザーで `http://<server_name>:2001` を開く。
  - b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでログインする。

- c. 「**IBM Web Administration for iSeries**」を選択する。
- d. 「**セットアップ**」タブ付きページを選択する。
- e. 「共通タスクおよびウィザード」で、「**アプリケーション・サーバーの作成**」を選択する。
- f. 「アプリケーション・サーバーの作成」ページが開きます。「**次へ**」を選択します。
- g. **WebSphere Application Server V6.0 for OS/400** を選択してから、「**次へ**」を選択する。
- h. 「アプリケーション・サーバー名の指定」ページが開きます。「**アプリケーション・サーバー名**」では、「iwa60」を指定します。この名前が、WebSphere Web アプリケーション・サーバーの名前になります。「**次へ**」を選択します。
- i. 「HTTP サーバー・タイプの選択」ページが表示される。「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」を選択してから、「**次へ**」を選択する。
- j. 「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」ページが表示されます。
  - 「**HTTP サーバー名**」に、IWA60 と入力する。
  - 「**ポート**」に、2044 と指定する。「**次へ**」を選択します。
- k. 「**アプリケーション・サーバーで使用する内部ポートの指定**」ページが表示されます。「**範囲内の最初のポート**」では、デフォルト値を 21044 に変更します。「**次へ**」を選択します。
- l. 「**ビジネスおよびサンプル・アプリケーションの選択**」ページが表示されます。「**要約**」ページが開くまで、「**次へ**」を選択します。
- m. 「**完了**」を選択します。
- n. 「**管理**」 → 「**Application Server**」タブ付きページをアクティブにして、Web ページが再表示されます。「**インスタンス/サーバー**」で、「iwa60/iwa60 – WAS, V6.0」が「**作成中**」という状態でリストされます。この Web ページから、WebSphere Application Server を管理できます。

ページが定期的に更新されない場合は、「**作成中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。
- o. 状況が「**停止済み**」に更新されている場合、「**停止済み**」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。状況が「**開始中**」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「**開始中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。iSeries Access for Web を構成するには、WebSphere Application Server が実行されている必要があります。

**重要:**

状況が「**実行中**」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。

- p. ブラウザー・ウィンドウを最小化する。
3. iSeries Access for Web を構成する。
  - a. 5250 セッション・ウィンドウを復元する。
  - b. WebSphere Application Server が実行されているかどうかを確認するには、サーバー・コマンド WRKACTJOB SBS(QWAS6) を実行する。
  - c. IWA60 が QWAS6 サブシステムで実行中のジョブとしてリストされていることを確認する。iSeries Access for Web を構成するには、あらかじめ、WebSphere Application Server が稼働している必要があります。
  - d. Web アプリケーション・サーバーの準備ができているかどうかを確認する。
    - 1) IWA60 ジョブにオプション #5 を入力する。
    - 2) オプション #10 を入力してジョブ・ログを表示する。

- 3) F10 を押して詳細メッセージを表示する。
  - 4) メッセージ「**WebSphere application server iwa60 ready (WebSphere Application Server iwa60の準備ができました)**」がリストされていることを確認する。このメッセージは、アプリケーション・サーバーが完全に開始され、Web サービス提供の準備ができていていることを示します。
  - 5) コマンド行に戻るまで F3 を押す。
- e. iSeries Access for Web には、製品を構成するためのコマンドがあります。コマンドには、CL コマンドと QShell スクリプト・コマンドの 2 つの異なるコマンドがあります。これらのコマンドで提供および実行される機能は同じです。いずれか希望する方のコマンドを使用してください。

• **CL コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

- 1) 以下のコマンドを使用して、Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS60) WASPRF(iwa60) APPSVR(iwa60)
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

**APPSVRTYPE**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

**WASPRF**

Web アプリケーション・サーバーのどのプロファイルを構成するかをコマンドに知らせます。前のリリースの WebSphere では、WASINST パラメーターが使用されていました。WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 では、プロファイルがインスタンスの代わりに使用されます。

**APPSVR**

構成するプロファイル内の Web アプリケーション・サーバーの名前をコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、F1 を押します。

**マイグレーションに関する注:** すでに iSeries Access for Web を別の Web アプリケーション・サーバー内で使用している場合、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』のトピックを参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

- 2) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

- 3) コマンドが完了した後に F3 または Enter を押して、ディスプレイ・セッションを終了する。

• **QShell スクリプト・コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

- 1) サーバー・コマンド QSH を使用して、QShell 環境を開始する。

- 2) iSeries Access for Web ディレクトリーを現行ディレクトリーにする。以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
```

- 3) 以前に作成された Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS60 -wasprf iwa60 -appsvr iwa60
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

**-appsvrtype**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

**-wasprf**

Web アプリケーション・サーバーのどのプロファイルを構成するかをコマンドに知らせます。前のリリースの WebSphere では、-wasinst パラメーターが使用されていました。WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 では、プロファイルがインスタンスの代わりに使用されます。

**-appsvr**

構成するプロファイル内の Web アプリケーション・サーバーの名前をコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

- 4) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

- 5) コマンドが完了した後に F3 を押して、QShell セッションを終了する。

- f. コマンドが失敗したり、エラーを示したりする場合は、ログ・ファイルを参照してください。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmds.log**

高水準な原因およびリカバリー情報。翻訳済みです。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmdstrace.log**

IBM ソフトウェア・サービスの詳細なコマンド・フローが含まれ、英語版のみが提供されません。



- g. iSeries Access for Web を正常に構成した後、構成に変更内容をロードするため、WebSphere Application Server を再起動する。この処理は、後で行われます。
  - h. 5250 セッション・ウィンドウからサインオフし、ウィンドウを閉じる。
4. Web 環境を開始する。
- a. 「**IBM Web Administration for iSeries サーバー管理 (IBM Web Administration for iSeries server management)**」 ページが開いているブラウザ・ウィンドウに戻る。
  - b. 「**管理**」 → 「**Application Server**」 タブ付きページがアクティブになっているはずですが。「インスタンス/サーバー」で、「**iwa60/iwa60 – WAS, V6**」が「**実行中**」という状況でリストされます。WebSphere Application Server を停止して再起動します。
    - 1) 「**実行中**」状況の隣の赤いアイコンを選択して WebSphere サーバーを停止する。ページが定期的に更新されない場合は、「**停止中**」状況の隣の最新表示アイコンを選択してください。
    - 2) 状況が「**停止済み**」に更新されている場合は、「**停止済み**」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。
    - 3) 状況が「**開始中**」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「**開始中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

**重要:** 状況が「**実行中**」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。iSeries Access for Web は、WebSphere Application Server が起動すると、ロードおよび起動します。
  - c. 「**HTTP サーバー**」タブ付きページを選択する。
  - d. 「**サーバー**」で、「**IWA60 - Apache**」を選択する。この Apache HTTP Server の現行状況は、「**停止済み**」になっています。状況の隣の緑のアイコンを選択して、HTTP サーバーを開始します。状況が「**実行中**」に更新されます。
  - e. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。
5. ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。
- a. ブラウザーで以下のアドレスのいずれかを開き、iSeries Access for Web にアクセスする。
    - http://<server\_name>:2044/webaccess/iWAHome
    - http://<server\_name>:2044/webaccess/iWAMain
  - b. i5/OS のユーザー ID とパスワードを使用してログインする。iSeries Access for Web の初期ロードには、数秒かかることがあります。WebSphere Application Server が初めて Java クラスをロードしています。次回以降の iSeries Access for Web のロードには、これほど時間がかかりません。
  - c. iSeries Access for Web のホーム・ページまたはメインページが表示されます。
  - d. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

上記のステップに従って、以下のタスクを完了しました。

- iwa60 という名前の WebSphere Web アプリケーション・サーバーの作成。
- IWA60 という名前の HTTP サーバーの作成。
- WebSphere Application Server に対する iSeries Access for Web の構成。
- WebSphere Application Server と HTTP Web サーバーの停止と再始動。WebSphere Application Server が開始された際に iSeries Access for Web が開始されました。
- Web ブラウザーから iSeries Access for Web にアクセスできることの確認。

この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### 関連情報

CL コマンド・ファインダー

#### シングル・サインオンを使用する WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 の構成:

この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。ここでは、シングル・サインオン (SSO) を使用可能にして、WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 環境で iSeries Access for Web を実行するために必要なすべてのステップを説明します。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。

構成が完了すると、iSeries Access for Web は、認証済み WebSphere ユーザー ID を使用して、i5/OS リソースにアクセスします。iSeries Access for Web は、この環境で i5/OS のユーザー・プロファイルおよびパスワードを要求する追加のプロンプトを表示しません。

この環境は、WebSphere グローバル・セキュリティーが使用可能であることを必要とします。使用可能になっている場合、ユーザーは保護された WebSphere リソースにアクセスする際に WebSphere 証明書を提出する必要があります。構成オプションは、保護された WebSphere アプリケーションとして iSeries Access for Web を配置することを可能にします。この環境で iSeries Access for Web の機能をアクセスする際には、WebSphere 証明書が必要になります。順々に、iSeries Access for Web は、EIM (エンタープライズ識別マッピング) を使用して認証済み WebSphere ユーザーを i5/OS ユーザー・プロファイルにマップします。マップされた i5/OS ユーザー・プロファイルは、ユーザーに標準の i5/OS オブジェクト・レベル・セキュリティーを使用した i5/OS リソースに対する許可を与えるために使用されます。

Web サービス提供環境の構成は、以下のステップから構成されます。

- EIM 環境を構成する。これを行う方法については、11 ページの『エンタープライズ識別マッピングの構成』トピックを参照してください。
- IBM Web Administration for iSeries インターフェース (IBM HTTP Server for iSeries としても知られる) を始動する。ステップ 1 を参照してください。
- HTTP Web サーバーおよび WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 Web アプリケーション・サーバーを作成する。ステップ 2 (34 ページ) を参照してください。
- WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 のグローバル・セキュリティーを構成する。WebSphere グローバル・セキュリティーを構成する詳しいステップについては、「WebSphere Application Server for OS/400®, Version 6 Information Center」で「アプリケーションとその環境の保護」→「セキュリティーの管理」→「グローバル・セキュリティーの構成」と参照してください。
- iSeries Access for Web を構成する。ステップ 3 (35 ページ) を参照してください。
- Web 環境を開始する。ステップ 4 (38 ページ) を参照してください。
- ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。ステップ 5 (38 ページ) を参照してください。

Web サービス環境を構成するには、以下のステップを実行します。

1. IBM Web Administration for iSeries インターフェースを開始する。
  - a. サーバーへの 5250 セッションを開始する。
  - b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでサインオンする。

- c. サーバー・コマンド STRTCPSVR SERVER(\*HTTP) HTTPSVR(\*ADMIN) を実行して、Web 管理インターフェースを開始する。
  - d. 5250 セッションを最小化する。
2. HTTP Web サーバーと WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 Web アプリケーション・サーバーを作成する。
    - a. ブラウザーで `http://<server_name>:2001` を開く。
    - b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでログインする。
    - c. 「**IBM Web Administration for iSeries**」を選択する。
    - d. 「**セットアップ**」タブ付きページを選択する。
    - e. 「共通タスクおよびウィザード」で、「**アプリケーション・サーバーの作成**」を選択する。
    - f. 「アプリケーション・サーバーの作成」ページが開きます。「次へ」を選択します。
    - g. **WebSphere Application Server V6.0 for OS/400** を選択してから、「次へ」を選択する。
    - h. 「アプリケーション・サーバー名の指定」ページが開きます。「**アプリケーション・サーバー名**」では、「iwa60sso」を指定します。この名前が、WebSphere Express Web アプリケーション・サーバーの名前になります。「次へ」を選択します。
    - i. 「HTTP サーバー・タイプの選択」ページが表示される。「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」を選択してから、「次へ」を選択する。
    - j. 「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」ページが表示されます。
      - 「**HTTP サーバー名**」には、IWA60SSO を入力します。
      - 「**ポート**」には、4044 を指定します。「次へ」を選択します。
    - k. 「**アプリケーション・サーバーで使用する内部ポートの指定**」ページが表示されます。「**範囲の最初のポート**」では、デフォルト値を 41044 に変更します。「次へ」を選択します。
    - l. 「**ビジネスおよびサンプル・アプリケーションの選択**」ページが表示されます。「次へ」を選択します。
    - m. 「**ID トークン SSO for Web を i5/OS Access に構成**」ページが表示されます。「**Configure Identity Tokens (ID トークンの構成)**」オプションを選択してから、以下の値を指定します。
      - 「**LDAP サーバー・ホスト名**」には、EIM セットアップ時に作成された EIM ドメインをホスティングしている LDAP サーバーの完全修飾ホスト名を指定する。例えば、MYISERIES.MYCOMPANY.COM と指定します。
      - 「**LDAP ポート**」には、EIM セットアップ時に作成された EIM ドメインをホスティングしている LDAP サーバーのポート番号を指定する。例えば、389 と指定します。
      - 「**LDAP 管理者 DN**」には、LDAP 管理者の識別名を指定する。例えば、cn=adminimator と指定します。
      - LDAP 管理者パスワードには、LDAP 管理者のパスワードを指定する。例えば、myadminpwd と指定します。「次へ」を選択します。
    - n. 「**ID トークン EIM ドメイン情報の構成**」ページが表示されます。以下の情報を指定します。
      - 「**EIM ドメイン名**」には、EIM セットアップ時に作成された EIM ドメインの名前を選択する。例えば、EimDomain を選択します。



- 「ソース・レジストリー名」で、EIM のセットアップ時に作成された EIM ソース・レジストリーの名前を選択する。例えば、WebSphereUserRegistry を選択します。

「次へ」を選択します。

- o. 「要約」ページが表示されます。「完了」を選択します。
- p. 「管理」 → 「Application Server」タブ付きページをアクティブにして Web ページが再表示されます。「インスタンス/サーバー」の下で、「iwa60sso/iwa60sso- WAS, V6.0」が「作成中」の状況とともにリストされます。この Web ページから、WebSphere Application Server を管理できます。

ページが定期的に更新されない場合は、「作成中」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

- q. 状況が「停止済み」に更新されている場合、「停止済み」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。状況が「開始中」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「開始中」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。iSeries Access for Web を構成するには、WebSphere Application Server が実行されている必要があります。

#### 重要:

状況が「実行中」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。

- r. ブラウザー・ウィンドウを最小化する。
3. iSeries Access for Web を構成する。
- a. 5250 セッション・ウィンドウを復元する。
  - b. WebSphere Application Server が実行されているかどうかを確認するには、サーバー・コマンド WRKACTJOB SBS(QWAS6) を実行する。
  - c. IWA60SSO が、QWAS6 サブシステムの下で実行されているジョブとしてリストされていることを確認する。iSeries Access for Web を構成するには、あらかじめ WebSphere Application Server が実行されている必要があります。
  - d. Web アプリケーション・サーバーの準備ができているかどうかを確認する。
    - 1) IWA60SSO ジョブにオプション #5 を入力する。
    - 2) オプション #10 を入力してジョブ・ログを表示する。
    - 3) F10 を押して詳細メッセージを表示する。
    - 4) メッセージ「**WebSphere Application Server iwa60sso 準備完了**」がリストされているか確認する。このメッセージは、アプリケーション・サーバーが完全に始動しており、Web サービス提供の準備ができていることを示します。
    - 5) コマンド行に戻るまで F3 を押す。
  - e. iSeries Access for Web には、製品を構成するためのコマンドがあります。コマンドには、CL コマンドと QShell スクリプト・コマンドの 2 つの異なるコマンドがあります。これらのコマンドで提供および実行される機能は同じです。いずれか希望する方のコマンドを使用してください。

• **CL コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

- 1) 以下のコマンドを使用して、Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS60) WASPRF(iwa60sso)
  APPSVR(iwa60sso) AUTHTYPE(*APPSVR) AUTHMETHOD(*FORM)
  WASUSRID(myadminid) WAPWD(myadminpwd)
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

## APPSVRTYPE

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

## WASPRF

Web アプリケーション・サーバーのどのプロファイルを構成するかをコマンドに知らせます。前のリリースの WebSphere では、WASINST パラメーターが使用されていました。 WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 では、プロファイルがインスタンスの代わりに使用されます。

## APPSVR

構成するプロファイル内の Web アプリケーション・サーバーの名前をコマンドに知らせます。

## AUHTHTYPE

どの認証タイプを使用するかをコマンドに知らせます。 \*APPSVR は、Web アプリケーション・サーバーが WebSphere アクティブ・ユーザー・レジストリーを使用して、ユーザーを認証する必要があることを示します。

## AUTHMETHOD

どの認証方式を使用するかをコマンドに知らせます。 \*FORM は、Web アプリケーション・サーバーがフォーム・ベースの HTTP 認証を使用して認証する必要があることを示します。

## WASUSRID

この Web アプリケーション・サーバーにアクセスする際にどの WebSphere 管理ユーザー ID を使用するかをコマンドに知らせます。例の値は、WebSphere アクティブ・ユーザー・レジストリーに定義されている管理者ユーザー ID に置き換えます。

## WASPWD

この Web アプリケーション・サーバーにアクセスする際にどの WebSphere 管理パスワードを使用するかをコマンドに知らせます。例の値は、WASUSRID パラメーターで指定される管理ユーザー ID 用のパスワードに置き換えます。

追加のオプションおよび情報についてはコマンドのオンライン・ヘルプを参照してください。

- 2) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

- 3) コマンドが完了した後に F3 または Enter を押して、ディスプレイ・セッションを終了する。
- QShell スクリプト・コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。

- 1) サーバー・コマンド QSH を使用して、QShell 環境を開始する。
- 2) iSeries Access for Web ディレクトリーを現行ディレクトリーにする。以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
```

- 3) 以前に作成された Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS60 -wasprf iwa60 -appsvr iwa60
           -authtype *APPSVR -authmethod *FORM
           -wasusrid myadminid -wapwd myadminpwd
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

**-appsvrtype**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

**-wasprf**

Web アプリケーション・サーバーのどのプロファイルを構成するかをコマンドに知らせます。前のリリースの WebSphere では、-wasinst パラメーターが使用されていました。WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 では、プロファイルがインスタンスの代わりに使用されます。

**-appsvr**

構成するプロファイル内の Web アプリケーション・サーバーの名前をコマンドに知らせます。

**-authtype**

どの認証タイプを使用するかをコマンドに知らせます。\*APPSVR は、Web アプリケーション・サーバーが WebSphere アクティブ・ユーザー・レジストリーを使用して、ユーザーを認証する必要があることを示します。

**-authmethod**

どの認証方式を使用するかをコマンドに知らせます。\*FORM は、Web アプリケーション・サーバーがフォーム・ベースの HTTP 認証を使用して認証する必要があることを示します。

**-wasusrid**

この Web アプリケーション・サーバーにアクセスする際にどの WebSphere 管理ユーザー ID を使用するかをコマンドに知らせます。例の値は、WebSphere アクティブ・ユーザー・レジストリーに定義されている管理者ユーザー ID に置き換えます。

**-wapwd**

この Web アプリケーション・サーバーにアクセスする際にどの WebSphere 管理パスワードを使用するかをコマンドに知らせます。例の値は、-wasusrid パラメーターで指定される管理ユーザー ID 用のパスワードに置き換えます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。追加のオプションおよび情報についてはコマンドのオンライン・ヘルプを参照してください。

- 4) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

- 5) コマンドが完了した後に F3 を押して、QShell セッションを終了する。
- f. コマンドが失敗したり、エラーを示したりする場合は、ログ・ファイルを参照してください。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmds.log**

高水準な原因およびリカバリー情報。翻訳済みです。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmdstrace.log**

IBM ソフトウェア・サービスの詳細なコマンド・フローが含まれ、英語版のみが提供されま  
す。

- g. iSeries Access for Web を正常に構成した後、構成に変更内容をロードするため、WebSphere Application Server を再起動する。この処理は、後で行われます。
- h. 5250 セッション・ウィンドウからサインオフし、ウィンドウを閉じる。

#### 4. Web 環境を開始する。

- a. 「**IBM Web Administration for iSeries サーバー管理 (IBM Web Administration for iSeries server management)**」ページが開いているブラウザ・ウィンドウに戻る。
- b. 「**管理**」 → 「**Application Server**」タブ付きページがアクティブになっているはずですが、「インスタンス/サーバー」の下に、「**iwa60sso/iwa60sso- WAS, V6**」が「**実行中**」という状況でリストされます。WebSphere Application Server を停止して再起動します。
  - 1) 「**実行中**」状況の隣の赤いアイコンを選択して WebSphere サーバーを停止する。ページが定期的に更新されない場合は、「**停止中**」状況の隣の最新表示アイコンを選択してください。
  - 2) 状況が「**停止済み**」に更新されている場合は、「**停止済み**」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。
  - 3) 状況が「**開始中**」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「**開始中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

**重要:** 状況が「**実行中**」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。

iSeries Access for Web は、WebSphere Application Server が起動すると、ロードおよび起動しま  
す。

- c. 「**HTTP サーバー**」タブ付きページを選択する。
- d. 「**サーバー**」の下で、**IWA60SSO - Apache** を選択します。この Apache HTTP Server の現行状況は、「**停止済み**」になっています。状況の隣の緑のアイコンを選択して、HTTP サーバーを開始します。状況が「**実行中**」に更新されます。
- e. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

#### 5. ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。

- a. ブラウザーで以下のアドレスのいずれかを開き、iSeries Access for Web にアクセスする。

`http://<server_name>:4044/webaccess/iWAHome`

`http://<server_name>:4044/webaccess/iWAMain`

- b. WebSphere アクティブ・ユーザー・レジストリーに定義されている WebSphere ユーザー ID およびパスワードを使用してログインする。iSeries Access for Web の初期ロードには、数秒かかることがあります。WebSphere Application Server が初めて Java クラスをロードしています。次回以降の iSeries Access for Web のロードには、これほど時間がかかりません。
- c. iSeries Access for Web のホーム・ページまたはメインページが表示されます。
- d. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

上記のステップに従って、以下のタスクを完了しました。

- | • EIM 環境を構成することによる、WebSphere ユーザー ID の i5/OS ユーザー・プロファイルへのマッピングの使用可能化。
- | • iwa60sso という WebSphere Web アプリケーション・サーバーの作成。
- | • IWA60 という名前の HTTP サーバーの作成。
- | • WebSphere Web アプリケーション・サーバー iwa60sso 用のグローバル・セキュリティーの使用可能化。
- | • WebSphere Application Server に対する iSeries Access for Web の構成。
- | • WebSphere Application Server と HTTP Web サーバーの停止と再始動。WebSphere Application Server が開始された際に iSeries Access for Web が開始されました。
- | • Web ブラウザーから iSeries Access for Web にアクセスできることの確認。

| この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### | 関連概念

- | 9 ページの『シングル・サインオンの考慮事項』
- | このトピックでは、Web アプリケーション・サーバーおよびポータル環境での iSeries Access for Web によるシングル・サインオン (SSO) に関する考慮事項をリストします。

#### | 関連情報

- | CL コマンド・ファインダー

### WebSphere Application Server Network Deployment V6.0 for OS/400 の構成:

この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。WebSphere Application Server Network Deployment V6.0 for OS/400 環境で iSeries Access for Web を実行するのに必要なすべてのステップについて説明しています。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。

注: Network Deployment 環境に統合された WebSphere インスタンス は、iSeries Access for Web ではサポートされません。

Web サービス提供環境の構成は、以下のステップから構成されます。

- IBM Web Administration for iSeries インターフェース (IBM HTTP Server for iSeries としても知られる) を始動する。ステップ 1 を参照してください。
- HTTP Web サーバーおよび WebSphere Application Server Network Deployment V6.0 for OS/400 Web アプリケーション・サーバーを作成する。ステップ 2 (40 ページ) を参照してください。
- iSeries Access for Web を構成する。ステップ 3 (40 ページ) を参照してください。
- Web 環境を開始する。ステップ 4 (43 ページ) を参照してください。
- ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。ステップ 5 (43 ページ) を参照してください。

Web サービス環境を構成するには、以下のステップを実行します。

1. IBM Web Administration for iSeries インターフェースを開始する。
  - a. サーバーへの 5250 セッションを開始する。
  - b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでサインオンする。



- c. サーバー・コマンド STRTCPSVR SERVER(\*HTTP) HTTPSVR(\*ADMIN) を実行して、Web 管理インターフェースを開始する。
  - d. 5250 セッションを最小化する。
2. HTTP Web サーバーおよび WebSphere Application Server Network Deployment V6.0 for OS/400 Web アプリケーション・サーバーを作成する。
- a. ブラウザーで `http://<server_name>:2001` を開く。
  - b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでログインする。
  - c. 「**IBM Web Administration for iSeries**」を選択する。
  - d. 「**セットアップ**」タブ付きページを選択する。
  - e. 「共通タスクおよびウィザード」で、「**アプリケーション・サーバーの作成**」を選択する。
  - f. 「アプリケーション・サーバーの作成」ページが開きます。「次へ」を選択します。
  - g. 「**WebSphere Application Server Network Deployment V6.0 for OS/400**」を選択してから、「次へ」を選択する。
  - h. 「アプリケーション・サーバー名の指定」ページが開きます。「**アプリケーション・サーバー名**」で、iwa60nd を指定します。この名前が、WebSphere Express Web アプリケーション・サーバーの名前になります。「次へ」を選択します。
  - i. 「HTTP サーバー・タイプの選択」ページが表示される。「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」を選択してから、「次へ」を選択する。
  - j. 「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」ページが表示されます。
    - 「**HTTP サーバー名**」に、IWA60ND と入力する。
    - 「**ポート**」に、2046 と指定する。「次へ」を選択します。
  - k. 「**アプリケーション・サーバーで使用する内部ポートの指定**」ページが表示されます。「**範囲内の最初のポート**」では、デフォルト値を 21046 に変更します。「次へ」を選択します。
  - l. 「**ビジネスおよびサンプル・アプリケーションの選択**」ページが表示されます。「**要約**」ページが開くまで、「次へ」を選択します。
  - m. 「**完了**」を選択します。
  - n. 「**管理**」 → 「**Application Server**」タブ付きページをアクティブにして、Web ページが再表示されます。「**インスタンス/サーバー**」に、「iwa60nd/iwa60nd – WAS, V6.0 ND」が「**作成中**」という状態でリストされます。この Web ページから、WebSphere Application Server を管理できます。

ページが定期的に更新されない場合は、「**作成中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。
  - o. 状況が「**停止済み**」に更新されている場合、「**停止済み**」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。状況が「**開始中**」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「**開始中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。iSeries Access for Web を構成するには、WebSphere Application Server が実行されている必要があります。
- 重要:**
- 状況が「**実行中**」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。
- p. ブラウザー・ウィンドウを最小化する。
3. iSeries Access for Web を構成する。



- a. 5250 セッション・ウィンドウを復元する。
- b. WebSphere Application Server が実行されているかどうかを確認するには、サーバー・コマンド WRKACTJOB SBS(QWAS6) を実行する。
- c. QWAS6 サブシステムで実行中のジョブとして IWA60ND がリストされていることを確認する。  
iSeries Access for Web を構成するには、あらかじめ WebSphere Application Server が稼働している必要があります。
- d. Web アプリケーション・サーバーの準備ができているかどうかを確認する。
  - 1) IWA60ND ジョブでオプション #5 を入力する。
  - 2) オプション #10 を入力してジョブ・ログを表示する。
  - 3) F10 を押して詳細メッセージを表示する。
  - 4) メッセージ「**WebSphere application server iwa60nd ready (WebSphere Application Server iwa60nd の準備ができました)**」がリストされるかどうかを確認する。このメッセージは、アプリケーション・サーバーが完全に開始され、Web サービス提供の準備ができていることを示しています。
  - 5) コマンド行に戻るまで F3 を押す。
- e. iSeries Access for Web には、製品を構成するためのコマンドがあります。コマンドには、CL コマンドと QShell スクリプト・コマンドの 2 つの異なるコマンドがあります。これらのコマンドで提供および実行される機能は同じです。いずれか希望する方のコマンドを使用してください。

• **CL コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

- 1) 以下のコマンドを使用して、Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS60ND) WASPRF(iwa60nd) APPSVR(iwa60nd)
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

#### **APPSVRTYPE**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

#### **WASPRF**

Web アプリケーション・サーバーのどのプロファイルを構成するかをコマンドに知らせます。前のリリースの WebSphere では、WASINST パラメーターが使用されていました。WebSphere Application Server Network Deployment V6.0 for OS/400 では、インスタンスはプロファイルで置き換えられています。

#### **APPSVR**

構成するプロファイル内の Web アプリケーション・サーバーの名前をコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、F1 を押します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

- 2) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

- 3) コマンドが完了した後に F3 または Enter を押して、ディスプレイ・セッションを終了する。
- **QShell スクリプト・コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

- 1) サーバー・コマンド QSH を使用して、QShell 環境を開始する。
- 2) iSeries Access for Web ディレクトリーを現行ディレクトリーにする。以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
```

- 3) 以前に作成された Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS60ND -wasprf iwa60nd -appsvr iwa60nd
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

#### **-appsvrtype**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

#### **-wasprf**

Web アプリケーション・サーバーのどのプロファイルを構成するかをコマンドに知らせます。前のリリースの WebSphere では、`-wasinst` パラメーターが使用されていました。WebSphere Application Server Network Deployment V6.0 for OS/400 では、インスタンスはプロファイルで置き換えられています。

#### **-appsvr**

構成するプロファイル内の Web アプリケーション・サーバーの名前をコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、`-?` パラメーターを指定します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の `CFGACCWEB2` コマンド・パラメーターについて説明します。

- 4) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

- 5) コマンドが完了した後に F3 を押して、QShell セッションを終了する。
- f. コマンドが失敗したり、エラーを示したりする場合は、ログ・ファイルを参照してください。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmds.log**

高水準な原因およびリカバリー情報。翻訳済みです。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmdstrace.log**

IBM ソフトウェア・サービスの詳細なコマンド・フローが含まれ、英語版のみが提供されません。

- g. iSeries Access for Web を正常に構成した後、構成に変更内容をロードするため、WebSphere Application Server を再起動する。この処理は、後で行われます。
- h. 5250 セッション・ウィンドウからサインオフし、ウィンドウを閉じる。
4. Web 環境を開始する。
- a. 「**IBM Web Administration for iSeries サーバー管理 (IBM Web Administration for iSeries server management)**」ページが開いているブラウザ・ウィンドウに戻る。
- b. 「**管理**」 → 「**Application Server**」タブ付きページがアクティブになっているはずですが。「**インスタンス/サーバー**」に、「**iwa60nd/iwa60nd - WAS, V6.0 ND**」が「**実行中**」という状況でリストされます。WebSphere Application Server を停止して再起動します。
- 1) 「**実行中**」状況の隣の赤いアイコンを選択して WebSphere サーバーを停止する。ページが定期的に更新されない場合は、「**停止中**」状況の隣の最新表示アイコンを選択してください。
  - 2) 状況が「**停止済み**」に更新されている場合は、「**停止済み**」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。
  - 3) 状況が「**開始中**」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「**開始中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

**重要:** 状況が「**実行中**」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。iSeries Access for Web は、WebSphere Application Server が起動すると、ロードおよび起動します。

- c. 「**HTTP サーバー**」タブ付きページを選択する。
- d. 「**サーバー**」で、「**IWA60ND - Apache**」を選択する。この Apache HTTP Server の現行状況は、「**停止済み**」になっています。状況の隣の緑のアイコンを選択して、HTTP サーバーを開始します。状況が「**実行中**」に更新されます。
- e. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。
5. ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。
- a. ブラウザーで以下のアドレスのいずれかを開き、iSeries Access for Web にアクセスする。

`http://<server_name>:2046/webaccess/iWAHome`

`http://<server_name>:2046/webaccess/iWAMain`

- b. i5/OS のユーザー ID とパスワードを使用してログインする。iSeries Access for Web の初期ロードには、数秒かかることがあります。WebSphere Application Server が初めて Java クラスをロードしています。次回以降の iSeries Access for Web のロードには、これほど時間がかかりません。
- c. iSeries Access for Web のホーム・ページまたはメインページが表示されます。
- d. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

上記のステップに従って、以下のタスクを完了しました。

- iwa60nd という名前の WebSphere Web Application Server の作成。
- IWA60ND という名前の HTTP サーバーの作成。
- WebSphere Application Server に対する iSeries Access for Web の構成。
- WebSphere Application Server と HTTP Web サーバーの停止と再始動。WebSphere Application Server が開始された際に iSeries Access for Web が開始されました。
- Web ブラウザーから iSeries Access for Web にアクセスできることの確認。

この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### 関連情報

CL コマンド・ファインダー

#### WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.1 の構成:

この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.1 Web サービス提供環境で iSeries Access for Web を実行する場合に必要なステップをすべて説明しています。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。

Web サービス提供環境の構成は、以下のステップから構成されます。

- IBM Web Administration for iSeries インターフェース (IBM HTTP Server for iSeries としても知られる) を始動する。ステップ 1 を参照してください。
- HTTP Web サーバーと WebSphere Application Server - Express V5.1 for iSeries Web アプリケーション・サーバーを作成する。ステップ 2 を参照してください。
- iSeries Access for Web を構成する。ステップ 3 (45 ページ) を参照してください。
- Web 環境を開始する。ステップ 4 (47 ページ) を参照してください。
- ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。ステップ 5 (48 ページ) を参照してください。

Web サービス環境を構成するには、以下のステップを実行します。

1. IBM Web Administration for iSeries インターフェースを開始する。
  - a. サーバーへの 5250 セッションを開始する。
  - b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでサインオンする。
  - c. サーバー・コマンド STRTCPSVR SERVER(\*HTTP) HTTPSVR(\*ADMIN) を実行して、Web 管理インターフェースを開始する。
  - d. 5250 セッションを最小化する。
2. HTTP Web サーバーと WebSphere Application Server V5.1 - Express for iSeries Web アプリケーション・サーバーを作成する。
  - a. ブラウザーで http://<server\_name>:2001 を開く。
  - b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでログインする。
  - c. 「IBM Web Administration for iSeries」を選択する。
  - d. 「セットアップ」タブ付きページを選択する。

- e. 「共通タスクおよびウィザード」で、「アプリケーション・サーバーの作成」を選択する。
- f. 「アプリケーション・サーバーの作成」ページが開きます。「次へ」を選択します。
- g. 「WebSphere Application Server - Express V5.1」を選択してから、「次へ」を選択する。
- h. 「アプリケーション・サーバー名の指定」ページが開きます。「アプリケーション・サーバー名」では、「iwa51exp」を指定します。この名前が、WebSphere Express Web アプリケーション・サーバーの名前になります。「次へ」を選択します。
- i. 「HTTP サーバー・タイプの選択」ページが表示される。「新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成」を選択してから、「次へ」を選択する。
- j. 「新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成」ページが表示されます。
  - 「HTTP サーバー名」に、IWA51EXP と入力する。
  - 「ポート」に、2042 と指定する。「次へ」を選択します。
- k. 「アプリケーション・サーバーで使用する内部ポートの指定」ページが表示されます。「範囲内の最初のポート」では、デフォルト値を 21042 に変更します。「次へ」を選択します。
- l. 「ビジネスおよびサンプル・アプリケーションの選択」ページが表示されます。「要約」ページが開くまで、「次へ」を選択します。
- m. 「完了」を選択します。
- n. 「管理」 → 「Application Server」タブ付きページをアクティブにして、Web ページが再表示されます。「インスタンス/サーバー」で、「iwa51exp/iwa51exp - WAS - Express, V5.1」が「作成中」という状況でリストされます。この Web ページから、WebSphere Application Server を管理できます。

ページが定期的に更新されない場合は、「作成中」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

- o. 状況が「停止済み」に更新されている場合、「停止済み」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。状況が「開始中」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「開始中」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。iSeries Access for Web を構成するには、WebSphere Application Server が実行されている必要があります。

#### 重要:

状況が「実行中」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。

- 3. iSeries Access for Web を構成する。
  - a. 5250 セッション・ウィンドウを復元する。
  - b. WebSphere Application Server が実行中であることを確認するには、サーバー・コマンド WRKACTJOB SBS(QASE51) を実行する。
  - c. IWA51EXP が QASE51 サブシステムで実行中のジョブとしてリストされていることを確認する。iSeries Access for Web を構成するには、あらかじめ、WebSphere Application Server が稼働している必要があります。
  - d. Web アプリケーション・サーバーの準備ができているかどうかを確認する。
    - 1) IWA51EXP ジョブにオプション #5 を入力する。
    - 2) オプション #10 を入力してジョブ・ログを表示する。
    - 3) F10 を押して詳細メッセージを表示する。



4) メッセージ「**WebSphere application server iwa51exp ready (WebSphere Application Server iwa51exp の準備ができました)**」がリストされていることを確認する。このメッセージは、アプリケーション・サーバーが完全に開始され、Web サービス提供の準備ができていることを示します。

5) コマンド行に戻るまで F3 を押す。

e. iSeries Access for Web には、製品を構成するためのコマンドがあります。コマンドには、CL コマンドと QShell スクリプト・コマンドの 2 つの異なるコマンドがあります。これらのコマンドで提供および実行される機能は同じです。いずれか希望する方のコマンドを使用してください。

• **CL コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

1) 以下のコマンドを使用して、Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS51EXP) WASINST(iwa51exp)
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

#### **APPSVRTYPE**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

#### **WASINST**

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、F1 を押します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

2) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

3) コマンドが完了した後に F3 または Enter を押して、ディスプレイ・セッションを終了する。

• **QShell スクリプト・コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

1) サーバー・コマンド QSH を使用して、QShell 環境を開始する。

2) iSeries Access for Web ディレクトリーを現行ディレクトリーにする。以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
```

3) 以前に作成された Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。



cfgaccweb2 -appsvrtype \*WAS51EXP -wasinst iwa51exp

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

**-appsvrtype**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

**-wasinst**

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

- 4) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

- 5) コマンドが完了した後に F3 を押して、QShell セッションを終了する。

- f. コマンドが失敗したり、エラーを示したりする場合は、ログ・ファイルを参照してください。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmds.log**

高水準な原因およびリカバリー情報。翻訳済みです。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmdstrace.log**

IBM ソフトウェア・サービスの詳細なコマンド・フローが含まれ、英語版のみが提供されません。

- g. iSeries Access for Web を正常に構成した後、構成に変更内容をロードするため、WebSphere Application Server を再起動する。この処理は、後で行われます。

- h. 5250 セッション・ウィンドウからサインオフし、ウィンドウを閉じる。

4. Web 環境を開始する。

- a. 「**IBM Web Administration for iSeries サーバー管理 (IBM Web Administration for iSeries server management)**」 ページが開いているブラウザ・ウィンドウに戻る。

- b. 「管理」 → 「**Application Server**」 タブ付きページがアクティブになっているはずですが、「インスタンス/サーバー」で、「**iwa51exp/iwa51exp - WAS - Express V5.1**」が「**実行中**」という状況でリストされます。WebSphere Application Server を停止して再起動します。

- 1) 「**実行中**」状況の隣の赤いアイコンを選択して WebSphere サーバーを停止する。ページが定期的に更新されない場合は、「**停止中**」状況の隣の最新表示アイコンを選択してください。

- 2) 状況が「**停止済み**」に更新されている場合は、「**停止済み**」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。
- 3) 状況が「**開始中**」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「**開始中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

**重要:** 状況が「**実行中**」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。iSeries Access for Web は、WebSphere Application Server が起動すると、ロードおよび起動します。

- c. 「HTTP サーバー」タブ付きページを選択する。
  - d. 「サーバー」で、「IWA51EXP - Apache」を選択する。この Apache HTTP Server の現行状況は、「**停止済み**」になっています。状況の隣の緑のアイコンを選択して、HTTP サーバーを開始します。状況が「**実行中**」に更新されます。
  - e. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。
5. ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。
- a. ブラウザーで以下のアドレスのいずれかを開き、iSeries Access for Web にアクセスする。  
  
`http://<server_name>:2042/webaccess/iWAHome`  
`http://<server_name>:2042/webaccess/iWAMain`
  - b. i5/OS のユーザー ID とパスワードを使用してログインする。iSeries Access for Web の初期ロードには、数秒かかることがあります。WebSphere Application Server が初めて Java クラスをロードしています。次回以降の iSeries Access for Web のロードには、これほど時間がかかりません。
  - c. iSeries Access for Web のホーム・ページまたはメインページが表示されます。
  - d. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

上記のステップに従って、以下のタスクを完了しました。

- iwa51exp という名前の WebSphere Web アプリケーション・サーバーの作成。
- IWA51EXP という名前の HTTP サーバーの作成。
- WebSphere Application Server に対する iSeries Access for Web の構成。
- WebSphere Application Server と HTTP Web サーバーの停止と再始動。WebSphere Application Server が開始された際に iSeries Access for Web が開始されました。
- Web ブラウザーから iSeries Access for Web にアクセスできることの確認。

この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### 関連情報

CL コマンド・ファインダー

#### WebSphere Application Server V5.1 for iSeries の構成:

この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。WebSphere Application Server V5.1 for iSeries 環境で iSeries Access for Web を実行する場合に必要なステップをすべて説明しています。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。

Web サービス提供環境の構成は、以下のステップから構成されます。

- | • IBM Web Administration for iSeries インターフェース (IBM HTTP Server for iSeries としても知られる) を始動する。ステップ 1 を参照してください。
- | • HTTP Web サーバーと WebSphere Application Server V5.1 for iSeries を作成する。ステップ 2 を参照してください。
- | • iSeries Access for Web を構成する。ステップ 3 (50 ページ) を参照してください。
- | • Web 環境を開始する。ステップ 4 (52 ページ) を参照してください。
- | • ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。ステップ 5 (52 ページ) を参照してください。

| **Web サービス環境を構成するには、以下のステップを実行します。**

- | 1. IBM Web Administration for iSeries インターフェースを開始する。
  - | a. サーバーへの 5250 セッションを開始する。
  - | b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでサインオンする。
  - | c. サーバー・コマンド STRTCPSVR SERVER(\*HTTP) HTTPSVR(\*ADMIN) を実行して、Web 管理インターフェースを開始する。
  - | d. 5250 セッションを最小化する。
- | 2. HTTP Web サーバーと WebSphere Application Server V5.1 for iSeries を作成する。
  - | a. ブラウザーで http://<server\_name>:2001 を開く。
  - | b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでログインする。
  - | c. 「**IBM Web Administration for iSeries**」を選択する。
  - | d. 「**セットアップ**」タブ付きページを選択する。
  - | e. 「共通タスクおよびウィザード」で、「**アプリケーション・サーバーの作成**」を選択する。
  - | f. 「アプリケーション・サーバーの作成」ページが開きます。「次へ」を選択します。
  - | g. 「**WebSphere Application Server V5.1 (base) for iSeries**」を選択してから、「次へ」を選択する。
  - | h. 「アプリケーション・サーバー名の指定」ページが開きます。「**アプリケーション・サーバー名**」では、「iwa51base」を指定します。この名前が、WebSphere Express Web アプリケーション・サーバーの名前になります。「次へ」を選択します。
  - | i. 「HTTP サーバー・タイプの選択」ページが表示される。「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」を選択してから、「次へ」を選択する。
  - | j. 「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」ページが表示されます。
    - | • 「**HTTP サーバー名**」に、IWA51BASE と入力する。
    - | • 「**ポート**」に、2040 と指定する。
 「次へ」を選択します。
  - | k. 「**アプリケーション・サーバーで使用する内部ポートの指定**」ページが表示されます。「**範囲内の最初のポート**」では、デフォルト値を 21040 に変更します。「次へ」を選択します。
  - | l. 「**ビジネスおよびサンプル・アプリケーションの選択**」ページが表示されます。「**要約**」ページが開くまで、「次へ」を選択します。
  - | m. 「**完了**」を選択します。

- n. 「管理」 → 「**Application Server**」タブ付きページをアクティブにして、Web ページが再表示されます。「インスタンス/サーバー」で、「iwa51base/iwa51base – WAS, V5.1 (base)」が「作成中」という状況でリストされます。この Web ページから、WebSphere Application Server を管理できません。

ページが定期的に更新されない場合は、「作成中」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

- o. 状況が「停止済み」に更新されている場合、「停止済み」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。状況が「開始中」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「開始中」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。iSeries Access for Web を構成するには、WebSphere Application Server が実行されている必要があります。

#### 重要:

状況が「実行中」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。

- p. ブラウザー・ウィンドウを最小化する。

### 3. iSeries Access for Web を構成する。

- a. 5250 セッション・ウィンドウを復元する。
- b. WebSphere Application Server が実行中であることを確認するには、サーバー・コマンド `WRKACTJOB SBS(QEJBAS51)` を実行する。
- c. IWA51BASE が QEJBAS51 サブシステムで実行中のジョブとしてリストされていることを確認する。iSeries Access for Web を構成するには、あらかじめ、WebSphere Application Server が稼働している必要があります。
- d. Web アプリケーション・サーバーの準備ができていかどうかを確認する。
  - 1) IWA51BASE ジョブにオプション #5 を入力する。
  - 2) オプション #10 を入力してジョブ・ログを表示する。
  - 3) F10 を押して詳細メッセージを表示する。
  - 4) メッセージ「**Websphere application server iwa51base ready (WebSphere Application Server iwa51base の準備ができました)**」がリストされていることを確認する。このメッセージは、アプリケーション・サーバーが完全に開始され、Web サービス提供の準備ができていことを示します。
  - 5) コマンド行に戻るまで F3 を押す。
- e. iSeries Access for Web には、製品を構成するためのコマンドがあります。コマンドには、CL コマンドと QShell スクリプト・コマンドの 2 つの異なるコマンドがあります。これらのコマンドで提供および実行される機能は同じです。いずれか希望する方のコマンドを使用してください。

#### • CL コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。

- 1) 以下のコマンドを使用して、Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS51) WASINST(iwa51base)
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

#### **APPSVRTYPE**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

## WASINST

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、F1 を押します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

- 2) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

- 3) コマンドが完了した後に F3 または Enter を押して、ディスプレイ・セッションを終了する。

### • QShell スクリプト・コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。

- 1) サーバー・コマンド QSH を使用して、QShell 環境を開始する。

- 2) iSeries Access for Web ディレクトリーを現行ディレクトリーにする。以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
```

- 3) 以前に作成された Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS51 -wasinst iwa51base
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

#### **-appsvrtype**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

#### **-wasinst**

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。



4) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

5) コマンドが完了した後に F3 を押して、QShell セッションを終了する。

f. コマンドが失敗したり、エラーを示したりする場合は、ログ・ファイルを参照してください。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmds.log**

高水準な原因およびリカバリー情報。翻訳済みです。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmdstrace.log**

IBM ソフトウェア・サービスの詳細なコマンド・フローが含まれ、英語版のみが提供されません。

g. iSeries Access for Web を正常に構成した後、構成に変更内容をロードするため、WebSphere Application Server を再起動する。この処理は、後で行われます。

h. 5250 セッション・ウィンドウからサインオフし、ウィンドウを閉じる。

4. Web 環境を開始する。

a. 「**IBM Web Administration for iSeries サーバー管理 (IBM Web Administration for iSeries server management)**」 ページが開いているブラウザ・ウィンドウに戻る。

b. 「**管理**」 → 「**Application Server**」 タブ付きページがアクティブになっているはずですが、「**インスタンス/サーバー**」で、「**iwa51base/iwa51base – WAS, V5.1 (base)**」が「**実行中**」という状況でリストされます。WebSphere Application Server を停止して再起動します。

1) 「**実行中**」状況の隣の赤いアイコンを選択して WebSphere サーバーを停止する。ページが定期的に更新されない場合は、「**停止中**」状況の隣の最新表示アイコンを選択してください。

2) 状況が「**停止済み**」に更新されている場合は、「**停止済み**」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。

3) 状況が「**開始中**」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「**開始中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

**重要:** 状況が「**実行中**」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。

iSeries Access for Web は、WebSphere Application Server が起動すると、ロードおよび起動します。

c. 「**HTTP サーバー**」タブ付きページを選択する。

d. 「**サーバー**」で、「**IWA51BASE - Apache**」を選択する。この Apache HTTP Server の現行状況は、「**停止済み**」になっています。状況の隣の緑のアイコンを選択して、HTTP サーバーを開始します。状況が「**実行中**」に更新されます。

e. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

5. ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。

a. ブラウザーで以下のアドレスのいずれかを開き、iSeries Access for Web にアクセスする。



| http://<server\_name>:2040/webaccess/iWAHome

| http://<server\_name>:2040/webaccess/iWAMain

- | b. i5/OS のユーザー ID とパスワードを使用してログインする。iSeries Access for Web の初期ロードには、数秒かかることがあります。WebSphere Application Server が初めて Java クラスをロードしています。次回以降の iSeries Access for Web のロードには、これほど時間がかかりません。
- | c. iSeries Access for Web のホーム・ページまたはメインページが表示されます。
- | d. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

| 上記のステップに従って、以下のタスクを完了しました。

- | • iwa51base という名前の WebSphere Web アプリケーション・サーバーの作成。
- | • IWA51BASE という名前の HTTP サーバーの作成。
- | • WebSphere Application Server に対する iSeries Access for Web の構成。
- | • WebSphere Application Server と HTTP Web サーバーの停止と再始動。WebSphere Application Server が開始された際に iSeries Access for Web が開始されました。
- | • Web ブラウザーから iSeries Access for Web にアクセスできることの確認。

| この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### | 関連情報

| CL コマンド・ファインダー

#### | WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.0 の構成:

| この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.0 Web サービス提供環境で iSeries Access for Web を実行する場合に必要なステップをすべて説明しています。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。

| Web サービス提供環境の構成は、以下のステップから構成されます。

- | • IBM Web Administration for iSeries インターフェース (IBM HTTP Server for iSeries としても知られる) を始動する。ステップ 1 を参照してください。
- | • HTTP Web サーバーと WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.0 Web アプリケーション・サーバーを作成する。ステップ 2 (54 ページ) を参照してください。
- | • iSeries Access for Web を構成する。ステップ 3 (54 ページ) を参照してください。
- | • Web 環境を開始する。ステップ 4 (56 ページ) を参照してください。
- | • ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。ステップ 5 (57 ページ) を参照してください。

| Web サービス環境を構成するには、以下のステップを実行します。

- | 1. IBM Web Administration for iSeries インターフェースを開始する。
  - | a. サーバーへの 5250 セッションを開始する。
  - | b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでサインオンする。
  - | c. サーバー・コマンド STRTCPSVR SERVER(\*HTTP) HTTPSVR(\*ADMIN) を実行して、Web 管理インターフェースを開始する。

- d. 5250 セッションを最小化する。
2. HTTP Web サーバーと WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.0 Web アプリケーション・サーバーを作成する。
  - a. ブラウザーで `http://<server_name>:2001` を開く。
  - b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでログインする。
  - c. 「**IBM Web Administration for iSeries**」を選択する。
  - d. 「**セットアップ**」タブ付きページを選択する。
  - e. 「共通タスクおよびウィザード」で、「**アプリケーション・サーバーの作成**」を選択する。
  - f. 「アプリケーション・サーバーの作成」ページが開きます。「次へ」を選択します。
  - g. 「**WebSphere Application Server - Express V5.0**」を選択してから、「次へ」を選択する。
  - h. 「アプリケーション・サーバー名の指定」ページが開きます。「**アプリケーション・サーバー名**」では、「iwa50exp」を指定します。この名前が、WebSphere Express Web アプリケーション・サーバーの名前になります。「次へ」を選択します。
  - i. 「HTTP サーバー・タイプの選択」ページが表示される。「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」を選択してから、「次へ」を選択する。
  - j. 「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」ページが表示されます。
    - 「**HTTP サーバー名**」に、IWA50EXP と入力する。
    - 「**ポート**」に、2030 と指定する。「次へ」を選択します。
  - k. 「**アプリケーション・サーバーで使用する内部ポートの指定**」ページが表示されます。「**範囲内の最初のポート**」では、デフォルト値を 21030 に変更します。「次へ」を選択します。
  - l. 「**ビジネスおよびサンプル・アプリケーションの選択**」ページが表示されます。「**要約**」ページが開くまで、「次へ」を選択します。
  - m. 「完了」を選択します。
  - n. 「**管理**」 → 「**Application Server**」タブ付きページをアクティブにして、Web ページが再表示されます。「**インスタンス/サーバー**」で、「iwa50exp/iwa50exp - WAS - Express, V5.0」が「**作成中**」という状況でリストされます。この Web ページから、WebSphere Application Server を管理できます。

ページが定期的に更新されない場合は、「**作成中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

- o. 状況が「**停止済み**」に更新されている場合、「**停止済み**」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。状況が「**開始中**」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「**開始中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。iSeries Access for Web を構成するには、WebSphere Application Server が実行されている必要があります。

#### 重要:

状況が「**実行中**」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。

3. iSeries Access for Web を構成する。
  - a. 5250 セッション・ウィンドウを復元する。
  - b. WebSphere Application Server が実行中であることを確認するには、サーバー・コマンド `WRKACTJOB SBS(QASE5)` を実行する。

- c. IWA50EXP が QASE5 サブシステムで実行中のジョブとしてリストされていることを確認する。  
iSeries Access for Web を構成するには、あらかじめ、WebSphere Application Server が稼働している必要があります。
- d. Web アプリケーション・サーバーの準備ができているかどうかを確認する。
- 1) IWA50EXP ジョブにオプション #5 を入力する。
  - 2) オプション #10 を入力してジョブ・ログを表示する。
  - 3) F10 を押して詳細メッセージを表示する。
  - 4) メッセージ「**Websphere application server iwa50exp ready (WebSphere Application Server iwa50exp の準備ができました)**」がリストされていることを確認する。このメッセージは、アプリケーション・サーバーが完全に開始され、Web サービス提供の準備ができていることを示します。
  - 5) コマンド行に戻るまで F3 を押す。
- e. iSeries Access for Web には、製品を構成するためのコマンドがあります。コマンドには、CL コマンドと QShell スクリプト・コマンドの 2 つの異なるコマンドがあります。これらのコマンドで提供および実行される機能は同じです。いずれか希望する方のコマンドを使用してください。

• **CL コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

- 1) 以下のコマンドを使用して、Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS50EXP) WASINST(iwa50exp)
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

#### **APPSVRTYPE**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

#### **WASINST**

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、F1 を押します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

- 2) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

- 3) コマンドが完了した後に F3 または Enter を押して、ディスプレイ・セッションを終了する。

- QShell スクリプト・コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。

- 1) サーバー・コマンド QSH を使用して、QShell 環境を開始する。
- 2) iSeries Access for Web ディレクトリーを現行ディレクトリーにする。以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
```

- 3) 以前に作成された Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS50EXP -wasinst iwa50exp
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

**-appsvrtype**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

**-wasinst**

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。

- 4) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

- 5) コマンドが完了した後に F3 を押して、QShell セッションを終了する。

- f. コマンドが失敗したり、エラーを示したりする場合は、ログ・ファイルを参照してください。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmds.log**

高水準な原因およびリカバリー情報。翻訳済みです。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmdstrace.log**

IBM ソフトウェア・サービスの詳細なコマンド・フローが含まれ、英語版のみが提供されません。

- g. iSeries Access for Web を正常に構成した後、構成に変更内容をロードするため、WebSphere Application Server を再起動する。この処理は、後で行われます。

- h. 5250 セッション・ウィンドウからサインオフし、ウィンドウを閉じる。

4. Web 環境を開始する。

- a. 「**IBM Web Administration for iSeries サーバー管理 (IBM Web Administration for iSeries server management)**」 ページが開いているブラウザ・ウィンドウに戻る。

- b. 「管理」 → 「**Application Server**」 タブ付きページがアクティブになっているはずですが、「インスタンス/サーバー」で、「**iwa50exp/iwa50exp - WAS - Express V5**」が「**実行中**」という状況でリストされます。WebSphere Application Server を停止して再起動します。

- 1) 「**実行中**」状況の隣の赤いアイコンを選択して WebSphere サーバーを停止する。ページが定期的に更新されない場合は、「**停止中**」状況の隣の最新表示アイコンを選択してください。
- 2) 状況が「**停止済み**」に更新されている場合は、「**停止済み**」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。
- 3) 状況が「**開始中**」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「**開始中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

**重要:** 状況が「**実行中**」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。iSeries Access for Web は、WebSphere Application Server が起動すると、ロードおよび起動します。

- c. 「HTTP サーバー」タブ付きページを選択する。
  - d. 「サーバー」で、「IWA50EXP - Apache」を選択する。この Apache HTTP Server の現行状況は、「**停止済み**」になっています。状況の隣の緑のアイコンを選択して、HTTP サーバーを開始します。状況が「**実行中**」に更新されます。
  - e. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。
5. ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。
    - a. ブラウザーで以下のアドレスのいずれかを開き、iSeries Access for Web にアクセスする。

http://<server\_name>:2030/webaccess/iWAHome  
http://<server\_name>:2030/webaccess/iWAMain
    - b. i5/OS のユーザー ID とパスワードを使用してログインする。iSeries Access for Web の初期ロードには、数秒かかることがあります。WebSphere Application Server が初めて Java クラスをロードしています。次回以降の iSeries Access for Web のロードには、これほど時間がかかりません。
    - c. iSeries Access for Web のホーム・ページまたはメインページが表示されます。
    - d. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

上記のステップに従って、以下のタスクを完了しました。

- iwa50exp という名前の WebSphere Web アプリケーション・サーバーの作成。
- IWA50EXP という名前の HTTP サーバーの作成。
- WebSphere Application Server に対する iSeries Access for Web の構成。
- WebSphere Application Server と HTTP Web サーバーの停止と再始動。WebSphere Application Server が開始された際に iSeries Access for Web が開始されました。
- Web ブラウザーから iSeries Access for Web にアクセスできることの確認。

この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### 関連情報

CL コマンド・ファインダー

#### WebSphere Application Server V5.0 for iSeries の構成:

この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。WebSphere Application Server V5.0 for iSeries 環境で iSeries Access for Web を実行する場合に必要なステップをすべて説明しています。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。



- | Web サービス提供環境の構成は、以下のステップから構成されます。
- | • IBM Web Administration for iSeries インターフェース (IBM HTTP Server for iSeries としても知られる) を始動する。ステップ 1 を参照してください。
- | • HTTP Web サーバーと WebSphere Application Server V5.0 for iSeries Web アプリケーション・サーバーを作成する。ステップ 2 を参照してください。
- | • iSeries Access for Web を構成する。ステップ 3 (59 ページ) を参照してください。
- | • Web 環境を開始する。ステップ 4 (61 ページ) を参照してください。
- | • ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。ステップ 5 (61 ページ) を参照してください。

| **Web サービス環境を構成するには、以下のステップを実行します。**

- | 1. IBM Web Administration for iSeries インターフェースを開始する。
  - | a. サーバーへの 5250 セッションを開始する。
  - | b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでサインオンする。
  - | c. サーバー・コマンド STRTCPSVR SERVER(\*HTTP) HTTPSVR(\*ADMIN) を実行して、Web 管理インターフェースを開始する。
  - | d. 5250 セッションを最小化する。
- | 2. HTTP Web サーバーと WebSphere Application Server V5.0 for iSeries Web アプリケーション・サーバーを作成する。
  - | a. ブラウザーで http://<server\_name>:2001 を開く。
  - | b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでログインする。
  - | c. 「**IBM Web Administration for iSeries**」を選択する。
  - | d. 「**セットアップ**」タブ付きページを選択する。
  - | e. 「共通タスクおよびウィザード」で、「**アプリケーション・サーバーの作成**」を選択する。
  - | f. 「アプリケーション・サーバーの作成」ページが開きます。「**次へ**」を選択します。
  - | g. 「**WebSphere Application Server V5.0 (base) for iSeries**」を選択してから、「**次へ**」を選択する。
  - | h. 「アプリケーション・サーバー名の指定」ページが開きます。「**アプリケーション・サーバー名**」では、「iwa50base」を指定します。この名前が、WebSphere Web アプリケーション・サーバーの名前になります。「**次へ**」を選択します。
  - | i. 「HTTP サーバー・タイプの選択」ページが表示される。「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」を選択してから、「**次へ**」を選択する。
  - | j. 「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」ページが表示されます。
    - 「**HTTP サーバー名**」に、IWA50BASE と入力する。
    - 「**ポート**」に、2028 と指定する。「**次へ**」を選択します。
  - | k. 「**アプリケーション・サーバーで使用する内部ポートの指定**」ページが表示されます。「**範囲内の最初のポート**」では、デフォルト値を 21028 に変更します。「**次へ**」を選択します。
  - | l. 「**ビジネスおよびサンプル・アプリケーションの選択**」ページが表示されます。「**要約**」ページが開くまで、「**次へ**」を選択します。
  - | m. 「**完了**」を選択します。



- n. 「管理」 → 「**Application Server**」タブ付きページをアクティブにして、Web ページが再表示されます。「インスタンス/サーバー」で、「iwa50base/iwa50base – WAS, V5 (base)」が「作成中」という状況でリストされます。この Web ページから、WebSphere Application Server を管理できます。

ページが定期的に更新されない場合は、「作成中」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

- o. 状況が「停止済み」に更新されている場合、「停止済み」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。状況が「開始中」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「開始中」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。iSeries Access for Web を構成するには、WebSphere Application Server が実行されている必要があります。

#### 重要:

状況が「実行中」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。

- p. ブラウザー・ウィンドウを最小化する。
3. iSeries Access for Web を構成する。
- a. 5250 セッション・ウィンドウを復元する。
- b. WebSphere Application Server が実行中であることを確認するには、サーバー・コマンド WRKACTJOB SBS(QEJBAS5) を実行する。
- c. IWA50BASE が QEJBAS5 サブシステムで実行中のジョブとしてリストされていることを確認する。iSeries Access for Web を構成するには、あらかじめ、WebSphere Application Server が稼働している必要があります。
- d. Web アプリケーション・サーバーの準備ができているかどうかを確認する。
- 1) IWA50BASE ジョブにオプション #5 を入力する。
  - 2) オプション #10 を入力してジョブ・ログを表示する。
  - 3) F10 を押して詳細メッセージを表示する。
  - 4) メッセージ「**WebSphere application server iwa50base ready (WebSphere Application Server iwa50base の準備ができました)**」がリストされていることを確認する。このメッセージは、アプリケーション・サーバーが完全に始動し、Web サービス提供の準備ができていることを示します。
  - 5) コマンド行に戻るまで F3 を押す。
- e. iSeries Access for Web には、製品を構成するためのコマンドがあります。コマンドには、CL コマンドと QShell スクリプト・コマンドの 2 つの異なるコマンドがあります。これらのコマンドで提供および実行される機能は同じです。いずれか希望する方のコマンドを使用してください。

#### • CL コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。

- 1) 以下のコマンドを使用して、Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS50) WASINST(iwa50base)
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

#### APPSVRTYPE

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

#### WASINST

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、F1 を押します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

- 2) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

- 3) コマンドが完了した後に F3 または Enter を押して、ディスプレイ・セッションを終了する。

• **QShell スクリプト・コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

- 1) サーバー・コマンド QSH を使用して、QShell 環境を開始する。

- 2) iSeries Access for Web ディレクトリーを現行ディレクトリーにする。以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
```

- 3) 以前に作成された Web アプリケーション・サーバーに対して iSeries Access for Web を構成する。

```
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS50 -wasinst iwa50base
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

**-appsvrtype**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

**-wasinst**

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

- 4) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

5) コマンドが完了した後、F3 を押して、QShell セッションを終了する。

f. コマンドが失敗したり、エラーを示したりする場合は、ログ・ファイルを参照してください。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmds.log**

高水準な原因およびリカバリー情報。翻訳済みです。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmdstrace.log**

IBM ソフトウェア・サービスの詳細なコマンド・フローが含まれ、英語版のみが提供されません。

g. iSeries Access for Web を正常に構成した後、構成に変更内容をロードするため、WebSphere Application Server を再起動する。この処理は、後で行われます。

h. 5250 セッション・ウィンドウからサインオフし、ウィンドウを閉じる。

4. Web 環境を開始する。

a. 「**IBM Web Administration for iSeries サーバー管理 (IBM Web Administration for iSeries server management)**」ページが開いているブラウザ・ウィンドウに戻る。

b. 「**管理**」 → 「**Application Server**」タブ付きページがアクティブになっているはずですが、「インスタンス/サーバー」で、「**iwa50base/iwa50base – WAS, V5 (base)**」が「**実行中**」という状況でリストされます。WebSphere Application Server を停止して再起動します。

1) 「**実行中**」状況の隣の赤いアイコンを選択して WebSphere サーバーを停止する。ページが定期的に更新されない場合は、「**停止中**」状況の隣の最新表示アイコンを選択してください。

2) 状況が「**停止済み**」に更新されている場合は、「**停止済み**」の隣の緑のアイコンを選択して、WebSphere Application Server を始動する。

3) 状況が「**開始中**」に更新されます。ページが定期的に更新されない場合は、「**開始中**」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

**重要:** 状況が「**実行中**」に更新されるのを待ってから、次のステップに進む必要があります。

iSeries Access for Web は、WebSphere Application Server が起動すると、ロードおよび起動します。

c. 「**HTTP サーバー**」タブ付きページを選択する。

d. 「**サーバー**」で、「**IWA50BASE - Apache**」を選択する。この Apache HTTP Server の現行状況は、「**停止済み**」になっています。状況の隣の緑のアイコンを選択して、HTTP サーバーを開始します。状況が「**実行中**」に更新されます。

e. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

5. ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。

a. ブラウザーで以下のアドレスのいずれかを開き、iSeries Access for Web にアクセスする。

`http://<server_name>:2028/webaccess/iWAHome`

`http://<server_name>:2028/webaccess/iWAMain`

b. i5/OS のユーザー ID とパスワードを使用してログインする。iSeries Access for Web の初期ロードには、数秒かかることがあります。WebSphere Application Server が初めて Java クラスをロードしています。次回以降の iSeries Access for Web のロードには、これほど時間がかかりません。

- | c. iSeries Access for Web のホーム・ページまたはメインページが表示されます。
- | d. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

| 上記のステップに従って、以下のタスクを完了しました。

- | • iwa50base という名前の WebSphere Web アプリケーション・サーバーの作成。
- | • IWA50BASE という名前の HTTP サーバーの作成。
- | • WebSphere Application Server に対する iSeries Access for Web の構成。
- | • WebSphere Application Server と HTTP Web サーバーの停止と再始動。WebSphere Application Server が開始された際に iSeries Access for Web が開始されました。
- | • Web ブラウザーから iSeries Access for Web にアクセスできることの確認。

| この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### | 関連情報

| CL コマンド・ファインダー

#### | The Apache Software Foundation (ASF) Tomcat Web サービス環境の構成:

| この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。ASF Tomcat Web サービス環境で iSeries Access for Web を実行するのに必要なすべてのステップについて説明しています。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。

| Web サービス提供環境の構成は、以下のステップから構成されます。

- | • IBM Web Administration for iSeries インターフェース (IBM HTTP Server for iSeries としても知られる) を始動する。ステップ 1 を参照してください。
- | • HTTP Web サーバーおよび ASF Tomcat Web アプリケーション・サーバーを作成する。ステップ 2 を参照してください。
- | • iSeries Access for Web を構成する。ステップ 3 (64 ページ) を参照してください。
- | • Web 環境を開始する。ステップ 4 (66 ページ) を参照してください。
- | • ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。ステップ 5 (66 ページ) を参照してください。

| Web サービス環境を構成するには、以下のステップを実行します。

- | 1. IBM Web Administration for iSeries インターフェースを開始する。
  - | a. サーバーへの 5250 セッションを開始する。
  - | b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでサインオンする。
  - | c. サーバー・コマンド STRTCPSVR SERVER(\*HTTP) HTTPSVR(\*ADMIN) を実行して、Web 管理インターフェースを開始する。
  - | d. 5250 セッションを最小化する。
- | 2. HTTP Web サーバーおよび ASF Tomcat Web アプリケーション・サーバーを作成する。
  - | a. ブラウザーで http://<server\_name>:2001 を開く。
  - | b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでログインする。

- c. 「**IBM Web Administration for iSeries**」を選択する。
- d. 「**セットアップ**」タブ付きページを選択する。
- e. 「**共通タスクおよびウィザード**」で、「**HTTP サーバーの作成**」を選択する。
- f. 「**HTTP サーバーの作成**」ページが表示されます。「**サーバー名**」に `iwatomcat` と指定してから、「**次へ**」を選択します。
- g. ページが開き、サーバーのルート・パスの入力を求めるプロンプトが表示されます。「**次へ**」を選択します。
- h. ページが開き、文書のルート・パスの入力を求めるプロンプトが表示されます。「**次へ**」を選択します。
- i. 「**IP アドレスおよびポート**」ページが表示されます。「**ポート**」に、2016 と指定します。
- j. 「**アクセス・ログ**」ページが表示されます。「**次へ**」を選択します。
- k. 「**ログの保存**」ページが表示されます。「**次へ**」を選択します。
- l. 「**完了**」を選択して、HTTP サーバーを作成する。
- m. Web ページが再表示されます。「**Manage/HTTP Servers (管理/HTTP サーバー)**」タブ付きページがアクティブになります。「**サーバー**」に、「**IWATOMCAT - APACHE**」が「**停止済み**」という状態でリストされます。
- n. 「**サーバー・プロパティ**」で、「**ASF Tomcat 設定値**」を選択する。
- o. Web ページが再表示され、「**ASF Tomcat 設定値**」が表示されます。以下の項目を指定します。
  - 「**サブレットをこの HTTP サーバーに使用可能にする**」を選択する。
  - 「**「プロセス内」サブレット・エンジンを使用可能にする**」を選択解除する。
  - 「**「プロセス外」サブレット・エンジン接続を使用可能にする**」を選択する。
  - 「**プロセス外ワーカー**」に項目を追加する。
    - 1) 「**プロセス外ワーカー**」で「**追加**」を選択する。
    - 2) 「**ホスト名:ポート**」で、8009 を 2017 に変更する。
    - 3) 「**URL (マウント・ポイント)**」で、`/webaccess/*` と指定する。
    - 4) 「**続行**」を選択する。追加したワーカーに対して警告メッセージが表示されます。このエラーは無視してください。この問題は、ASF Tomcat Web アプリケーション・サーバーのセットアップが完了すると解決します。「**OK**」を選択します。
- p. 「**ASF Tomcat サーバー**」タブ付きページを選択する。
- q. 「**Tomcat タスクおよびウィザード**」で、「**ASF Tomcat サーバーの作成**」を選択する。
- r. 「**プロセス外エンジンの作成**」ページが表示されます。「**ASF Tomcat サーバー名**」で、`iwatomcat` と指定します。「**次へ**」を選択します。
- s. 「**プロセス外エンジンの構成**」ページが表示されます。「**サーバー・ユーザー ID**」および「**ASF Tomcat ホーム**」に指定されている値に注意してください。これらの値は、iSeries Access for Web を構成する場合に使用します。「**次へ**」を選択します。
- t. 「**プロセス外通信設定**」ページが表示されます。「**ポート**」を 8009 から 2017 に変更します。「**次へ**」を選択します。
- u. 「**プロセス外アプリケーション・コンテキスト定義**」ページが表示されます。「**追加**」を選択してから、以下の値を指定します。
  - 「**URL パス**」に、`/webaccess` と指定する。
  - 「**アプリケーション基本ディレクトリ**」に、`webapps/webaccess` と指定する。



「続行」を選択します。追加したアプリケーション・コンテキストに対して警告メッセージが表示されます。このエラーは無視してください。この問題は、iSeries Access for Web が構成されると解決します。「次へ」を選択します。

- v. 「プロセス外の要約」ページが表示されます。「完了」を選択します。これにより、HTTP サーバー IWATOMCAT および iwatomcat という名前の ASF Tomcat Web アプリケーション・サーバーが作成されました。ブラウザ・ウィンドウを最小化します。

3. iSeries Access for Web を構成する。iSeries Access for Web には、製品を構成するためのコマンドがあります。コマンドには、CL コマンドと QShell スクリプト・コマンドの 2 つの異なるコマンドがあります。これらのコマンドで提供および実行される機能は同じです。いずれか希望する方のコマンドを使用してください。

• **CL コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

- a. Web アプリケーション・サーバー用に iSeriesAccess for Web を構成するため、以下のコマンドを使用する。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*ASFATOMCAT) TCSVRNAME(iwatomcat)
      TCHOMEDIR('/ASFAtomcat/iwatomcat')TCUSRPRF(QTMHHTTP)
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

#### **APPSVRTYPE**

どの Web アプリケーション・サーバーを構成するかをコマンドに知らせます。

#### **TCSVRNAME**

構成する Tomcat Web アプリケーション・サーバーの名前をコマンドに知らせます。

#### **TCHOMEDIR**

サーバーのファイル・システム内における、Tomcat Web アプリケーション・サーバーのディレクトリー構造の場所をコマンドに知らせます。この値は、ステップ 2s (63 ページ) で表示された値です。

#### **TCUSRPRF**

Tomcat Web アプリケーション・サーバーが使用するユーザー・プロファイルをコマンドに知らせます。この値は、ステップ 2s (63 ページ) で表示された値です。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、F1 を押します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

- b. 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。



c. コマンドが完了した後に F3 を押して、ディスプレイ・セッションを終了する。

• **QShell スクリプト・コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

a. サーバー・コマンド QSH を使用して、QShell 環境を開始する。

b. iSeries Access for Web ディレクトリーを現行ディレクトリーにする。以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
```

c. 以下のコマンドを使用して、iSeries Access for Web ポートレットを構成する。

```
cfgaccweb2 -appsvrtype *ASFTOMCAT -tcsvrname iwatomcat  
-tchomedir /ASFTomcat/iwatomcat -tcusrprf QTMHHTTP
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

**-appsvrtype**

どの Web アプリケーション・サーバー環境を構成するかをコマンドに知らせます。

**-tcsvrname**

構成する Tomcat Web アプリケーション・サーバーの名前をコマンドに知らせます。

**-tchomedir**

サーバーのファイル・システム内における、Tomcat Web アプリケーション・サーバーのディレクトリー構造の場所をコマンドに知らせます。この値は、ステップ 2s (63 ページ) で表示された値です。

**-tcusrprf**

Tomcat Web アプリケーション・サーバーが使用するユーザー・プロファイルをコマンドに知らせます。この値は、ステップ 2s (63 ページ) で表示された値です。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

d. 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

構成変更を使用可能にするには、WebSphere インスタンス・アプリケーション・サーバーを停止してから開始する必要があります。

e. コマンドが完了した後に F3 を押して、QShell セッションを終了する。

a. コマンドが失敗したり、エラーを示したりする場合は、ログ・ファイルを参照してください。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmds.log**

高水準な原因およびリカバリー情報。翻訳済みです。

| /QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmdstrace.log

| IBM ソフトウェア・サービスの詳細なコマンド・フローが含まれ、英語版のみが提供されま  
| す。

- | b. iSeries Access for Web を正常に構成した後、構成に変更内容をロードするには、ASF Tomcat Web  
| アプリケーション・サーバーを再起動する必要があります。この処理は、後で行われます。
- | c. 5250 セッション・ウィンドウからサインオフする。
- | d. 5250 セッション・ウィンドウを閉じる。

| 4. Web 環境を開始する。

- | a. 「**IBM Web Administration for iSeries サーバー管理 (IBM Web Administration for iSeries server  
| management)**」 ページが開いているブラウザ・ウィンドウに戻る。
- | b. 「Manage ASF Tomcat Servers (ASF Tomcat サーバーの管理)」 タブ付きページがアクティブになっ  
| ているはずですが。「サーバー」に、「IWATOMCAT – ASF Tomcat」が「停止済み」という状態で  
| リストされます。「停止済み」状況の隣の緑のアイコンを選択して、ASF Tomcat Web アプリケー  
| ション・サーバーを開始します。状況が「実行中」に更新されます。
- | c. 「HTTP サーバー」タブ付きページを選択する。
- | d. 「サーバー」で、「IWATOMCAT - Apache」を選択する。この Apache HTTP Server の現行状況  
| は、「停止済み」になっています。状況の隣の緑のアイコンを選択して、HTTP サーバーを開始しま  
| す。状況が「実行中」に更新されます。
- | e. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

| 5. ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。

- | a. ブラウザーで以下のアドレスのいずれかを開き、iSeries Access for Web にアクセスする。

| http://<server\_name>:2016/webaccess/iWAHome

| http://<server\_name>:2016/webaccess/iWAMain

- | b. i5/OS のユーザー ID とパスワードを使用してログインする。iSeries Access for Web の初期ロード  
| には、数秒かかることがあります。ASF Tomcat が初めて Java クラスをロードしています。次回以  
| 降の iSeries Access for Web のロードには、これほど時間がかかりません。
- | c. iSeries Access for Web のホーム・ページまたはメインページが表示されます。
- | d. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

| 上記のステップに従って、以下のタスクを完了しました。

- | • iwatomcat という名前の ASF Tomcat Web アプリケーション・サーバーの作成。
- | • IWATOMCAT という名前の HTTP サーバーの作成。
- | • ASF Tomcat Web アプリケーション・サーバー用の iSeries Access for Web の構成。
- | • ASF Tomcat Web アプリケーション・サーバーおよび HTTP Web サーバーの開始。ASF Tomcat Web  
| アプリケーション・サーバーが開始された際に、iSeries Access for Web が開始されました。
- | • Web ブラウザーから iSeries Access for Web にアクセスできることの確認。

| この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべ  
| ての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを  
| 使用してください。

| **関連情報**

| CL コマンド・ファインダー

## 既存の Web アプリケーション・サーバー環境の構成例

これらの例では、既存の Web サービス提供環境内の iSeries Access for Web の構成について説明しています。

これらの例では、HTTP サーバーおよび Web アプリケーション・サーバーが存在し、iSeries Access for Web で使用できるようになっていることが前提となります。

以下の例に進む前に、チェックリストの計画、インストール、および構成が完了していることを確認してください。

### WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 の構成:

WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 で使用するために iSeries Access for Web を構成するには、この情報を使用してください。

注: Network Deployment 環境に統合された WebSphere プロファイルは、iSeries Access for Web ではサポートされません。

WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 (Base および Express Editions) で使用するために iSeries Access for Web を構成するには、以下のステップに従ってください。

1. サーバーにサインオンする。
2. iSeries Access for Web を実行するように構成する WebSphere サブシステムを始動する。サーバー・コマンド STRSBS QWAS6/QWAS6 を入力します。
3. 以下のステップに従い、iSeries Access for Web を実行する WebSphere Application Server を始動する。
  - a. サーバー・コマンド STRTCPSVR \*HTTP HTTPSVR(\*ADMIN) を実行する。
  - b. ご使用のブラウザで `http://<server_name>:2001` を開く。
  - c. IBM Web Administration for iSeries リンクを選択する。
  - d. ご使用の HTTP サーバーに移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
  - e. ご使用の WebSphere Application Server に移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
  - f. アプリケーション・サーバーに稼働の状況が表示されるまで待つ。
  - g. ブラウザー・ウィンドウを最小化する。後のステップでこのウィンドウに戻ります。
4. iSeries Access for Web CL またはスクリプト構成コマンドを使用します。
  - CL コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS60) WASPRF(was_profile_name) APPSVR(app_svr)
```

- スクリプト・コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
STRQSH  
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install  
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS60 -wasprf was_profile_name -appsvr app_svr
```

構成コマンドは、以下の変数を使用します。

*was\_profile\_name*

使用している WebSphere アプリケーション・サーバー・プロファイルの名前です。CL コマンドでデフォルトの WebSphere プロファイルを使用している場合は、\*DEFAULT を指定します。

| `app_svr`

| 構成されているプロファイル内のアプリケーション・サーバーの名前です。

| これらの値について詳しくは、該当するフィールドのヘルプ・テキストを参照してください。

| **マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for  
| Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバー  
| の考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から  
| 新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の  
| CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

| 5. ステップ 3g (67 ページ) で最小化した Web 管理ブラウザ・インターフェース・ウィンドウに戻って  
| から、WebSphere Application Server を停止、再始動します。

| 6. ご使用のブラウザで `http://<your_server_name>:port/webaccess/iWAMain` を開く。大文字小文字も  
| 一致させてください。

| iSeries Access for Web のメインページが開きます。

| **注:** 最初に iWAMain ページを呼び出すときには数分かかるかもしれませんが、2 回目以降の呼び出しでは  
| それほど時間はかからないはずです。

| この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべ  
| ての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを  
| 使用してください。

#### | 関連情報

| CL コマンド・ファインダー

### WebSphere Application Server Network Deployment V6.0 for OS/400 の構成:

ここでは、WebSphere Application Server Network Deployment V6.0 for OS/400 用の iSeries Access for Web の構成について説明します。

**注:** Network Deployment 環境に統合された WebSphere プロファイルは、iSeries Access for Web ではサポートされません。

WebSphere Application Server V6.0 for OS/400 用に iSeries Access for Web を構成するには、以下の手順を実行します。

1. サーバーにサインオンする。
2. iSeries Access for Web を実行するように構成する WebSphere サブシステムを始動する。サーバー・コマンド STRSBS QWAS6/QWAS6 を入力します。
3. 以下のステップに従い、iSeries Access for Web を実行する WebSphere Application Server を始動する。
  - a. サーバー・コマンド STRTCPSVR \*HTTP HTTPSVR(\*ADMIN) を実行する。
  - b. ご使用のブラウザで `http://<server_name>:2001` を開く。
  - c. IBM Web Administration for iSeries リンクを選択する。
  - d. ご使用の HTTP サーバーに移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
  - e. ご使用の WebSphere Application Server に移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
  - f. アプリケーション・サーバーに稼働の状況が表示されるまで待つ。
  - g. ブラウザー・ウィンドウを最小化する。後のステップでこのウィンドウに戻ります。

4. iSeries Access for Web CL またはスクリプト構成コマンドを実行する。
  - CL コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行する。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS60ND) WASPRF(was_profile_name) APPSVR(app_svr)
```

- スクリプト・コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行する。

```
STRQSH  
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install  
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS60ND -wasprf was_profile_name -appsvr app_svr
```

構成コマンドは、以下の変数を使用します。

*was\_profile\_name*

使用している WebSphere アプリケーション・サーバー・プロファイルの名前です。CL コマンドでデフォルトの WebSphere プロファイルを使用している場合は、\*DEFAULT を指定しません。

*app\_svr*

構成されているプロファイル内のアプリケーション・サーバーの名前です。

これらの値について詳しくは、該当するフィールドのヘルプ・テキストを参照してください。

| **マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for  
| Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバー  
| の考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から  
| 新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の  
| CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

5. ステップ 3g (68 ページ) で最小化した Web 管理ブラウザ・インターフェース・ウィンドウに戻り、WebSphere Application Server を停止し、再始動する。
6. ご使用のブラウザで `http://<your_server_name>:port/webaccess/iWAMain` を開く。大文字小文字も一致させてください。

iSeries Access for Web のメインページが開きます。

注: 最初に iWAMain ページを呼び出すときには数分かかるかもしれませんが、2 回目以降の呼び出しではそれほど時間はかからないはずです。

| この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべ  
| での iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを  
| 使用してください。

#### 関連情報

CL コマンド・ファインダー

#### WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.1 の構成:

WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.1 で使用するために iSeries Access for Web を構成するには、次のステップに従ってください。

1. サーバーにサインオンする。
2. iSeries Access for Web を実行するように構成する WebSphere サブシステムを始動する。サーバー・コマンド STRSBS QASE51/QASE51 を入力します。

3. 以下のステップに従い、iSeries Access for Web を実行する WebSphere Application Server を始動する。
  - a. サーバー・コマンド `STRTCPSVR *HTTP HTTPSVR(*ADMIN)` を実行する。
  - b. ご使用のブラウザで `http://<server_name>:2001` を開く。
  - c. IBM Web Administration for iSeries リンクを選択する。
  - d. ご使用の HTTP サーバーに移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
  - e. ご使用の WebSphere Express アプリケーション・サーバーに移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
  - f. アプリケーション・サーバーに稼働の状況が表示されるまで待つ。
  - g. ブラウザー・ウィンドウを最小化する。後のステップでこのウィンドウに戻ります。

4. iSeries Access for Web CL またはスクリプト構成コマンドを使用します。

- CL コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS51EXP) WASINST(was_instance_name)
  APPSVR(app_svr)
```

- スクリプト・コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
STRQSH
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS51EXP -wasinst was_instance_name
  -appsvr app_svr
```

構成コマンドは、以下の変数を使用します。

*was\_instance\_name*

使用している WebSphere アプリケーション・サーバー・インスタンスの名前です。

*app\_svr*

構成されているインスタンス内のアプリケーション・サーバーの名前です。

これらの値について詳しくは、該当するフィールドのヘルプ・テキストを参照してください。

| **マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for  
 | Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバー  
 | の考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から  
 | 新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の  
 | CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

5. ステップ 3g で最小化した Web 管理ブラウザ・インターフェース・ウィンドウに戻ってから、WebSphere Express Application Server を停止、再始動します。
6. ご使用のブラウザで `http://<your_server_name>:port/webaccess/iWAMain` を開く。大文字小文字も一致させてください。

iSeries Access for Web のメインページが表示されます。

注: 最初に iWAMain ページを呼び出すときには数分かかるかもしれませんが、2 回目以降の呼び出しではそれほど時間はかからないはずで。



| この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### 関連情報

CL コマンド・ファインダー

#### | WebSphere Application Server V5.1 for iSeries の構成:

| WebSphere Application Server V5.1 for iSeries で使用するために iSeries Access for Web を構成するには、この情報を使用してください。

| 注: Network Deployment 環境に統合された WebSphere インスタンス は、iSeries Access for Web ではサポートされません。

| WebSphere Application Server V5.1 for iSeries (Base および Network Deployment Editions) で使用するために iSeries Access for Web を構成するには、以下のステップに従ってください。

- | 1. サーバーにサインオンする。
- | 2. iSeries Access for Web を実行するように構成する WebSphere サブシステムを始動する。サーバー・コマンド STRSBS QEJBAS51/QEJBAS51 を入力します。
- | 3. 以下のステップに従って、iSeries Access for Web を実行するように構成する WebSphere インスタンスを開始する。
  - | a. サーバー・コマンド STRTCPSVR \*HTTP HTTPSVR(\*ADMIN) を実行する。
  - | b. ご使用のブラウザで `http://<server_name>:2001` を開く。
  - | c. IBM Web Administration for iSeries リンクを選択する。
  - | d. ご使用の HTTP サーバーに移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
  - | e. ご使用の WebSphere Express アプリケーション・サーバーに移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
  - | f. アプリケーション・サーバーに稼働の状況が表示されるまで待つ。
  - | g. ブラウザー・ウィンドウを最小化する。後のステップでこのウィンドウに戻ります。
- | 4. iSeries Access for Web CL またはスクリプト構成コマンドを使用します。
  - | • CL コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS51) WASINST(was_instance_name) APPSVR(app_svr)
```

- | • iSeries Access for Web スクリプト・コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
STRQSH
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS51 -wasinst was_instance_name -appsvr app_svr
```

構成コマンドは、以下の変数を使用します。

*was\_instance\_name*

使用している WebSphere アプリケーション・サーバー・インスタンスの名前です。

*app\_svr*

構成されているインスタンス内のアプリケーション・サーバーの名前です。

これらの値について詳しくは、該当するフィールドのヘルプ・テキストを参照してください。

- マイグレーションに関する注: 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。
5. ステップ 3g (71 ページ) で最小化した Web 管理ブラウザ・インターフェース・ウィンドウに戻ってから、WebSphere Application Server を停止、再始動します。
  6. ご使用のブラウザで `http://<your_server_name>:port/webaccess/iWAMain` を開く。大文字小文字も一致させてください。

iSeries Access for Web のメインページが開きます。

注: 最初に iWAMain ページを呼び出すときには数分かかるかもしれませんが、2 回目以降の呼び出しではそれほど時間はかからないはずです。

この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### 関連情報

CL コマンド・ファインダー

#### WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.0 の構成:

WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.0 で使用するために iSeries Access for Web を構成するには、次の情報を使用してください。

1. サーバーにサインオンする。
2. WebSphere サブシステムを始動する。サーバー・コマンド STRSBS QASE5/QASE5 を実行します。
3. iSeries Access for Web を実行するように構成する WebSphere Express アプリケーション・サーバーを始動する。
  - a. サーバー・コマンド STRTCPSVR \*HTTP HTTPSVR(\*ADMIN) を実行する。
  - b. ご使用のブラウザで `http://<server_name>:2001` を開く。
  - c. IBM Web Administration for iSeries リンクを選択する。
  - d. ご使用の HTTP サーバーに移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
  - e. ご使用の WebSphere Express アプリケーション・サーバーに移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
  - f. アプリケーション・サーバーに稼働の状況が表示されるまで待つ。
  - g. ブラウザー・ウィンドウを最小化し、後のステップでこのウィンドウに戻ります。
4. 適切な iSeries Access for Web 構成コマンドを使用します。
  - CL コマンドを使用するには、以下のコマンドを実行します。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS50EXP) WASINST(was_instance_name) APPSVR(app_svr)
```

- スクリプト・コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
STRQSH
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS50EXP -wasinst was_instance_name -appsvr app_svr
```

| 構成コマンドは、以下の変数を使用します。  
| `was_instance_name`  
|        使用している WebSphere Express アプリケーション・サーバー・インスタンスの名前です。

| `app_svr`  
|        構成されているインスタンス内のアプリケーション・サーバーの名前です。

| これらの値について詳しくは、該当するフィールドのヘルプ・テキストを参照してください。

| **マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for  
| Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバー  
| の考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から  
| 新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の  
| CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

| 5. ステップ 3g (72 ページ) で最小化した Web 管理ブラウザ・インターフェース・ウィンドウに戻りま  
| す。WebSphere Express アプリケーション・サーバーを停止、再始動します。

| 6. ご使用のブラウザで `http://<your_server_name>:port/webaccess/iWAMain` を開く。大文字小文字も  
| 一致させてください。

iSeries Access for Web のメインページが表示されます。

注: 最初に iWAMain ページを呼び出すときには数分かかるかもしれませんが、2 回目以降の呼び出しでは  
それほど時間はかからないはずです。

| この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべ  
| ての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを  
| 使用してください。

#### 関連情報

CL コマンド・ファインダー

### WebSphere Application Server V5.0 for iSeries の構成:

WebSphere Application Server V5.0 for iSeries (Base および Network Deployment Editions) で使用するた  
めに iSeries Access for Web を構成するには、次のステップに従ってください。

注: Network Deployment 環境に統合された WebSphere インスタンス は、iSeries Access for Web ではサ  
ポートされません。

WebSphere Application Server V5.0 for iSeries (Base および Network Deployment Editions) で使用するた  
めに iSeries Access for Web を構成するには、以下のステップに従ってください。

1. サーバーにサインオンする。
2. iSeries Access for Web を実行するように構成する WebSphere サブシステムを始動する。サーバー・コ  
マンド STRSBS QEJBAS5/QEJBAS5 を実行します。
3. iSeries Access for Web を実行するように構成する WebSphere アプリケーション・サーバーを始動す  
る。以下のステップに従ってください。
  - a. サーバー・コマンド STRTCPSVR \*HTTP HTTPSVR(\*ADMIN) を実行する。
  - b. ご使用のブラウザで `http://<server_name>:2001` を開く。
  - c. IBM Web Administration for iSeries リンクを選択する。
  - d. ご使用の HTTP サーバーに移動し、まだ稼働していない場合は始動する。

- e. ご使用の WebSphere Express アプリケーション・サーバーに移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
- f. アプリケーション・サーバーに稼働の状況が表示されるまで待つ。
- g. ブラウザー・ウィンドウを最小化し、後のステップでこのウィンドウに戻ります。

4. 適切な iSeries Access for Web 構成コマンドを実行します。

- CL コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WAS50) WASINST(was_instance_name) APPSVR(app_svr)
```

- スクリプト・コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
STRQSH  
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install  
cfgaccweb2 -appsvrtype *WAS50 -wasinst was_instance_name -appsvr app_svr
```

構成コマンドは、以下の変数を使用します。

*was\_instance\_name*

使用している WebSphere アプリケーション・サーバー・インスタンスの名前です。デフォルトの WebSphere インスタンスおよび CL 構成コマンドを使用する場合、\*DEFAULT を指定してください。インスタンスの指定について詳しくは、適切なヘルプ・テキストを参照してください。

*app\_svr*

構成されているインスタンス内のアプリケーション・サーバーの名前です。

これらの値について詳しくは、該当するフィールドのヘルプ・テキストを参照してください。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

- 5. ステップ 3g で最小化した Web 管理ブラウザ・インターフェース・ウィンドウに戻ってから、WebSphere Application Server を停止、再始動します。
- 6. ご使用のブラウザで `http://<your_server_name>:port/webaccess/iWAMain` を開く。大文字小文字も一致させてください。

iSeries Access for Web のホーム・メインページが表示されます。

注: 最初に iWAMain ページを呼び出すときには数分かかるかもしれませんが、2 回目以降の呼び出しではそれほど時間はかからないはずです。

この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### 関連情報

CL コマンド・ファインダー

#### ASF Tomcat の構成:

Apache Software Foundation (ASF) Tomcat 用に iSeries Access for Web を構成するには、以下の情報を使用してください。

ASF Tomcat 用に iSeries Access for Web を構成するには、以下のステップを実行します。

1. サーバーにサインオンする。

2. 適切な iSeries Access for Web 構成コマンドを使用する。

- CL コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行する。

```
QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*ASFTOMCAT) TCSVRNAME(tc_server_name)
      TCHOMEDIR('tc_home_directory') TCUSRPRF(user_id)
```

- スクリプト・コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行する。

```
STRQSH
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
cfgaccweb2 -appsvrtype *ASFTOMCAT -tcsvrname tc_server_name
           -tchomedir tc_home_directory -tcusrprf user_id
```

構成コマンドは、以下の変数を使用する。

*tc\_server\_name*

iSeries Access for Web を実行するように作成した ASF Tomcat サーバーの名前です。

*tc\_home\_directory*

ASF Tomcat サーバーをセットアップしたときに指定した ASF Tomcat ホーム・ディレクトリです。このパスがわからない場合には、IBM Web Administration for iSeries インターフェースを使用して、ASF Tomcat サーバーの設定を調べてください。

*user\_id* ASF Tomcat サーバーをセットアップしたときに指定した Tomcat サーバー・ユーザー ID です。このユーザー ID がわからない場合には、IBM Web Administration for iSeries インターフェースを使用して、ASF Tomcat サーバーの設定を調べてください。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。

**マイグレーションに関する注:** 別の Web アプリケーション・サーバー 内で既に iSeries Access for Web を使用している場合は、『新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項』を参照してください。このトピックでは、既存の構成から新規構成にデータをマイグレーションするときに入力する追加の CFGACCWEB2 コマンド・パラメーターについて説明します。

3. サーバー・コマンド STRTCPSVR SERVER(\*HTTP) HTTPSVR(*http\_server\_name*) を実行して HTTP サーバーを開始する。

**注:** *http\_server\_name* は、作成した IBM HTTP server powered by Apache の名前で置き換えてください。

4. ASF Tomcat サーバーを停止し、再始動する。以下のサーバー・コマンドを実行します。

*tc\_server\_name* は ASF Tomcat サーバーの名前です。

```
ENDTCPSVR SERVER(*ASFTOMCAT) TOMCATSVR(tc_server_name)
STRTCPSVR SERVER(*ASFTOMCAT) TOMCATSVR(tc_server_name)
```

5. ご使用のブラウザで `http://<your_server_name>:port/webaccess/iWAMain` を開く。大文字小文字も一致させてください。



iSeries Access for Web のメインページが表示されます。

注: 最初に iWAMain ページを呼び出すときには数分かかるかもしれませんが、2 回目以降の呼び出しではそれほど時間はかからないはずです。

- | この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### 関連情報

CL コマンド・ファインダー

### 新規 Web アプリケーション・サーバーの考慮事項

iSeries Access for Web を Web アプリケーション・サーバー用に構成し、新規の Web アプリケーション・サーバーを環境に追加するときに、この情報を使用します。

この状況では、iSeries Access for Web は、新規の Web アプリケーション・サーバー用に構成し、ユーザー生成データおよび構成設定を自動的に保存することができます。CFGACCWEB2 コマンドでは、iSeries Access for Web が構成されている既存の Web アプリケーション・サーバー構成を識別する 4 つの入力パラメーターを提供します。コマンドの実行時、ユーザー・データは新規の Web アプリケーション・サーバー構成にコピーされるか、リンクされます。以下のパラメーターを使用します。

#### SRCSVRTYPE

ソース Web サーバー・タイプ

#### SRCSVRINST

ソース Web サーバー・インスタンス

#### SRCAPPSVR

ソース・アプリケーション・サーバー

#### SHRUSRDTA

ユーザー・データの共有

CFGACCWEB2 コマンドおよびそのパラメーターについては、ヘルプ・テキストを参照してください。

#### 関連情報

CFGACCWEB2 CL コマンド

## Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web のカスタマイズ

iSeries Access for Web のカスタマイズに関する情報については、以下のトピックを使用してください。

以下のトピックでは、iSeries Access for Web 機能へのアクセスの制御およびページ・コンテンツの表示方法のカスタマイズに関する情報を提供します。

### ポリシー

ポリシーのカスタマイズ機能は iSeries Access for Web 機能へのアクセスを制御します。個々のポリシー設定は、iSeries ユーザーおよびグループ・プロファイル・レベルで管理することができます。

デフォルトでは、たいていのポリシーは iSeries Access for Web 機能へのすべてのユーザー・アクセスを許可するように設定されています。機能が否定に設定されている場合、そのナビゲーション・メニューの内

容は表示されず、対応する機能へのアクセスは制限されます。ユーザーが機能の URL を指定して機能に直接アクセスを試みている場合も、機能は制限されます。管理者がユーザーまたはグループに対してポリシーを設定すると、それは即時に有効になります。

ポリシーに対するオンライン・ヘルプにはポリシー機能の使用に関する情報および使用可能なポリシー設定のそれぞれに対する詳細な説明が含まれています。

#### 関連概念

7 ページの『セキュリティ上の考慮事項』

iSeries Access for Web でのセキュリティ上の考慮事項について説明します。

## デフォルト・ページ・コンテンツ

iSeries Access for Web は、ユーザー処置への応答として、たいていのページ・コンテンツを動的に生成します。コンテンツの残りは、静的 HTML ファイルから取得されます。スタイル・シートは、コンテンツの外観の特定の特徴を制御するためにも使用されます。

静的コンテンツを提供するために、デフォルトのコンテンツ HTML ファイルが用意されています。ユーザー提供のファイルは、カスタマイズされたコンテンツを提供するためにデフォルト・インプリメンテーションの代わりに使用することができます。カスタマイズ機能は、どのファイルを使用するかを指定するために使用されます。ユーザー提供ファイルの構成は、個別のユーザーについて行うことも、ユーザーのグループについて行うことも、すべてのユーザー (\*PUBLIC) について行うこともできます。

コンテンツの外観の特徴を制御するため、デフォルトのスタイル・シートも提供されています。このスタイル・シートは、デフォルト・ホーム・ページ、デフォルト・ページ・テンプレート、およびデフォルト・ログイン・テンプレートから参照されます。このスタイル・シートの使用をカスタマイズされたスタイル・シートで置き換えるには、ユーザー定義の HTML ファイルを作成し、新規スタイル・シートにリンクするようにスタイル・シート参照を変更する必要があります。

以下のトピックはカスタマイズできるコンテンツに関する情報を含んでいます。

#### 関連概念

19 ページの『ブラウザの考慮事項』

78 ページの『カスタマイズされたコンテンツ』

iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。スタイル・シートは、製品の外観の特徴を制御するためにも使用されます。ユーザー提供のファイルは、デフォルト・インプリメンテーションの代わりに使用することができます。このユーザー提供ファイルの作成に際しては、以下の考慮事項があります。

79 ページの『特殊タグ』

iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。このコンテンツにはデフォルトのインプリメンテーションがあります。また、ユーザー指定のファイルを使用することもできます。このファイルでは、数多くの特殊タグが使用できます。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。

81 ページの『スタイル・シート』

iSeries Access for Web では、カスケードリング・スタイル・シート (CSS) を使用して、ページ・コンテンツの特定の外観を制御します。

9 ページの『シングル・サインオンの考慮事項』

このトピックでは、Web アプリケーション・サーバーおよびポータル環境での iSeries Access for Web によるシングル・サインオン (SSO) に関する考慮事項をリストします。

#### 関連資料

114 ページの『マイ・ホーム・ページ』

iSeries Access for Web は、ホーム・ページ URL ([http://<server\\_name>/webaccess/iWAHome](http://<server_name>/webaccess/iWAHome)) にアクセスしたときに表示されるデフォルト・ホーム・ページを配信します。

#### ホーム・ページ:

iSeries Access for Web のホーム・ページは、ホーム・ページ URL ([http://<server\\_name>/webaccess/iWAHome](http://<server_name>/webaccess/iWAHome)) にアクセスしたときに表示されます。

デフォルトのホーム・ページ・コンテンツは、</QIBM/ProdData/Access/Web2/html/homepage.html> にあります。製品概要を提供し、カスタマイズされたホーム・ページを開発するための例として機能します。デフォルトのホーム・ページの代わりにカスタマイズされたコンテンツを使用するには、新規のホーム・ページ・ファイルを作成し、「カスタマイズ」を使用してホーム・ページ HTML ファイルとして新規ファイルを設定します。

iSeries Access for Web は、ホーム・ページ・ファイル内での特殊タグの使用をサポートしています。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。

デフォルト・ホーム・ページには、ローカライズされたバージョンの iSeries Access for Web デフォルト・スタイル・シート ([/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/iwa\\_styles.css](/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/iwa_styles.css)) へのリンクも含まれています。このスタイル・シートはホーム・ページの外観の特徴を制御します。このスタイル・シートの使用をオーバーライドするには、新規のスタイル・シートを作成し、それを参照するカスタマイズ済みホーム・ページを使用します。

#### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

#### カスタマイズされたコンテンツ:

iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。スタイル・シートは、製品の外観の特徴を制御するためにも使用されます。ユーザー提供のファイルは、デフォルト・インプリメンテーションの代わりに使用することができます。このユーザー提供ファイルの作成に際しては、以下の考慮事項があります。

- </QIBM/ProdData/Access/Web2/html> 内のデフォルト・ファイルを開始点として使用できますが、直接変更してはなりません。このファイルは、製品ファイル専用の製品ディレクトリーにあります。

デフォルト・ファイルを開始点として使用する場合は、これを </QIBM/UserData/Access/Web2> ツリー、または iSeries 統合ファイル・システム内の別の場所にコピーする必要があります。そのうえで、このファイルのコピーに対して変更を行うことができます。

- 1 デフォルト・ファイルのローカライズ・バージョンは、</QIBM/ProdData/Access/Web2/html> の下のサブディレクトリーにあります。サブディレクトリーは、ISO 言語コードおよび ISO 国別コードを使用して指定されます。このコードは、ISO-639 および ISO-3166 で定義される小文字の 2 文字のコードです。
- \*PUBLIC, QEJBSVR (WebSphere の場合)、または QTMHHTTP (ASF Tomcat の場合) は、少なくとも、ユーザー提供 HTML ファイルおよびそれによって参照されるファイルに対する \*RX 権限を所有している必要があります。この権限は、これらのファイルが入っているディレクトリーについても必要です。

- ユーザー提供の HTML ファイルがイメージ、スタイル・シート、または絶対パス付きの他の外部参照を含んでいる場合、HTTP サーバーは、このファイルにサービスを提供するように構成する必要があります。外部参照がユーザー提供 HTML ファイルを含むパスに相対なパスを含んでいる場合、HTTP サーバー構成は必要ありません。
- イメージ・ファイルは、/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/images ディレクトリーには入れないようにしてください。このディレクトリーは、プロダクトのイメージ・ファイル専用のディレクトリーです。

### 関連概念

#### 77 ページの『デフォルト・ページ・コンテンツ』

iSeries Access for Web は、ユーザー処置への応答として、たいていのページ・コンテンツを動的に生成します。コンテンツの残りは、静的 HTML ファイルから取得されます。スタイル・シートは、コンテンツの外観の特定の特徴を制御するためにも使用されます。

#### 『特殊タグ』

iSeries Access for Web コンテントの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。このコンテンツにはデフォルトのインプリメンテーションがあります。また、ユーザー指定のファイルを使用することもできます。このファイルでは、数多くの特殊タグが使用できます。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。

#### 81 ページの『スタイル・シート』

iSeries Access for Web では、カスケディング・スタイル・シート (CSS) を使用して、ページ・コンテンツの特定の外観を制御します。

#### 82 ページの『メインページ』

iSeries Access for Web のメインページは、メインページ URL ([http://< server\\_name >/webaccess/iWAMain](http://< server_name >/webaccess/iWAMain)) にパラメーターなしでアクセスしたときに表示されます。

#### 84 ページの『ページ・テンプレート』

iSeries Access for Web のページ・テンプレートには、機能ページの動的に生成されたコンテンツの前後に表示するための静的コンテンツが含まれます。

#### 88 ページの『ログイン・テンプレート』

ログイン・テンプレートは、iSeries Access for Web がフォーム・ベースの、アプリケーション・サーバー認証用に構成される際に、ログイン・フォームの前後に表示するためのコンテンツを提供します。フォーム・ベースのアプリケーション・サーバー認証についての情報は、『セキュリティーの考慮事項』を参照してください。

### 特殊タグ:

iSeries Access for Web コンテントの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。このコンテンツにはデフォルトのインプリメンテーションがあります。また、ユーザー指定のファイルを使用することもできます。このファイルでは、数多くの特殊タグが使用できます。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。

サポートされるタグ、タグを置き換えるコンテンツ、およびタグをサポートするファイルは、以下のとおりです。

#### %%CONTENT%%

ページの機能コンテンツで置き換えられます。このタグは、テンプレート・ヘッダーとテンプレート・フッターを分離します。

ページ・テンプレート (必須タグ) およびログイン・テンプレート (必須タグ) でサポートされます。

| **%%include section=file%%**

| HTML フラグメントで置き換えられます (この *file* は、使用される HTML フラグメントが入っている  
| ファイルに関する情報を含むファイルを表します)。組み込まれる HTML セクションは、個別のユーザー  
| について、ユーザーのグループについて、あるいはすべてのユーザー (\*PUBLIC) について調整することが  
| できます。ホーム・ページが表示される際に、このタグは、現行ユーザー・プロファイルに関する該当の  
| HTML フラグメントで置き換えられます。サンプルのファイルが  
| /QIBM/ProdData/Access/Web2/config/phone.polices にあります。デフォルトのホーム・ページでは、  
| %%include section=file%% タグを使用して このファイルを参照しています。

| ホーム・ページでサポートされます。

| **%%MENU%%**

| iSeries Access for Web ナビゲーション・バーで置き換えられます。

| 注: このタグが指定されている場合、ナビゲーション・ポリシーおよびナビゲーション・バー・ポリシーの  
| 値は無視されます。

| ホーム・ページでサポートされます。

| **%%STYLESHEET%%**

| iSeries Access for Web のデフォルト・スタイル・シートへのリンクで置き換えられます。

| ホーム・ページ、ページ・テンプレート (ヘッダーのみ)、およびログイン・テンプレート (ヘッダーのみ)  
| でサポートされます。

| **%%STYLESHEET\_CLASSIC\_COLORS%%**

| V5R4M0 よりも前の iSeries Access for Web で使用されているカラー・スキームを使用する iSeries Access  
| for Web スタイル・シートへのリンクで置換されます。

| 注: このタグを指定する場合は、%%STYLESHEET%% タグの後に指定する必要があります。

| ホーム・ページ、ページ・テンプレート (ヘッダーのみ)、およびログイン・テンプレート (ヘッダーのみ)  
| でサポートされます。

| **%%TITLE%%**

| ページのタイトルで置き換えられます。

| ホーム・ページ、ページ・テンプレート (ヘッダーのみ)、およびログイン・テンプレート (ヘッダーのみ)  
| でサポートされます。

| **%%SYSTEM%%**

| アクセスされている iSeries サーバーの名前で置き換えられます。

| ホーム・ページおよびページ・テンプレートでサポートされます。

| **%%USER%%**

| iSeries リソースへのアクセスに使用される iSeries ユーザー・プロファイルで置き換えられます。



| ホーム・ページおよびページ・テンプレートでサポートされます。

| %%VERSION%%

| インストールされている iSeries Access for Web のバージョンで置き換えられます。

| ホーム・ページ、ページ・テンプレート、およびログイン・テンプレートでサポートされます。

#### | 関連概念

| 77 ページの『デフォルト・ページ・コンテンツ』

| iSeries Access for Web は、ユーザー処置への応答として、たいていのページ・コンテンツを動的に生成します。コンテンツの残りは、静的 HTML ファイルから取得されます。スタイル・シートは、コンテンツの外観の特定の特徴を制御するためにも使用されます。

| 78 ページの『カスタマイズされたコンテンツ』

| iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。スタイル・シートは、製品の外観の特徴を制御するためにも使用されます。ユーザー提供のファイルは、デフォルト・インプリメンテーションの代わりに使用することができます。このユーザー提供ファイルの作成に際しては、以下の考慮事項があります。

| 『スタイル・シート』

| iSeries Access for Web では、カスケーディング・スタイル・シート (CSS) を使用して、ページ・コンテンツの特定の外観を制御します。

| 84 ページの『ページ・テンプレート』

| iSeries Access for Web のページ・テンプレートには、機能ページの動的に生成されたコンテンツの前後に表示するための静的コンテンツが含まれます。

| 88 ページの『ログイン・テンプレート』

| ログイン・テンプレートは、iSeries Access for Web がフォーム・ベースの、アプリケーション・サーバー認証用に構成される際に、ログイン・フォームの前後に表示するためのコンテンツを提供します。フォーム・ベースのアプリケーション・サーバー認証についての情報は、『セキュリティーの考慮事項』を参照してください。

#### スタイル・シート:

iSeries Access for Web では、カスケーディング・スタイル・シート (CSS) を使用して、ページ・コンテンツの特定の外観を制御します。

デフォルトのスタイル・シートは、ページ・ヘッダー、ページ・フッター、ナビゲーション・バー、およびページ・コンテンツの外観を制御します。このスタイル・シートは、%%STYLESHEET%% 特殊タグを使用するデフォルト・ホーム・ページ、デフォルト・ページ・テンプレート、およびデフォルト・ログイン・テンプレートから参照されます。デフォルトのスタイル・シートは、/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/iwa\_styles.css にあります。

2 番目のスタイル・シートは、デフォルトのスタイル・シートで使用されている色を V5R4M0 よりも前の iSeries Access for Web で使用されている色でオーバーライドします。このスタイル・シートは、%%STYLESHEET\_CLASSIC\_COLORS%% 特殊タグを使用する旧来のページ・テンプレート (/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/webaccess\_classic.html) から参照されます。このスタイル・シートは、/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/iwa\_classic\_colors.css にあります。

iSeries Access for Web スタイル・シートは、カスタマイズされたホーム・ページ、ページ・テンプレート、またはログイン・テンプレートで使用することができます。 %%STYLESHEET%% および %%STYLESHEET\_CLASSIC\_COLORS%% 特殊タグを使用して、スタイル・シートをカスタマイズしたファイルに組み込みます。

カスタマイズされたスタイル・シートを作成するには、開始点として、iSeries Access for Web スタイル・シートを使用します。カスタマイズされたスタイル・シートは、カスタマイズされたホーム・ページ、ページ・テンプレート、またはログイン・テンプレートから参照される必要があります。これには、HTML で CSS を使用する知識が必要となります。

### 関連概念

78 ページの『カスタマイズされたコンテンツ』

iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。スタイル・シートは、製品の外観の特徴を制御するためにも使用されます。ユーザー提供のファイルは、デフォルト・インプリメンテーションの代わりに使用することができます。このユーザー提供ファイルの作成に際しては、以下の考慮事項があります。

79 ページの『特殊タグ』

iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。このコンテンツにはデフォルトのインプリメンテーションがあります。また、ユーザー指定のファイルを使用することもできます。このファイルでは、数多くの特殊タグが使用できます。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。

84 ページの『ページ・テンプレート』

iSeries Access for Web のページ・テンプレートには、機能ページの動的に生成されたコンテンツの前後に表示するための静的コンテンツが含まれます。

88 ページの『ログイン・テンプレート』

ログイン・テンプレートは、iSeries Access for Web がフォーム・ベースの、アプリケーション・サーバー認証用に構成される際に、ログイン・フォームの前後に表示するためのコンテンツを提供します。フォーム・ベースのアプリケーション・サーバー認証についての情報は、『セキュリティーの考慮事項』を参照してください。

### メインページ:

iSeries Access for Web のメインページは、メインページ URL ([http://< server\\_name >/webaccess/iWAMain](http://< server_name >/webaccess/iWAMain)) にパラメーターなしでアクセスしたときに表示されます。

デフォルトのメインページ・コンテンツは、</QIBM/ProdData/Access/Web2/html/overview.html> に提供されます。機能概要情報が提供されます。デフォルトのメインページの代わりにカスタマイズされたコンテンツを使用するには、新規のメインページ・ファイルを作成し、「カスタマイズ」機能を使用してメインページ HTML ファイルとして新規ファイルを指定します。

### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

### カスタマイズされたコンテンツ:

iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。スタイル・シートは、製品の外観の特徴を制御するためにも使用されます。ユーザー提供のファイルは、デフォルト・インプリメンテーションの代わりに使用することができます。このユーザー提供ファイルの作成に際しては、以下の考慮事項があります。

- /QIBM/ProdData/Access/Web2/html 内のデフォルト・ファイルを開始点として使用できますが、直接変更してはなりません。このファイルは、製品ファイル専用の製品ディレクトリーにあります。

デフォルト・ファイルを開始点として使用する場合は、これを /QIBM/UserData/Access/Web2 ツリー、または iSeries 統合ファイル・システム内の別の場所にコピーする必要があります。そのうえで、このファイルのコピーに対して変更を行うことができます。

- 1 デフォルト・ファイルのローカライズ・バージョンは、/QIBM/ProdData/Access/Web2/html の下のサブディレクトリーにあります。サブディレクトリーは、ISO 言語コードおよび ISO 国別コードを使用して指定されます。このコードは、ISO-639 および ISO-3166 で定義される小文字の 2 文字のコードです。
- \*PUBLIC, QEJBSVR (WebSphere の場合)、または QTMHHTTP (ASF Tomcat の場合) は、少なくとも、ユーザー提供 HTML ファイルおよびそれによって参照されるファイルに対する \*RX 権限を所有している必要があります。この権限は、これらのファイルが入っているディレクトリーについても必要です。
- ユーザー提供の HTML ファイルがイメージ、スタイル・シート、または絶対パス付きの他の外部参照を含んでいる場合、HTTP サーバーは、このファイルにサービスを提供するように構成する必要があります。外部参照がユーザー提供 HTML ファイルを含むパスに相対なパスを含んでいる場合、HTTP サーバー構成は必要ありません。
- イメージ・ファイルは、/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/images ディレクトリーには入れないようにしてください。このディレクトリーは、プロダクトのイメージ・ファイル専用のディレクトリーです。

#### 関連概念

##### 77 ページの『デフォルト・ページ・コンテンツ』

iSeries Access for Web は、ユーザー処置への応答として、たいていのページ・コンテンツを動的に生成します。コンテンツの残りは、静的 HTML ファイルから取得されます。スタイル・シートは、コンテンツの外観の特定の特徴を制御するためにも使用されます。

##### 79 ページの『特殊タグ』

iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。このコンテンツにはデフォルトのインプリメンテーションがあります。また、ユーザー指定のファイルを使用することもできます。このファイルでは、数多くの特殊タグが使用できます。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。

##### 78 ページの『ホーム・ページ』

iSeries Access for Web のホーム・ページ URL にアクセスすると、ホーム・ページが表示されます。

##### 81 ページの『スタイル・シート』

iSeries Access for Web では、カスケーディング・スタイル・シート (CSS) を使用して、ページ・コンテンツの特定の外観を制御します。

##### 82 ページの『メインページ』

iSeries Access for Web のメインページは、メインページ URL (`http://< server_name >/webaccess/iWAMain`) にパラメーターなしでアクセスしたときに表示されます。

##### 84 ページの『ページ・テンプレート』

iSeries Access for Web のページ・テンプレートには、機能ページの動的に生成されたコンテンツの前後に表示するための静的コンテンツが含まれます。

##### 88 ページの『ログイン・テンプレート』

ログイン・テンプレートは、iSeries Access for Web がフォーム・ベースの、アプリケーション・サーバー認証用に構成される際に、ログイン・フォームの前後に表示するためのコンテンツを提供します。フォーム・ベースのアプリケーション・サーバー認証についての情報は、『セキュリティーの考慮事項』を参照してください。

## 関連資料

114 ページの『マイ・ホーム・ページ』

iSeries Access for Web は、ホーム・ページ URL ([http://<server\\_name>/webaccess/iWAHome](http://<server_name>/webaccess/iWAHome)) にアクセスしたときに表示されるデフォルト・ホーム・ページを配信します。

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

## ページ・テンプレート:

iSeries Access for Web のページ・テンプレートには、機能ページの動的に生成されたコンテンツの前後に表示するための静的コンテンツが含まれます。

デフォルトのページ・テンプレートは、`/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/webaccess.html` に提供されます。製品名、現在の iSeries ユーザー、および iSeries サーバー名付きのページ・ヘッダーが含まれます。製品バージョン番号および IBM インターネット・サイトへのリンク付きのページ・フッターも含まれます。デフォルトのページ・テンプレートの代わりにカスタマイズされたコンテンツを使用するには、新規のページ・テンプレート・ファイルを作成し、「カスタマイズ」機能を使用してテンプレート HTML ファイルとして新規ファイルを指定します。

iSeries Access for Web は、ページ・テンプレート・ファイル内での特殊タグの使用をサポートしています。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。

デフォルト・ページ・テンプレートには、ローカライズされたバージョンの iSeries Access for Web デフォルト・スタイル・シート (`/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/iwa_styles.css`) へのリンクも含まれています。このスタイル・シートは、ナビゲーション・バーの外観と同様にコンテンツ領域の外観の特徴を制御します。このスタイル・シートの使用をオーバーライドするには、新規のスタイル・シートを作成し、それを参照するカスタマイズ済みページ・テンプレートを使用します。

## 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

## カスタマイズされたコンテンツ:

iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。スタイル・シートは、製品の外観の特徴を制御するためにも使用されます。ユーザー提供のファイルは、デフォルト・インプリメンテーションの代わりに使用することができます。このユーザー提供ファイルの作成に際しては、以下の考慮事項があります。

- `/QIBM/ProdData/Access/Web2/html` 内のデフォルト・ファイルを開始点として使用できますが、直接変更してはなりません。このファイルは、製品ファイル専用の製品ディレクトリーにあります。

デフォルト・ファイルを開始点として使用する場合は、これを `/QIBM/UserData/Access/Web2` ツリー、または iSeries 統合ファイル・システム内の別の場所にコピーする必要があります。そのうえで、このファイルのコピーに対して変更を行うことができます。

- 1 デフォルト・ファイルのローカライズ・バージョンは、`/QIBM/ProdData/Access/Web2/html` の下のサブディレクトリーにあります。サブディレクトリーは、ISO 言語コードおよび ISO 国別コードを使用して指定されます。このコードは、ISO-639 および ISO-3166 で定義される小文字の 2 文字のコードです。

- \*PUBLIC, QEJBSVR (WebSphere の場合)、または QTMHHTTP (ASF Tomcat の場合) は、少なくとも、ユーザー提供 HTML ファイルおよびそれによって参照されるファイルに対する \*RX 権限を所有している必要があります。この権限は、これらのファイルが入っているディレクトリーについても必要です。
- ユーザー提供の HTML ファイルがイメージ、スタイル・シート、または絶対パス付きの他の外部参照を含んでいる場合、HTTP サーバーは、このファイルにサービスを提供するように構成する必要があります。外部参照がユーザー提供 HTML ファイルを含むパスに相対なパスを含んでいる場合、HTTP サーバー構成は必要ありません。
- イメージ・ファイルは、/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/images ディレクトリーには入れないようにしてください。このディレクトリーは、プロダクトのイメージ・ファイル専用のディレクトリーです。

### 関連概念

#### 77 ページの『デフォルト・ページ・コンテンツ』

iSeries Access for Web は、ユーザー処置への応答として、たいていのページ・コンテンツを動的に生成します。コンテンツの残りは、静的 HTML ファイルから取得されます。スタイル・シートは、コンテンツの外観の特定の特徴を制御するためにも使用されます。

#### 79 ページの『特殊タグ』

iSeries Access for Web コンテントの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。このコンテンツにはデフォルトのインプリメンテーションがあります。また、ユーザー指定のファイルを使用することもできます。このファイルでは、数多くの特殊タグが使用できます。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。

#### 78 ページの『ホーム・ページ』

iSeries Access for Web のホーム・ページ URL にアクセスすると、ホーム・ページが表示されます。

#### 81 ページの『スタイル・シート』

iSeries Access for Web では、カスケーディング・スタイル・シート (CSS) を使用して、ページ・コンテンツの特定の外観を制御します。

#### 82 ページの『メインページ』

iSeries Access for Web のメインページは、メインページ URL (`http://<server_name>/webaccess/iWAMain`) にパラメーターなしでアクセスしたときに表示されます。

#### 84 ページの『ページ・テンプレート』

iSeries Access for Web のページ・テンプレートには、機能ページの動的に生成されたコンテンツの前後に表示するための静的コンテンツが含まれます。

#### 88 ページの『ログイン・テンプレート』

ログイン・テンプレートは、iSeries Access for Web がフォーム・ベースの、アプリケーション・サーバー認証用に構成される際に、ログイン・フォームの前後に表示するためのコンテンツを提供します。フォーム・ベースのアプリケーション・サーバー認証についての情報は、『セキュリティーの考慮事項』を参照してください。

### 関連資料

#### 114 ページの『マイ・ホーム・ページ』

iSeries Access for Web は、ホーム・ページ URL (`http://<server_name>/webaccess/iWAHome`) にアクセスしたときに表示されるデフォルト・ホーム・ページを配信します。

#### 96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

## 1 特殊タグ:



| iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。このコンテンツには  
| デフォルトのインプリメンテーションがあります。また、ユーザー指定のファイルを使用することもできま  
| す。このファイルでは、数多くの特殊タグが使用できます。これらのタグが検出されると、タグは該当の内  
| 容で置き換えられます。

| サポートされるタグ、タグを置き換えるコンテンツ、およびタグをサポートするファイルは、以下のとおり  
| です。

#### | **%%CONTENT%%**

| ページの機能コンテンツで置き換えられます。このタグは、テンプレート・ヘッダーとテンプレート・フッ  
| ターを分離します。

| ページ・テンプレート (必須タグ) およびログイン・テンプレート (必須タグ) でサポートされます。

#### | **%%include section=file%%**

| HTML フラグメントで置き換えられます (この *file* は、使用される HTML フラグメントが入っている  
| ファイルに関する情報を含むファイルを表します)。組み込まれる HTML セクションは、個別のユーザー  
| について、ユーザーのグループについて、あるいはすべてのユーザー (\*PUBLIC) について調整することが  
| できます。ホーム・ページが表示される際に、このタグは、現行ユーザー・プロファイルに関する該当の  
| HTML フラグメントで置き換えられます。サンプルのファイルが  
| /QIBM/ProdData/Access/Web2/config/phone.policies にあります。デフォルトのホーム・ページでは、  
| %%include section=file%% タグを使用して このファイルを参照しています。

| ホーム・ページでサポートされます。

#### | **%%MENU%%**

| iSeries Access for Web ナビゲーション・バーで置き換えられます。

| 注: このタグが指定されている場合、ナビゲーション・ポリシーおよびナビゲーション・バー・ポリシーの  
| 値は無視されます。

| ホーム・ページでサポートされます。

#### | **%%STYLESHEET%%**

| iSeries Access for Web のデフォルト・スタイル・シートへのリンクで置き換えられます。

| ホーム・ページ、ページ・テンプレート (ヘッダーのみ)、およびログイン・テンプレート (ヘッダーのみ)  
| でサポートされます。

#### | **%%STYLESHEET\_CLASSIC\_COLORS%%**

| V5R4M0 よりも前の iSeries Access for Web で使用されているカラー・スキームを使用する iSeries Access  
| for Web スタイル・シートへのリンクで置換されます。

| 注: このタグを指定する場合は、%%STYLESHEET%% タグの後に指定する必要があります。

| ホーム・ページ、ページ・テンプレート (ヘッダーのみ)、およびログイン・テンプレート (ヘッダーのみ)  
| でサポートされます。

| %%TITLE%%

| ページのタイトルで置き換えられます。

| ホーム・ページ、ページ・テンプレート (ヘッダーのみ)、およびログイン・テンプレート (ヘッダーのみ)  
| でサポートされます。

| %%SYSTEM%%

| アクセスされている iSeries サーバーの名前で置き換えられます。

| ホーム・ページおよびページ・テンプレートでサポートされます。

| %%USER%%

| iSeries リソースへのアクセスに使用される iSeries ユーザー・プロファイルで置き換えられます。

| ホーム・ページおよびページ・テンプレートでサポートされます。

| %%VERSION%%

| インストールされている iSeries Access for Web のバージョンで置き換えられます。

| ホーム・ページ、ページ・テンプレート、およびログイン・テンプレートでサポートされます。

| **関連概念**

| 77 ページの『デフォルト・ページ・コンテンツ』

| iSeries Access for Web は、ユーザー処置への応答として、たいていのページ・コンテンツを動的に生成します。コンテンツの残りは、静的 HTML ファイルから取得されます。スタイル・シートは、コンテンツの外観の特定の特徴を制御するためにも使用されます。

| 78 ページの『ホーム・ページ』

| iSeries Access for Web のホーム・ページ URL にアクセスすると、ホーム・ページが表示されます。

| 78 ページの『カスタマイズされたコンテンツ』

| iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。スタイル・シートは、製品の外観の特徴を制御するためにも使用されます。ユーザー提供のファイルは、デフォルト・インプリメンテーションの代わりに使用することができます。このユーザー提供ファイルの作成に際しては、以下の考慮事項があります。

| 81 ページの『スタイル・シート』

| iSeries Access for Web では、カスケーディング・スタイル・シート (CSS) を使用して、ページ・コンテンツの特定の外観を制御します。

| 84 ページの『ページ・テンプレート』

| iSeries Access for Web のページ・テンプレートには、機能ページの動的に生成されたコンテンツの前後に表示するための静的コンテンツが含まれます。

| 88 ページの『ログイン・テンプレート』

| ログイン・テンプレートは、iSeries Access for Web がフォーム・ベースの、アプリケーション・サーバー認証用に構成される際に、ログイン・フォームの前後に表示するためのコンテンツを提供します。フォーム・ベースのアプリケーション・サーバー認証についての情報は、『セキュリティーの考慮事項』を参照してください。

**スタイル・シート:**

iSeries Access for Web では、カスケーディング・スタイル・シート (CSS) を使用して、ページ・コンテンツの特定の外観を制御します。

デフォルトのスタイル・シートは、ページ・ヘッダー、ページ・フッター、ナビゲーション・バー、およびページ・コンテンツの外観を制御します。このスタイル・シートは、`%%STYLESHEET%%` 特殊タグを使用するデフォルト・ホーム・ページ、デフォルト・ページ・テンプレート、およびデフォルト・ログイン・テンプレートから参照されます。デフォルトのスタイル・シートは、`/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/iwa_styles.css` にあります。

2 番目のスタイル・シートは、デフォルトのスタイル・シートで使用されている色を V5R4M0 よりも前の iSeries Access for Web で使用されている色でオーバーライドします。このスタイル・シートは、`%%STYLESHEET_CLASSIC_COLORS%%` 特殊タグを使用する旧来のページ・テンプレート (`/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/webaccess_classic.html`) から参照されます。このスタイル・シートは、`/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/iwa_classic_colors.css` にあります。

iSeries Access for Web スタイル・シートは、カスタマイズされたホーム・ページ、ページ・テンプレート、またはログイン・テンプレートで使用することができます。 `%%STYLESHEET%%` および `%%STYLESHEET_CLASSIC_COLORS%%` 特殊タグを使用して、スタイル・シートをカスタマイズしたファイルに組み込みます。

カスタマイズされたスタイル・シートを作成するには、開始点として、iSeries Access for Web スタイル・シートを使用します。カスタマイズされたスタイル・シートは、カスタマイズされたホーム・ページ、ページ・テンプレート、またはログイン・テンプレートから参照される必要があります。これには、HTML で CSS を使用する知識が必要となります。

### 関連概念

78 ページの『カスタマイズされたコンテンツ』

iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。スタイル・シートは、製品の的外観の特徴を制御するためにも使用されます。ユーザー提供のファイルは、デフォルト・インプリメンテーションの代わりに使用することができます。このユーザー提供ファイルの作成に際しては、以下の考慮事項があります。

79 ページの『特殊タグ』

iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。このコンテンツにはデフォルトのインプリメンテーションがあります。また、ユーザー指定のファイルを使用することもできます。このファイルでは、数多くの特殊タグが使用できます。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。

78 ページの『ホーム・ページ』

iSeries Access for Web のホーム・ページ URL にアクセスすると、ホーム・ページが表示されます。

84 ページの『ページ・テンプレート』

iSeries Access for Web のページ・テンプレートには、機能ページの動的に生成されたコンテンツの前後に表示するための静的コンテンツが含まれます。

『ログイン・テンプレート』

ログイン・テンプレートは、iSeries Access for Web がフォーム・ベースの、アプリケーション・サーバー認証用に構成される際に、ログイン・フォームの前後に表示するためのコンテンツを提供します。フォーム・ベースのアプリケーション・サーバー認証についての情報は、『セキュリティーの考慮事項』を参照してください。

## 1 ログイン・テンプレート:

ログイン・テンプレートは、iSeries Access for Web がフォーム・ベースの、アプリケーション・サーバー認証用に構成される際に、ログイン・フォームの前後に表示するためのコンテンツを提供します。フォーム・ベースのアプリケーション・サーバー認証についての情報は、『セキュリティーの考慮事項』を参照してください。

デフォルトのログイン・テンプレートは、/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/login.html に提供されます。製品名付きのページ・ヘッダーが含まれます。製品バージョン番号および IBM インターネット・サイトへのリンク付きのページ・フッターも含まれます。デフォルトのログイン・テンプレートの代わりにカスタマイズされたコンテンツを使用するには、新規のログイン・テンプレート・ファイルを作成し、「カスタマイズ」機能を使用して「セキュリティー」設定の「ログイン・テンプレート HTML ファイル」として新規ファイルを指定します。

iSeries Access for Web は、ログイン・テンプレート・ファイル内での特殊タグの使用をサポートしています。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。

デフォルト・ログイン・テンプレートには、ローカライズされたバージョンの iSeries Access for Web のデフォルト・スタイル・シート (/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/iwa\_styles.css) へのリンクも含まれています。このスタイル・シートはコンテンツ領域の外観の特徴を制御します。このスタイル・シートの使用をオーバーライドするには、新規のスタイル・シートを作成し、それを参照するカスタマイズ済みログイン・テンプレートを使用します。

#### 関連概念

9 ページの『シングル・サインオンの考慮事項』

このトピックでは、Web アプリケーション・サーバーおよびポータル環境での iSeries Access for Web によるシングル・サインオン (SSO) に関する考慮事項をリストします。

#### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

#### カスタマイズされたコンテンツ:

iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。スタイル・シートは、製品の外観の特徴を制御するためにも使用されます。ユーザー提供のファイルは、デフォルト・インプリメンテーションの代わりに使用することができます。このユーザー提供ファイルの作成に際しては、以下の考慮事項があります。

- /QIBM/ProdData/Access/Web2/html 内のデフォルト・ファイルを開始点として使用できますが、直接変更してはなりません。このファイルは、製品ファイル専用の製品ディレクトリーにあります。

デフォルト・ファイルを開始点として使用する場合は、これを /QIBM/UserData/Access/Web2 ツリー、または iSeries 統合ファイル・システム内の別の場所にコピーする必要があります。そのうえで、このファイルのコピーに対して変更を行うことができます。

デフォルト・ファイルのローカライズ・バージョンは、/QIBM/ProdData/Access/Web2/html の下のサブディレクトリーにあります。サブディレクトリーは、ISO 言語コードおよび ISO 国別コードを使用して指定されます。このコードは、ISO-639 および ISO-3166 で定義される小文字の 2 文字のコードです。

- \*PUBLIC, QEJBSVR (WebSphere の場合)、または QTMHHTTP (ASF Tomcat の場合) は、少なくとも、ユーザー提供 HTML ファイルおよびそれによって参照されるファイルに対する \*RX 権限を所有している必要があります。この権限は、これらのファイルが入っているディレクトリーについても必要です。

- ・ ユーザー提供の HTML ファイルがイメージ、スタイル・シート、または絶対パス付きの他の外部参照を含んでいる場合、HTTP サーバーは、このファイルにサービスを提供するように構成する必要があります。外部参照がユーザー提供 HTML ファイルを含むパスに相対なパスを含んでいる場合、HTTP サーバー構成は必要ありません。
- ・ イメージ・ファイルは、/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/images ディレクトリーには入れないようにしてください。このディレクトリーは、プロダクトのイメージ・ファイル専用のディレクトリーです。

## 関連概念

77 ページの『デフォルト・ページ・コンテンツ』

iSeries Access for Web は、ユーザー処置への応答として、たいていのページ・コンテンツを動的に生成します。コンテンツの残りは、静的 HTML ファイルから取得されます。スタイル・シートは、コンテンツの外観の特定の特徴を制御するためにも使用されます。

79 ページの『特殊タグ』

iSeries Access for Web コンテントの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。このコンテンツにはデフォルトのインプリメンテーションがあります。また、ユーザー指定のファイルを使用することもできます。このファイルでは、数多くの特殊タグが使用できます。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。

78 ページの『ホーム・ページ』

iSeries Access for Web のホーム・ページ URL にアクセスすると、ホーム・ページが表示されます。

81 ページの『スタイル・シート』

iSeries Access for Web では、カスケーディング・スタイル・シート (CSS) を使用して、ページ・コンテンツの特定の外観を制御します。

82 ページの『メインページ』

iSeries Access for Web のメインページは、メインページ URL ([http://<server\\_name>/webaccess/iWAMain](http://<server_name>/webaccess/iWAMain)) にパラメーターなしでアクセスしたときに表示されます。

84 ページの『ページ・テンプレート』

iSeries Access for Web のページ・テンプレートには、機能ページの動的に生成されたコンテンツの前後に表示するための静的コンテンツが含まれます。

88 ページの『ログイン・テンプレート』

ログイン・テンプレートは、iSeries Access for Web がフォーム・ベースの、アプリケーション・サーバー認証用に構成される際に、ログイン・フォームの前後に表示するためのコンテンツを提供します。フォーム・ベースのアプリケーション・サーバー認証についての情報は、『セキュリティの考慮事項』を参照してください。

## 関連資料

114 ページの『マイ・ホーム・ページ』

iSeries Access for Web は、ホーム・ページ URL ([http://<server\\_name>/webaccess/iWAHome](http://<server_name>/webaccess/iWAHome)) にアクセスしたときに表示されるデフォルト・ホーム・ページを配信します。

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

## 特殊タグ:

- iSeries Access for Web コンテントの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。このコンテンツにはデフォルトのインプリメンテーションがあります。また、ユーザー指定のファイルを使用することもできます。このファイルでは、数多くの特殊タグが使用できます。これらのタグが検出されると、タグは該当の内容で置き換えられます。



| サポートされるタグ、タグを置き換えるコンテンツ、およびタグをサポートするファイルは、以下のとおり  
| です。

| **%%CONTENT%%**

| ページの機能コンテンツで置き換えられます。このタグは、テンプレート・ヘッダーとテンプレート・フッ  
| ターを分離します。

| ページ・テンプレート (必須タグ) およびログイン・テンプレート (必須タグ) でサポートされます。

| **%%include section=file%%**

| HTML フラグメントで置き換えられます (この *file* は、使用される HTML フラグメントが入っている  
| ファイルに関する情報を含むファイルを表します)。組み込まれる HTML セクションは、個別のユーザー  
| について、ユーザーのグループについて、あるいはすべてのユーザー (\*PUBLIC) について調整することが  
| できます。ホーム・ページが表示される際に、このタグは、現行ユーザー・プロフィールに関する該当の  
| HTML フラグメントで置き換えられます。サンプルのファイルが  
| /QIBM/ProdData/Access/Web2/config/phone.policies にあります。デフォルトのホーム・ページでは、  
| %%include section=file%% タグを使用してこのファイルを参照しています。

| ホーム・ページでサポートされます。

| **%%MENU%%**

| iSeries Access for Web ナビゲーション・バーで置き換えられます。

| 注: このタグが指定されている場合、ナビゲーション・ポリシーおよびナビゲーション・バー・ポリシーの  
| 値は無視されます。

| ホーム・ページでサポートされます。

| **%%STYLESHEET%%**

| iSeries Access for Web のデフォルト・スタイル・シートへのリンクで置き換えられます。

| ホーム・ページ、ページ・テンプレート (ヘッダーのみ)、およびログイン・テンプレート (ヘッダーのみ)  
| でサポートされます。

| **%%STYLESHEET\_CLASSIC\_COLORS%%**

| V5R4M0 よりも前の iSeries Access for Web で使用されているカラー・スキームを使用する iSeries Access  
| for Web スタイル・シートへのリンクで置換されます。

| 注: このタグを指定する場合は、%%STYLESHEET%% タグの後に指定する必要があります。

| ホーム・ページ、ページ・テンプレート (ヘッダーのみ)、およびログイン・テンプレート (ヘッダーのみ)  
| でサポートされます。

| **%%TITLE%%**

| ページのタイトルで置き換えられます。

| ホーム・ページ、ページ・テンプレート (ヘッダーのみ)、およびログイン・テンプレート (ヘッダーのみ)  
| でサポートされます。

## | %%SYSTEM%%

- | アクセスされている iSeries サーバーの名前で置き換えられます。
- | ホーム・ページおよびページ・テンプレートでサポートされます。

## | %%USER%%

- | iSeries リソースへのアクセスに使用される iSeries ユーザー・プロファイルで置き換えられます。
- | ホーム・ページおよびページ・テンプレートでサポートされます。

## | %%VERSION%%

- | インストールされている iSeries Access for Web のバージョンで置き換えられます。
- | ホーム・ページ、ページ・テンプレート、およびログイン・テンプレートでサポートされます。

## | 関連概念

### | 77 ページの『デフォルト・ページ・コンテンツ』

- | iSeries Access for Web は、ユーザー処置への応答として、たいていのページ・コンテンツを動的に生成します。コンテンツの残りは、静的 HTML ファイルから取得されます。スタイル・シートは、コンテンツの外観の特定の特徴を制御するためにも使用されます。

### | 78 ページの『ホーム・ページ』

- | iSeries Access for Web のホーム・ページ URL にアクセスすると、ホーム・ページが表示されます。

### | 78 ページの『カスタマイズされたコンテンツ』

- | iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。スタイル・シートは、製品の外観の特徴を制御するためにも使用されます。ユーザー提供のファイルは、デフォルト・インプリメンテーションの代わりに使用することができます。このユーザー提供ファイルの作成に際しては、以下の考慮事項があります。

### | 81 ページの『スタイル・シート』

- | iSeries Access for Web では、カスケーディング・スタイル・シート (CSS) を使用して、ページ・コンテンツの特定の外観を制御します。

### | 84 ページの『ページ・テンプレート』

- | iSeries Access for Web のページ・テンプレートには、機能ページの動的に生成されたコンテンツの前後に表示するための静的コンテンツが含まれます。

### | 88 ページの『ログイン・テンプレート』

- | ログイン・テンプレートは、iSeries Access for Web がフォーム・ベースの、アプリケーション・サーバー認証用に構成される際に、ログイン・フォームの前後に表示するためのコンテンツを提供します。フォーム・ベースのアプリケーション・サーバー認証についての情報は、『セキュリティーの考慮事項』を参照してください。

## | スタイル・シート:

- | iSeries Access for Web では、カスケーディング・スタイル・シート (CSS) を使用して、ページ・コンテンツの特定の外観を制御します。

- | デフォルトのスタイル・シートは、ページ・ヘッダー、ページ・フッター、ナビゲーション・バー、およびページ・コンテンツの外観を制御します。このスタイル・シートは、%%STYLESHEET%% 特殊タグを使用するデフォルト・ホーム・ページ、デフォルト・ページ・テンプレート、およびデフォルト・ログイン・

- | テンプレートから参照されます。デフォルトのスタイル・シート
- | は、/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/iwa\_styles.css にあります。
  
- | 2 番目のスタイル・シートは、デフォルトのスタイル・シートで使用されている色を V5R4M0 よりも前の
- | iSeries Access for Web で使用されている色でオーバーライドします。このスタイル・シートは、
- | %%STYLESHEET\_CLASSIC\_COLORS%% 特殊タグを使用する旧来のページ・テンプレート
- | (/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/webaccess\_classic.html) から参照されます。このスタイル・シート
- | は、/QIBM/ProdData/Access/Web2/html/iwa\_classic\_colors.css にあります。
  
- | iSeries Access for Web スタイル・シートは、カスタマイズされたホーム・ページ、ページ・テンプレ
- | ト、またはログイン・テンプレートで使用することができます。 %%STYLESHEET%% および
- | %%STYLESHEET\_CLASSIC\_COLORS%% 特殊タグを使用して、スタイル・シートをカスタマイズしたフ
- | ァイルに組み込みます。
  
- | カスタマイズされたスタイル・シートを作成するには、開始点として、iSeries Access for Web スタイル・
- | シートを使用します。カスタマイズされたスタイル・シートは、カスタマイズされたホーム・ページ、ペ
- | ージ・テンプレート、またはログイン・テンプレートから参照される必要があります。これには、HTML で
- | CSS を使用する知識が必要となります。

#### 関連概念

- | 78 ページの『カスタマイズされたコンテンツ』
- | iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。スタイル・シート
- | は、製品の外観の特徴を制御するためにも使用されます。ユーザー提供のファイルは、デフォルト・イ
- | ンプリメンテーションの代わりに使用することができます。このユーザー提供ファイルの作成に際して
- | は、以下の考慮事項があります。
  
- | 79 ページの『特殊タグ』
- | iSeries Access for Web コンテンツの一部は静的 HTML ファイルから検索されます。このコンテンツに
- | はデフォルトのインプリメンテーションがあります。また、ユーザー指定のファイルを使用することも
- | できます。このファイルでは、数多くの特殊タグが使用できます。これらのタグが検出されると、タグ
- | は該当の内容で置き換えられます。
  
- | 78 ページの『ホーム・ページ』
- | iSeries Access for Web のホーム・ページ URL にアクセスすると、ホーム・ページが表示されます。
  
- | 84 ページの『ページ・テンプレート』
- | iSeries Access for Web のページ・テンプレートには、機能ページの動的に生成されたコンテンツの前
- | 後に表示するための静的コンテンツが含まれます。
  
- | 88 ページの『ログイン・テンプレート』
- | ログイン・テンプレートは、iSeries Access for Web がフォーム・ベースの、アプリケーション・サー
- | ーバー認証用に構成される際に、ログイン・フォームの前後に表示するためのコンテンツを提供します。
- | フォーム・ベースのアプリケーション・サーバー認証についての情報は、『セキュリティーの考慮事
- | 項』を参照してください。

## Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web の使用

以下のトピックでは、Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web の使用について説明します。

## iSeries Access for Web の機能

このトピックでは、Web アプリケーション・サーバー環境で実行できる機能をリストします。このリストに示された機能を選択すると、サポートされるタスク、使用する際の考慮事項、および制約事項を確認できます。

### 5250:

iSeries Access for Web の 5250 ユーザー・インターフェースは、5250 セッションを構成、開始、および使用するための Web インターフェースを提供します。追加サポートとして、反復して行われるタスクを自動化するマクロ、頻繁に使用されるキーおよびマクロにす早くアクセスできるようにカスタマイズされたキーパッド、および「Web」ビューおよび「従来型 (Traditional)」ビューも提供します。

実行可能なタスクのリストを以下に示します。これらのどのタスクも、カスタマイズ機能を使用して制限することができます。

### セッション開始

- | 5250 セッションを、任意の iSeries サーバー用に開始することができます。アクセス対象のサーバーには、iSeries Access for Web がインストールされている必要はありませんが、Telnet サーバーが実行されており、アクセス可能でなければなりません。
- | セッションがアクティブになっているときに、マクロの記録および実行を行うことができます。ショートカットを作成することにより、それを他のユーザーと共用することができます。また、マクロを変更、コピー、削除、および名前変更することもできます。

### アクティブ・セッション

現行ユーザーに関してアクティブになっている 5250 ユーザー・インターフェース・セッションのリストを表示することができます。開始されたセッションは、停止されるか、あるいは一定の非アクティブ期間の経過後にタイムアウトになるまで、アクティブのままになっています。このセッション・リストから、他のページを表示したりブラウザ・ウィンドウを閉じたりして中断状態にされたセッションに、再接続することができます。アクティブ・セッションについては、セッションの設定を編集することができます。また、セッションを他のユーザーと共用することもできます。セッションを共用することにより、他のユーザーがそのセッションを読み取り専用ビューで見ることができるようになります。これは、デモンストレーションやデバッグなどに利用することができます。

### 構成済みセッション

構成済みセッションを作成することにより、カスタマイズされたセッション設定を保管することができます。現行ユーザーに関する構成済みセッションのリストを表示することができます。このリストから、構成済みセッションの設定を使用して 5250 ユーザー・インターフェース・セッションを開始することができます。構成済みセッションは、ショートカットを作成することにより、他のユーザーと共用することができます。また、構成済みセッションを変更、コピー、削除、および名前変更することもできます。カスタマイズされたキーパッドを構成して、それをすべてのセッションで使用することができます。

## 考慮事項

ありません。

## 制約事項

ありません。

### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

## コマンド:

iSeries Access for Web は、iSeries サーバーでの CL コマンドの実行をサポートします。

実行可能なタスクのリストを以下に示します。これらのどのタスクも、カスタマイズ機能を使用して制限することができます。

## コマンドの実行

iSeries サーバー で CL コマンドを実行することができます。パラメーター値の入力を求めるプロンプトを出すためのサポートが提供されます。コマンドは、ただちに実行することも、バッチ・ジョブとして実行依頼することもできます。コマンドの結果は、ブラウザーに送信することも、ユーザーの個人用フォルダーに入れることも、E メールの添付ファイルとして他のユーザーにメール送信することもできます。また、コマンドを保管して、繰り返し使用することもできます。

## My commands

現行ユーザーに関する保管済みコマンドのリストを、表示および管理することができます。このリストから、保管済みコマンドを実行することができます。コマンドは、手動で検索および変更することができます。保管済みコマンドで別のパラメーター値を使用するようにプロンプトを出すことも可能です。保管済みコマンドを削除することもできます。

**検索** CL コマンドを名前またはテキスト記述で検索するためのサポートが提供されます。コマンドを名前で検索する場合には、ワイルドカード文字としてアスタリスクを使用することができます。例えば、\*DTAQ\* で検索を行うと、DTAQ というストリングを含むすべてのコマンドが戻されます。テキスト記述によってコマンドを検索する場合には、コマンド・テキスト記述内の検索語のうちの少なくとも 1 つを含んでいる、すべてのコマンドが戻されます。

## 考慮事項

ありません。

## 制約事項

- パラメーター用のプロンプト・コントロールおよびプロンプト・コントロール・プログラムはサポートされていません。
- キー・パラメーターおよびプロンプト指定変更プログラムはサポートされていません。
- パラメーター値の妥当性検査は実行されません。
- コマンド・マッピング 出口プログラムはサポートされていません。
- 選択プロンプト文字はサポートされていません。

## 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

111 ページの『メール』

メール機能は、「データベース (Database)」、「印刷 (Print)」、「ファイル (Files)」、および「コマンド (Commands)」など、iSeries Access for Web のいくつかの場所から使用することができます。項目がユーザーの個人用フォルダーに保管されたとき、またはユーザーのフォルダーがサイズしきい値に達したときに、そのユーザーに E メール通知を送信することもできます。



113 ページの『My folder』

iSeries Access for Web を使用すると、iSeries Access for Web によって生成されたコンテンツを保管し、管理することができます。

## カスタマイズ:

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

実行可能なタスクのリストを以下に示します。

### プリファレンス

プリファレンスは、機能の動作を制御するために iSeries Access for Web によって 使用されます。ユーザーは例えば、プリンター出力リストを見るときに、表示したい列を選択することができます。デフォルトでは、すべてのユーザーが自分のプリファレンスを構成できるようになっていますが、管理者はポリシーを使用してこの能力を無効にすることができます。プリファレンスは保管され、そのユーザーの iSeries ユーザー・プロファイル と関連付けられます。この機能についての詳細は、「プリファレンス」のオンライン・ヘルプ・テキストを参照してください。

### ポリシー

ポリシーは、iSeries Access for Web の機能へのユーザー・アクセスまたはグループ・アクセスを制御するために使用されます。例えば、「ファイル・アクセス (*Files access*)」ポリシーを「否認 (*Deny*)」に設定することにより、あるユーザーまたはグループを、そのファイル機能にアクセスできないようにすることができます。ポリシーは保管され、該当の iSeries ユーザーまたはグループ・プロファイルと関連付けられます。この機能についての詳細は、「ポリシー」のオンライン・ヘルプ・テキストを参照してください。

### 設定 (Settings)

設定 (Settings) は、製品構成のために使用されます。例えば、Sametime® 通知 の送信に使用される Sametime コミュニティー・サーバーを設定することができます。設定値は保管され、iSeries Access for Web の現行インスタンスと関連付けられます。iSeries ユーザーまたはグループ・プロファイルとは関連付けられません。

### 1 転送構成

転送構成は、1 人のユーザーまたは 1 つのグループ・プロファイルから別のプロファイルに構成データをコピーまたは移動するのに使用されます。構成データには、5250 セッションおよびマクロ定義、保管済みコマンド、データベース要求、フォルダー項目、およびポリシー設定が含まれます。

## 考慮事項

- 1 ポリシー、設定、および転送構成機能は、iSeries Access for Web 管理者だけがアクセスすることができます。
- 1 iSeries Access for Web の管理者 は、\*SECADM 特殊権限または iSeries Access for Web 管理者特権
- 1 を持った iSeries ユーザー・プロファイルです。ユーザー・プロファイルに管理者特権を付与するには、
- 1 カスタマイズ機能を使用し、「管理者特権の付与 (*Grant administrator privileges*)」ポリシーを「許可
- 1 (*Allow*)」に設定します。

## 制約事項

ありません。

### データベース:

iSeries Access for Web は、iSeries サーバーにあるデータベース・テーブルへのアクセスのサポートを提供しています。

実行可能なタスクのリストを以下に示します。これらのどのタスクも、カスタマイズ機能を使用して制限することができます。

#### | テーブル

| iSeries サーバーにあるデータベース・テーブルのリストを表示することができます。リストに表示  
| されるテーブルのセットは、個々のユーザーごとにカスタマイズすることができます。このテーブ  
| ル・リストから、テーブルの内容または個別レコードを表示することができます。テーブルのレコ  
| ードの挿入または更新を行うこともできます。

#### | SQL の実行

| SQL ステートメントを実行し、その結果をページ・リストで表示したり、サポートされるファイ  
| ル・フォーマットのいずれかで戻したりすることができます。結果データのレイアウトは、ファイ  
| ル・フォーマット・オプションを使用してカスタマイズすることができます。SQL ステートメン  
| トの結果は、ブラウザーに送信することも、iSeries 統合ファイル・システムに送信することも、ユ  
| ーザーの個人用フォルダーに入れることも、Eメールの添付ファイルとして送信することもできま  
| す。SQL SELECT ステートメントの構築を支援するために SQL ウィザードが用意されていま  
| す。SQL 要求は、保管して、繰り返し使用することができます。パラメーター・マーカーを含  
| む、プロンプトによるステートメントを実行するためのサポートも提供されます。詳しくは、『デ  
| ータベースの考慮事項』を参照してください。

#### テーブルへのデータのコピー

サポートされるいずれかのファイル・フォーマットのデータ・ファイルを、iSeries サーバーにある  
リレーショナル・データベース・テーブルにコピーすることができます。新規テーブルを作成した  
り、既存のテーブルに付加したり、既存のテーブルの内容を置き換えたりするためのオプションを  
使用することができます。「テーブルへのデータのコピー」要求を保管して、繰り返し使用するこ  
とができます。

#### My requests

保管された SQL、およびテーブルへのデータのコピー要求のリストを表示および管理することが  
できます。要求の実行と変更を行うことができます。ショートカットを作成することにより、要求を  
他のユーザーと共用することができます。また、要求をコピー、削除、および名前変更することも  
できます。

#### 要求のインポート

IBM Client Access for Windows または Client Access Express Data Transfer の要求ファイルは、  
iSeries Access for Web にインポートしたり、そのフォーマットに変換したりすることができます。  
iSeries サーバーからのデータ転送要求は SQL 要求に変換されます。iSeries サーバーへの  
データ転送要求は、テーブルへのデータのコピー要求に変換されます。

#### | 照会のインポート

| Query for iSeries および DB2 UDB for iSeries Query Manager 照会ファイルに含まれる SQL ステ  
| ートメントは、iSeries Access for Web SQL 要求フォーマットにインポートしたり、変換したりす  
| ることができます。

#### サーバー・データの抽出 (Extract server data)

iSeries サーバー上のオブジェクトに関する情報を抽出して、その結果をデータベース・テーブルに  
保管することができます。一般的なオブジェクト情報は、どのような iSeries オブジェクト・タイ  
プについても検索することができます。抽出および保管するオブジェクト情報は、「データの抽出  
(Extract Data)」を実行するときにカスタマイズすることができます。以下のオブジェクト・タイプ  
については、オブジェクト特定の情報も検索することができます。

- ディレクトリー項目
- メッセージ
- ソフトウェア修正
- ソフトウェア・プロダクト
- システム・プール
- ユーザー・プロファイル

## 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

111 ページの『メール』

メール機能は、「データベース (Database)」、「印刷 (Print)」、「ファイル (Files)」、および「コマンド (Commands)」など、iSeries Access for Web のいくつかの場所から使用することができます。項目がユーザーの個人用フォルダーに保管されたとき、またはユーザーのフォルダーがサイズしきい値に達したときに、そのユーザーに E メール通知を送信することもできます。

113 ページの『My folder』

iSeries Access for Web を使用すると、iSeries Access for Web によって生成されたコンテンツを保管し、管理することができます。

## データベースの考慮事項:

以下の考慮事項が、Web アプリケーション・サーバー環境で iSeries Access for Web データベース機能を使用する際に適用されます。

データベースの考慮事項は、以下の機能カテゴリーにグループ化することができます。

- データベース接続
- SQL の実行: 出力タイプ
- SQL の実行: プロンプトが出されるステートメント
- テーブルへのデータのコピー
- 照会のインポート

### データベース接続

iSeries Access for Web は、データベース・テーブルにアクセスするために JDBC 呼び出しを行います。デフォルトでは、IBM Toolbox for Java JDBC ドライバーを使用して、iSeries Access for Web が実行されている iSeries サーバーへのドライバー・マネージャー接続を確立します。カスタマイズ機能では、追加のデータベース接続を定義することがサポートされています。追加の接続を定義して、異なる iSeries サーバーにアクセスしたり、異なるドライバー設定を指定したり、異なる JDBC ドライバーを使用したりすることができます。シングル・サインオン (SSO) 環境で異なる JDBC ドライバーが使用される場合、すべての必要な認証値を JDBC URL で設定する必要があります。

カスタマイズ機能はデータ・ソース接続を定義するためのサポートも提供します。このサポートは、WebSphere アプリケーション・サーバー環境でのみ使用可能です。バージョン 4 データ・ソースはサポートされません。iSeries Access for Web が基本認証を使用して、iSeries ユーザー・プロファイルおよびパスワードを要求するプロンプトを出すように構成されている場合、このユーザーおよびパスワード値は、データ・ソース接続を認証するためにも使用されます。iSeries Access for Web が SSO 環境で実行されている場合、データ・ソースではコンポーネント管理の認証別名が構成されている必要があります。

注: iSeries Access for Web は、IBM Toolbox for Java JDBC ドライバーを使用してテストされています。異なるドライバーも動作するかもしれませんが、これは、テストされていない非サポート環境ということになります。

JDBC ドライバーで認識される異なる接続プロパティのリストについては、『IBM Toolbox for Java JDBC プロパティ』トピックを参照してください。

### SQL の実行: 出力タイプ

SQL ステートメントの結果データを戻すためにサポートされている出力タイプは、次のとおりです。

- プレビュー
- コンマ区切り値 (.csv)
- データ交換形式 (.dif)
- Extensible Markup Language (.xml)
- HTML (ハイパーテキスト・マークアップ言語) (.html)
- Lotus® 1-2-3® バージョン 1 (.wk1)
- Microsoft Excel 3 (.xls)
- Microsoft Excel 4 (.xls)
- Microsoft Excel XML (.xml)
- OpenDocument Spreadsheet (.ods)
- PDF (.pdf)
- テキスト、プレーン (.txt)
- テキスト、タブ区切り (.txt)

### Extensible Markup Language (.xml)

「SQL の実行」で生成された XML 出力は、組み込みスキーマと SQL QUERY の結果の両方を含む単一の文書です。組み込みスキーマは、2001 年 5 月 2 日付の W3C Schema Recommendation に準拠しています。スキーマには、文書内の QUERY の結果部分のメタ情報が含まれています。スキーマに含まれているのは、データ・タイプ情報、データの制限、および文書構造です。

現行の XML パーサーのインプリメンテーションは、組み込み方法を使用した妥当性検査はサポートしていません。SAX および DOM インプリメンテーションを含め、多くのパーサーでは、妥当性検査を行うためにスキーマおよびコンテンツが独立した文書になっていなければなりません。「SQL の実行」が作成した XML 文書のスキーマ妥当性検査を行うためには、データとスキーマを別々の文書に再構成しなければなりません。ルート要素も、この新しい構造をサポートするために更新される必要があります。World Wide Web Consortium の Web サイトにアクセスして、XML スキーマに関する追加情報を調べてください。

XML 文書の QUERY 結果部分には、QUERY から戻されたデータが構造化された行と列の形で入っています。このデータは、他のアプリケーションで容易に処理できると思われる。このトピックに含まれるデータに関する詳細な情報が必要な場合、文書スキーマを参照することができます。

### HTML (ハイパーテキスト・マークアップ言語 (.html))

HTML 出力タイプを使用すると、結果はブラウザで表示されます。結果のファイルへの保管は、ブラウザの保管機能を使用して行えます。あるいは、SQL 要求を保管することや、要求の実行時に結果をファイルにリダイレクトすることもできます。Internet Explorer

では、「実行」リンクを右マウス・ボタン・クリックして、「対象をファイルに保存」オプションを選択します。Netscape Navigator では、シフト・キーを押したままで「実行」リンクをクリックします。

「HTML テーブルごとの行数 (rows per table)」の値が設定されている場合、「SQL の実行」は、プレビューと同じように、単一の HTML ページで結果を返す代わりに、ページに分かれたリストで結果を表示します。

### Microsoft Excel/Lotus 1-2-3

Microsoft Excel および Lotus 1-2-3 用にサポートされるファイル・フォーマットは、これらのアプリケーションがサポートしている最新のタイプではありません。新しいタイプで追加されている機能は、データベースからのデータの検索では必要ないと思われるので、このために機能が失われることはないはずで、これらのファイル・タイプの古いバージョンをサポートしていることで、これらのアプリケーションの古いバージョンとの互換性を保つことができます。アプリケーションの新しいバージョンを使用して出力結果を新しい形式でファイルに保管できます。

注: 新しい形式のファイルは、「テーブルへのデータのコピー」との互換性がありません。

### Microsoft Excel XML (.xml)

Microsoft Excel XML ファイル・フォーマットは、Microsoft Excel 2002、またはこのアプリケーションのそれ以降のバージョンでのみサポートされます。Microsoft Excel 2002 は Microsoft Office XP の一部です。

### PDF (.pdf)

PDF ファイル・フォーマットは、SQL データをページに表示した場合にどのように見えるかを表します。1 ページに表示されるデータの量は、ページ・サイズ、ページの向き、および余白のサイズに依存します。あまりにも多くの列を表示しようとする、使用できない PDF 文書になる危険性があります。Adobe Acrobat Reader プラグインはこのようなファイルをブラウザにロードできない場合があります。代替案としては、要求を複数のクエリーに分けて列のサブセットを返すようにするか、他の出力タイプを選択する方法があります。

出力設定を使用すると、PDF 文書のそれぞれの部分で使用するフォントの選択をカスタマイズできます。選択したフォントを、文書を表示するコンピューターにインストールするのではなく、文書に組み込んでおくこともできます。フォントを文書に組み込むと、文書サイズが大きくなります。

テキストを表現するための文字エンコード方式も、PDF 出力オプションに含まれています。指定されたエンコード方式でフォントがある文字を表現できない場合、その文字は空白として表示されるか、または表示できない文字を表すのに用いられる他の標識として表示されます。データのすべての文字を表現できるフォントと文字セット値を選択すべきです。

デフォルトでは、PDF 出力の構築において、「SQL の実行」は標準 PDF フォントおよび Adobe アジア言語フォントをサポートしています。標準フォントはどんな PDF ビューアーでも使用可能であることが必要なので、PDF 文書に組み込む必要はありません。Adobe は、中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、日本語、韓国語の文字を含むテキストを表示するためのアジア言語フォントを提供しています。「SQL の実行」は、これらのフォントを使用した文書の作成はサポートしていますが、これらのフォントの文書への組み込みはサポートしていません。これらのフォントを使用した場合、文書を表示するコンピューター



ターに、適切なフォント・パックをインストールすることが必要になります。これらのフォント・パックは、Adobe の Web サイトからダウンロードできます。

「追加 PDF フォント・ディレクトリー (Additional PDF font directories)」カスタマイズ設定を使用すれば、使用可能なフォントのリストに他のフォントを追加できます。サポートされているフォントは次のとおりです。

- Adobe Type 1 フォント (\*.afm)

Type 1 フォントを文書に組み込むためには、Type 1 フォント・ファイル (\*.pfb) がフォント・メトリック・ファイル (\*.afm) と同じディレクトリーに存在している必要があります。フォント・メトリック・ファイルしか使用可能でない場合、文書はそのフォントで作成できますが、文書の表示に使用されるコンピューターにはそのフォントがインストールされていなければなりません。Type 1 フォントは、単一バイト・エンコード方式のみサポートします。

- TrueType フォント (\*.ttf) および TrueType フォント・コレクション (\*.ttc)

TrueType フォントおよび TrueType フォント・コレクションの組み込みはオプションです。TrueType フォントを組み込むときには、データを表現するために必要な部分のフォントのみ組み込まれます。使用可能な文字セット・エンコード方式のリストは、フォント・ファイルから検索します。検索されたエンコード方式に加え、マルチリンガルの「Identity-H」エンコード方式も使用できます。このエンコード方式が使用されたときは、常にフォントが文書に組み込まれます。2 バイト文字セットをサポートしている TrueType フォントを、Adobe アジア言語フォントに代えて組み込むことができます。このようにすると生成される文書のサイズは大きくなりますが、文書を表示するコンピューターにフォントをインストールする必要がなくなります。

現行要求のロケールがヘブライ語またはアラビア語の場合、「SQL の実行」は、双方向データを持つ PDF 文書の構築をサポートします。

### OpenDocument Spreadsheet (.ods)

iSeries Access for Web によって作成される OpenDocument スプレッドシート文書は、Oasis Open Document Format for Office Applications (OpenDocument) 1.0 仕様に準拠します。

ISO 日時フォーマット・オプションが選択されている場合のみ、日時の値は日時フォーマットで保管されます。選択されていない場合は、テキスト値で保管されます。

### SQL の実行: プロンプトが出されるステートメント

「SQL の実行」は、パラメーター・マーカを含む SQL ステートメントをサポートしています。このタイプのステートメントは、2 とおりの方法で作成することができます。最初のオプションは、SQL ウィザードを使用する方法です。SQL ウィザードは、条件値としてパラメーター・マーカをサポートします。SQL ウィザードは、要求の一部として条件値を指定するオプションのほかに、要求の実行時に条件値の入力を求めるプロンプトを出すためのオプションを備えています。SQL ウィザードでは、条件値の入力を求めるプロンプトを出すページの作成、およびパラメーター・マーカを含む SQL ステートメントの作成を行うことができます。

パラメーター・マーカを含む SQL ステートメントを作成するための 2 番目の方法は、「SQL の実行」を使用してステートメントを手動で入力するというやり方です。このオプションでは、要求を保管する必要があります。この要求は「SQL の実行」から直接実行したり、「My Requests」から「リンクの実行 (Run link)」を使用して実行したりすることはできません。パラメーター・マーカの値を受け渡すためには、「SQL 要求実行 (Run SQL Request)」(iWADbExec) URL インターフェイスを使用する必要があります。ステートメント内のそれぞれのパラメーター・マーカご

とに、URL パラメーターを 1 つずつ指定しなければなりません。URL パラメーターの名前は iwaparm\_x にする必要があります (この x はパラメーター・インデックスです)。iwaparm\_1 は最初のパラメーター・マーカースに使用され、iwaparm\_2 は 2 番目パラメーター・マーカースに使用されます (以下同様)。次に例を示します。

```
http://server:port/webaccess/iWADbExec?request=promptedRequest&iwaparm_1=Johnson&iwaparm_2=500
```

「SQL 要求実行 (Run SQL Request)」(iWADbExec) URL インターフェースを起動してパラメーター・マーカースの値を受け渡すための方法の 1 つとして、HTML フォームを使用するやり方があります。入力フィールドを使用して、ユーザーに値の入力を求めるプロンプトを出すことができます。これらのフィールドの名前は、上記の URL パラメーターの命名規則に従う必要があります。要求名は、隠しパラメーターとしてこのフォームに保管することができます。フォーム・アクションで「SQL 要求実行 (Run SQL Request)」(iWADbExec) の URL を指定する必要があります。フォームが実行依頼されると、指定された値を使用して URL が作成され、iSeries Access for Web が起動されて要求が実行されます。次に HTML ソースのサンプルを示します。

```
<HTML>
<BODY>
  <FORM action="http://server:port/webaccess/iWADbExec" method="get">
    カスタマー名を入力して <B>OK</b> を押し、アカウント情報を検索します。<br>
    <input type="text" name="iwaparm_1" value=""/>
    <input type="submit" name="ok" value=" OK "/>
    <input type="hidden" name="request" value="promptedRequest"/>
  </FORM>
</BODY>
</HTML>
```

### テーブルへのデータのコピー

データをテーブルにコピーするとき、選択されたファイル・タイプが Extensible Markup Language (XML) である場合は、このファイルが簡潔な書式になっている必要があります。この書式は、組み込みスキーマ要素とそれがサポートする要素を含んでいても、含んでいなくてもかまいません。この最も簡単な書式では、XML 文書は次のように構造化されていなければなりません。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<QIwaResultSet version="1.0">
  <RowSet>
    <Row number="1">
      <Column1 name="FNAME">Jane</Column1>
      <Column2 name="BALANCE">100.25</Column2>
    </Row>
    <Row number="2">
      <Column1 name="FNAME">John</Column1>
      <Column2 name="BALANCE">200.00</Column2>
    </Row>
  </RowSet>
</QIwaResultSet>
```

この書式は XML ディレクティブで構成されており、次にルート要素 QIwaResultSet が続いています。XML ディレクティブにエンコード方式属性が指定されていない場合、「テーブルへのデータのコピー」は、文書が utf-8 でエンコードされているものと想定します。ルート要素には、バージョン属性が含まれています。この XML の書式に対応するバージョンは 1.0 です。RowSet 要素は、続くすべてのデータ行のコンテナになっています。これらのデータ行は、Row 要素に含まれています。それぞれの Row 要素は、固有の数値番号属性を持たなければなりません。それぞれの Row 要素には、1 つ以上の Column 要素があります。1 つの行内では、それぞれの列要素は固有でなければなりません。これは、連続する数を接尾部として追加することにより行えます。たとえば、Column1、Column2、Column3、Columnx などです (ここで 'x' は行内の列の番号になります)。また、各列には名前属性もなければなりません。名前は、サーバーにあるリレーション・テー

ブルの列名に対応します。この簡単な書式を使用する場合、文書にはスキーマが含まれていないので、「スキーマを使って文書の妥当性検査を行う (Validate document with its schema)」設定をオフにしなければなりません。

必須ではありませんが、XML スキーマを文書に組み込んでもかまいません。「SQL の実行」により生成された XML 文書を調べ、どのようにスキーマを構造化するかに関するアイデアを得てください。また、World Wide Web Consortium の Web サイトにアクセスして、XML スキーマに関する追加情報を調べてください。

## 照会のインポート

照会ファイルは、SQL ステートメントよりもずっと多くの情報を含むことができます。「SQL の実行」機能は SQL ステートメントのみを格納するため、同じ照会結果を得るためにはいくつか考慮すべき点があります。照会ファイルが照会用の特別な命令を含んでいる場合、カスタマイズ機能を使用して新規の iSeries Access for Web データベース接続を作成して、この特別なケースを受け入れる必要がある場合があります。デフォルトの iSeries Access for Web データベース接続は、SQL 命名規則、および現在のユーザー・プロファイル用のロケール固有デフォルトを使用して、データベース照会要求を実行します。特別な属性セットを持つ、非デフォルトのデータベース接続の作成を必要とする既知の特別なケースには、以下のものがあります。

- テーブル指定にシステム命名規則が使用される
- ロケールのデフォルト以外の日時フォーマットが照会で指定される
- ロケールのデフォルト以外の小数点文字が照会で使用される
- 非デフォルト・ソート・シーケンスが指定される

iSeries Access for Web は、照会ファイルの内容の CCSID を判別できません。照会をインポートしているユーザー・プロファイルが照会ファイルのデータの CCSID に一致しない CCSID を持っている場合、不正な変換または変換エラーが発生します。この問題を解決するために照会のインポート時に CCSID 値を設定することができます。

### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

### 関連情報

Java JDBC プロパティ用の IBM ツールボックス

### データベースの制約事項:

Web アプリケーション・サーバー環境で iSeries Access for Web のデータベース・サポートを使用する場合、以下の制約事項が適用されます。

**概要** iSeries Access for Web は、IBM Toolbox for Java JDBC ドライバーを使ったデータベース・サーバーへの接続のみをサポートします。他のドライバーも動作する可能性がありますが、これは非サポートの、テストされていない環境ということになります。

iSeries Access for Web の希望する言語の設定は、データベース接続には使用されません。したがって、データベース・サーバーから受信するすべてのメッセージは、WebSphere Application Server を開始するために使用されたユーザー・プロファイルの LANGID および CENTRYID から派生した言語になります。

### テーブル

テーブル・リストはリレーショナル・データベース・テーブル、別名、具体化された照会テーブル、およびビューを戻します。非リレーショナル・データベース・テーブルは戻されません。

### テーブル・レコード挿入の制約事項

- 挿入では、バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB)、スケール付き整数、および ROWID 列タイプはサポートされていません。文字ラージ・オブジェクト (CLOB) 列タイプはサポートされていますが、非常に大きな値を入力すると、ブラウザーのすべてのメモリーを消費してしまう可能性があります。iSeries サーバーでサポートされているその他のすべての列タイプは、挿入でサポートされています。
- 挿入では、データ・リンクの URL 部分の設定のみをサポートしています。
- 挿入では、フィールドのデフォルト値をヌルにして、フィールド値を変更せずに残す方法以外には、ヌル列値の挿入はサポートされていません。

### テーブル・レコード更新の制約事項

- 更新では、バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB)、スケール付き整数、および ROWID 列タイプはサポートされていません。文字ラージ・オブジェクト (CLOB) 列タイプはサポートされていますが、非常に大きな値を入力すると、ブラウザーのすべてのメモリーを消費してしまう可能性があります。iSeries サーバーでサポートされているその他のすべての列タイプは、更新でサポートされています。
- 更新では、データ・リンクの URL 部分の設定のみをサポートしています。
- 更新では、ヌル列値を挿入する方法は提供されていません。しかし、ヌル値を持つ列があり、そのフィールドを空のまま残した場合は、その列の値はヌルのままになります。

## SQL の実行

NCompass DocActive プラグインがインストールされている場合は、保存された MS Excel 3 または MS Excel 4 要求を Netscape ブラウザーから 実行することはできません。これらの要求は、「SQL の実行」ボタンを使用して直接実行できます。

Windows2000 上で Internet Explorer を使用する場合、Microsoft Excel がインストールされていて、結果を MS Excel 3、MS Excel 4、または MS Excel XML に書き込もうとすると、iSeries サーバーに再度ログオンするよう促されます。これにより、追加のライセンスが使用されます。これは、Excel ファイルをブラウザーに最初にロードしようとしたときのみ発生します。代替策として、実行せずに要求を保存し、保存された要求を実行して、結果をファイルにリダイレクトすることができます。これは、「実行 (Run)」リンク上で右マウス・ボタン・クリックして、「対象をファイルに保存」オプションを選択することによって行うことができます。SQL 出力ファイルを保存した後、Microsoft Excel または他のアプリケーションを使ってロードします。

出力タイプとして PDF を選択し、SQL ステートメントによって非常に多くの数の列が生成された場合は、出力が読めないほど小さく縮小されたり、空白のページになることがあります。このような場合は、別のページ・サイズを使用するか、別の出力タイプを選択するか、または列のサブセットを返すように SQL ステートメントを変更してください。

Opera ブラウザーを使用している場合、出力に非常に長い列データが含まれていると、表示されるときにデータが切り捨てられることがあります。

Microsoft Internet Explorer を使用して、出力タイプとして PDF を選択した場合に、SQL 出力の代わりに空白ページが表示された場合は、以下のいずれかの回避策を試行してください。

- 最新バージョンの Microsoft Internet Explorer がインストールされていることを確認する。
- 「SQL の実行」から直接、要求を実行する代わりに、要求を保存し、My Requests の「実行 (Run)」アクションを使用する。
- Adobe Acrobat Reader の構成を変更し、Reader をブラウザー内で表示するのではなく、別のウィンドウで表示するようにする。

## 文字ラージ・オブジェクト (CLOB) 列タイプに関する制約事項



- Microsoft Excel および Lotus 1-2-3 バージョン 1 のように、最大セル・サイズのある出力タイプでは、最大セル・サイズを超えたデータは切り捨てられます。
- その他の出力タイプではデータが切り捨てられることはありませんが、非常に大きな値を検索しようとすると、ブラウザーのすべてのメモリーを消費してしまう可能性があります。

## SQL ウィザード

- 単一のテーブル選択のみがサポートされています。
- ネストされた条件はサポートされていません。
- iSeries でサポートされている列タイプを使った条件の作成がサポートされていますが、バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB)、文字ラージ・オブジェクト (CLOB)、およびデータ・リンクは例外です。

## テーブルへのデータのコピー

iSeries Access for Web Extensible Markup Language (XML) 文書フォーマットを使用して、データを iSeries サーバー上のテーブルにコピーする場合、その文書のフォーマットは「SQL の実行」によって生成される XML フォーマットと同一でなければなりません。文書で「スキーマを使って文書の妥当性検査を行う (Validate document with its schema)」がセットされている場合のみ、組み込みスキーマが必要です。

OpenDocument スプレッドシート・ファイルをコピーするには、このファイルがパッケージ・フォーマットであり、圧縮または暗号化されていない必要があります。

保管された要求が編集または実行されている場合、ワークステーションのデータを保護するため、ファイル名は「テーブルへのデータのコピー」フォームに自動的に指定されません。「コピーするファイル」セクションに元のファイル名が表示されます。このファイル名には、ブラウザーが Linux オペレーティング・システムから実行される場合のパス情報は含まれていません。

## My requests

ショートカットを作成するときには、接続情報はショートカットに直接保管されます。したがって、元の要求で接続を変更した場合でも、ショートカットは新しい接続に対応しません。

## 要求のインポート

ファイル・メンバーへの参照を含んだ要求をインポートすると、ファイル名からメンバーが除去されます。iSeries Access for Web は、ファイル (テーブル) のデフォルト・メンバーへのアクセスのみを提供します。

一部の「Data Transfer From AS/400®」ステートメントは、SQL ウィザードによって変更できるステートメントに変換できない場合があります。SQL ウィザードは、GROUP BY、HAVING または JOIN BY 文節を含んだ SQL ステートメントの構築や編集をサポートしていません。この場合、「SQL の実行」パネル上で、結果ステートメントを手動で編集する必要があります。

データ転送には、ANSI でも ASCII データでも PC ファイルに書き出したり、読み取ったりするように指定するオプションがありました。iSeries Access for Web にインポートされた要求は、クライアント・ファイルのエンコード方式を決定するにあたり、データ転送設定と、ブラウザーによって指定された言語および文字セットを組み合わせで使用します。これが正しくない可能性があります。この設定を手動で変更する必要があるかもしれません。

iSeries Access for Web は、ソース物理ファイルとデータ物理ファイルを区別しません。ソース物理ファイルからすべての列を選択する (SELECT \*) インポートされた要求は、ソース物理ファイル内に含まれるすべての列、順序およびデータ列を含めた出力を生成します。同一の要求を Client Access Express で実行すると、データ列しか含まれていない出力が生成されます。

AS/400 上のソース物理ファイルにデータをコピーするといった AS/400 へのデータ転送要求をインポートする場合、その要求は FDF ファイルを使用していなければなりません。インポート機能



はこの状態を検出できず、エラーは発生しません。しかし、FDF を使用していないなら、テーブルにデータをコピーするようにとのインポートされた要求は、正しく動作しません。

iSeries Access for Web は、現在 Client Access のデータ転送がサポートしているすべてのファイル・タイプをサポートしているわけではありません。場合によっては、データ転送ファイル・タイプが、対応する iSeries Access for Web ファイル・タイプにマップされることもあります。対応するファイル・フォーマットが見つからない場合、インポートは失敗します。

Client Access データ転送で使用可能な出力オプションの中には、iSeries Access for Web で使用できないものもあります。それらのオプションは無視されます。

## 照会のインポート

プログラム変数または置換変数が含まれている SQL ステートメントの照会ファイルはサポートされていません。フォームまたはプロシージャが含まれている照会ファイルもサポートされていません。

## ダウンロード:

iSeries Access for Web は、サーバーからエンド・ユーザー・ワークステーションへのファイルの配布をサポートします。

実行可能なタスクのリストを以下に示します。これらのどのタスクも、カスタマイズ機能を使用して制限することができます。

## ダウンロード

ダウンロード可能なファイルのリストを表示できます。このリストには、ユーザーが権限をもっているダウンロードのみが表示されます。リストから、ファイルをワークステーションにダウンロードすることができます。そのファイルを作成したユーザー、\*SECADM 権限を所有するユーザー、またはそのファイルを管理する権限を付与されたユーザーは、ダウンロード・ファイルを管理することもできます。管理機能には、名前の編集、記述の編集、ファイルの更新、ファイルへのアクセス権の更新、およびダウンロード・リストからのファイルの削除を行う機能が含まれます

## ダウンロードの作成 (Create downloads)

ユーザーによるダウンロードが可能なファイルのリストにファイルを追加することができます。これは、個々のファイルでも、1 個のファイルにパッケージされたか、圧縮されたファイルのグループでも構いません。ダウンロードを作成すると、作成者および \*SECADM 権限を持つユーザーのみがそれにアクセスできます。その他のユーザーは、ダウンロード・リストのダウンロードを使用することによってアクセス権が与えられます。ダウンロード・パッケージが作成されると、それが作成された Web サービス提供環境内でのみ使用可能になります。異なる Web サービス提供環境で実行されている他のユーザーは、パッケージを使用できません。その他のユーザーがパッケージを使用できるようにするには、その Web サービス提供環境内に新規のダウンロード・パッケージを作成する必要があります。

## 考慮事項

ありません。

## 制約事項

ありません。

### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

## ファイル:

iSeries Access for Web は、iSeries サーバー上のファイルへのアクセスをサポートします。

実行可能なタスクのリストを以下に示します。これらのどのタスクも、カスタマイズ機能を使用して制限することができます。

### ファイルの参照

統合ファイル・システム内のディレクトリーのリストを表示およびナビゲートすることができます。このリストから、ファイルの表示、ダウンロード、またはメール送信を行うことができます。ファイルおよびディレクトリーの名前変更、コピー、および削除を行うための管理機能が用意されています。ファイルを zip および unzip するためのサポートを利用することができます。新規ディレクトリーを作成することができます。ファイルをローカル・ファイル・システムから統合ファイル・システムにアップロードすることができます。また、統合ファイル・システム内のオブジェクトの権限を編集したり、所有権を変更したりするためのサポートも提供されます。

### ファイル共用の参照

iSeries NetServer™ ファイル共用のディレクトリーのリストを表示およびナビゲートすることができます。このリストから、ファイルの表示、ダウンロード、またはメール送信を行うことができます。読み取り/書き込み共用の場合、他の利用可能な機能には、ファイルおよびディレクトリーの名前変更、コピー、および削除、ファイルの圧縮と圧縮解除、新規ディレクトリーの作成、ローカル・ファイル・システムからのファイルのアップロード、権限の編集、および共用内のオブジェクトの所有権の変更が含まれます。

### ファイル共用 (File shares)

iSeries NetServer ファイル共用のリストを表示することができます。リストから、共用のディレクトリーを参照することができます。

### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

### ファイルの考慮事項:

Web アプリケーション・サーバー環境で iSeries Access for Web ファイル機能を使用する際には、以下の考慮事項が適用されます。

## コンテンツ・タイプ (MIME タイプ) マッピング

iSeries Access for Web は、ファイル拡張子を使用して、ファイル・コンテンツ・タイプ (MIME タイプ) を判断しています。ファイル・コンテンツ・タイプは、情報をどのようにレンダリングすれば最善なのかを判断するためにブラウザにより使用されています。例えば、拡張子 .htm、.html、または .txt を持つファイルは、ブラウザ・ウィンドウの中でレンダリングされます。また、ブラウザは、与えられたファイル・コンテンツ・タイプを処理するのにどのブラウザ・プラグインを使用すればよいかを判断しようともします。 .pdf 拡張子を持つファイルの場合、ブラウザは Adobe Acrobat Reader をロードしようとしません。

iSeries Access for Web は、含まれているファイル拡張子とファイル・コンテンツ・タイプのマッピングを拡張したり、指定変更するための方法を備えています。これらの指定変更は、インスタンス・ベースで行われます。iSeries Access for Web For が構成されているそれぞれの Web アプリケーション・サーバー (WebSphere および ASF Tomcat) インスタンスごとに、含まれているファイル拡張子とファイル・コンテンツ・タイプのマッピングを指定変更できます。

含まれているマッピングを指定変更するには、`extension.properties` と呼ばれるファイルを作成し、そのファイルを次のいずれかの位置にある統合ファイル・システムに置いてください。

- (ASF Tomcat の場合) `/QIBM/UserData/Access/Web2/application_server/instance_name/config`
- (WebSphere 環境の場合):  
`/QIBM/UserData/Access/Web2/application_server/instance_name/server_name/config`

`/QIBM/ProdData/Access/Web2/config/extension.properties` で例が提供されています。この例を `UserData` ツリーにコピーすることができます。

`application_server` には、以下を指定します。

- | • WebSphere Application Server V6.0 の場合、`was60`
- | • WebSphere Application Server Network Deployment V6.0 for OS/400 の場合、`was60nd`
- | • WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.1 の場合、`was51exp`
- | • WebSphere Application Server for iSeries V5.1 (Base および Network Deployment Editions) の場合、  
| `was51base`
- | • WebSphere Application Server for iSeries V5.0 (Base および Network Deployment Editions) の場合、  
| `was50base`
- | • WebSphere Application Server - Express for iSeries V5.0 の場合、`was50exp`
- | • `asftomcat` (ASF Tomcat 構成の場合)

`instance_name` には、iSeries Access for Web が構成された Web アプリケーション・サーバー・インスタンスの名前を指定します。この Web アプリケーション・サーバー・インスタンスは、iSeries Access for Web を構成した際に、`QIWA2/CFGACCWEB2` コマンドで指定したものです。

- | `server_name` には、iSeries Access for Web が構成された Web アプリケーション・サーバー・インスタ  
| ス内のアプリケーション・サーバーの名前を指定します。このアプリケーション・サーバーは、iSeries  
| Access for Web を構成した際に、`QIWA2/CFGACCWEB2` コマンドで指定されたものです。

次に、`extension.properties` 項目の例をいくつか示します。

- `out=text/plain`
- `lwp=application/vnd.lotus-wordpro`

- | ファイル・コンテンツ・タイプのリストについては、「Internet Assigned Numbers Authority の MIME メ  
| ディア・タイプ (Internet Assigned Numbers Authority Mime Media Types)」Web ページを参照してくださ  
| い。

## | ファイルのダウンロード時の「名前を付けて保存」ウィンドウの強制表示

- | Microsoft Internet Explorer および iSeries Access for Web 機能のいずれかを使用してファイルをブラウザ  
| ーにダウンロードする場合、Internet Explorer が、ファイルを保管する機会を与えないでブラウザーにファ  
| イルの内容を表示することがしばしばあります。基本的に、Internet Explorer は、ファイル内のデータを検  
| 査し、ブラウザー・ウィンドウにデータを表示できるかどうか判別します。多くのユーザーは、この振る舞  
| いを希望せず、ファイルを即時に保管するのを希望します。

- | この問題を避けるために、iSeries Access for Web は、Microsoft Internet Explorer および他のブラウザーに  
| 「ファイルに名前を付けて保存」ウィンドウを表示させる HTTP ヘッダーをオプションで書き込むことが  
| できるようになりました。書き込まれている HTTP ヘッダーは、Content-Disposition ヘッダーです。書き  
| 込むことができる Content-Disposition ヘッダーは、`disposition.properties` ファイルを作成することで制

御されます。ダウンロードされるファイル・コンテンツ・タイプ (MIME タイプ) に基づいて、異なる Content-Disposition ヘッダーを書き込むことができます。

iSeries Access for Web は、ファイル拡張子を使用して、ブラウザーに送信するファイル・コンテンツ・タイプ (MIME タイプ) を判断しています。ファイル・コンテンツ・タイプは、情報をどのようにレンダリングすれば最善なのかを判断するためにブラウザーにより使用されています。ファイル拡張子に基づく MIME タイプの制御について詳しくは、このトピック内の『コンテンツ・タイプ (MIME タイプ) マッピング』を参照してください。このトピックでは、ファイル拡張子を異なる MIME タイプにマップする方法を説明します。

MIME タイプ・マッピングのセットアップが実行された場合には、iSeries Access for Web UserData ツリーに `disposition.properties` ファイルを作成する必要があります。サポートされる Web サービス提供環境のほとんどで、iSeries Access for Web UserData ツリーは、`/QIBM/UserData/Access/Web2/application_server/instance_name/server_name/config` になります。`application_server`、`instance_name`、および `server_name` をサーバー上の固有値で置換します。

`disposition.properties` ファイルは、iSeries Access for Web を使用してダウンロードされているファイルの MIME タイプに基づいて、どの Content-Disposition ヘッダー値を書き込む必要があるかを指定する項目を含んでいる必要があります。

以下のサンプル・プロパティ・ファイルは、.TXT 拡張子を持つファイルのダウンロードの際に「ファイルに名前を付けて保存」ウィンドウを強制表示するには何が必要かを示しています。

例:

`extensions.properties` ファイルは、`txt=text/plain` を含む必要があります。

`disposition.properties` ファイルは、`text/plain=attachment` を含む必要があります。

プロパティ・ファイルへの変更は、ファイルが変更された後、すぐに有効になります。Web アプリケーション・サーバーが停止して再起動されない場合、変更は即時に有効になりません。

## 文書ライブラリー・サービス (QDLS) のファイル・システムの登録

iSeries Access for Web で文書ライブラリー・サービス (QDLS) のファイル・システムにアクセスするためには、システム・ディレクトリーにユーザーを登録しなければなりません。ユーザーを登録するために必要なステップを以下にリストします。ユーザーが以前に登録されている場合、または QDLS のファイル・システムにアクセスする必要がない場合には、これらのステップを行う必要はありません。ユーザーは、QDLS のファイル・システムにアクセスしなくても、iSeries Access for Web のファイル機能を使用することができます。

1. iSeries コマンド・プロンプトで `GO PCSTSK` と入力します。この表示画面を以下に示します。

#

```
+-----+
| PCSTSK                ISERIES ACCESS タスク                システム :  SYSTEM1
|
| 次から 1 つを選択してください。
|
| ユーザー・タスク
|   1. PC 文書のデータベースへのコピー
|   2. データベースの PC 文書へのコピー
|   3. フォルダー中の文書の処理
|   4. フォルダー処理
|   5. ISERIES ACCESS オーガナイザー
|
| 管理担当者タスク
|   20. ISERIES ACCESS 管理担当者の処理
|   21. ISERIES ACCESS ユーザーの登録
+-----+
```

図 1. クライアント・アクセス・タスク (GO PCSTSK)

2. 「ISERIES ACCESS ユーザーの登録」オプションを選択する。この表示画面を以下に示します。

```
+-----+
|                ISERIES ACCESS ユーザーの登録
|
| 選択項目を入力して、実行キーを押してください。
|
| ユーザー・プロファイル . . . . . AARON                名前
| ユーザー ID:
|   ユーザー識別コード . . . . . AARON                文字値
|   アドレス . . . . . SYSTEM1                文字値
|   ユーザー記述 . . . . . AARON B.
|
| システム・ディレクトリー追
|   加 . . . . . *NO                *NO, *YES
+-----+
```

図 2. 「ISERIES ACCESS ユーザーの登録」表示

3. 次の値に適切な情報を入力する。

**ユーザー・プロファイル**

ユーザーの名前です

**ユーザー ID**

通常はユーザー・プロファイル名と同じです

**ユーザー・アドレス**

通常はシステム名と同じです

**ユーザー記述**

ユーザーの説明です

**システム・ディレクトリー追加**

QDLS ファイル・システムを使用する場合は \*YES を選択します

入力フィールドの詳しい説明については、オンライン・ヘルプを参照してください。

4. 上記の手順を繰り返して、ディレクトリー項目データベースに他のユーザーを登録する。

**ファイルの制約事項:**



以下の制約事項が、Web アプリケーション・サーバー環境で iSeries Access for Web ファイル機能を使用する際に適用されます。

## 制約事項

サーバーで作成されるファイルには、現在、2 147 483 647 バイト (約 2 GB) のサイズ制限があります。

### ジョブ:

iSeries Access for Web は、iSeries サーバー上のジョブへのアクセスをサポートします。

#### ジョブおよびサーバー・ジョブ (Jobs and server jobs)

ユーザー・ジョブのリストを表示することができます。リストに表示されるジョブのタイプ (現在のジョブ状況に基づく) は、ジョブ・リスト・フィルター設定でカスタマイズすることができます。サーバー・ジョブのリストを表示することもできます。どちらのリストからも、それぞれのジョブごとにジョブ・プロパティを検索することができます。アクティブ・ジョブを保留、解放、および終了することができます。アクティブ・ジョブのジョブ・ログを表示することができます。完了したジョブのプリンター出力を表示することができます。

## 考慮事項

ありません。

## 制約事項

ありません。

### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

### メール:

メール機能は、「データベース (Database)」、「印刷 (Print)」、「ファイル (Files)」、および「コマンド (Commands)」など、iSeries Access for Web のいくつかの場所から使用することができます。項目がユーザーの個人用フォルダーに保管されたとき、またはユーザーのフォルダーがサイズしきい値に達したときに、そのユーザーに E メール通知を送信することもできます。

## 考慮事項

- 1 メール機能を使用するためには、先にユーザー・プロファイルで E メール・アドレスおよび SMTP サーバーを構成しておかなければなりません。この値は、構成されている場合、iSeries システム・ディレクトリーから取得されます。それ以外の場合、「カスタマイズ」を使用してこの値を設定します。SMTP サーバー値を設定するには、管理者アクセス権が必要です。管理者アクセス権は、E メール・アドレスを設定する場合にも必要になる可能性があります。

## 制約事項

ありません。

### 関連資料

115 ページの『印刷』

iSeries Access for Web は、iSeries サーバーにあるスプール・ファイル、プリンター、プリンター共

用、および出力待ち行列 にアクセスするためのサポートを提供します。また、SCS および AFP プリンター出力 を PDF 文書に自動変換するためのサポートも提供します。

95 ページの『コマンド』

iSeries Access for Web は、iSeries サーバーでの CL コマンドの実行をサポートします。

96 ページの『データベース』

iSeries Access for Web は、iSeries サーバーにあるデータベース・テーブルへのアクセスのサポートを提供しています。

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

## メッセージ:

iSeries Access for Web は、iSeries サーバー上のメッセージへのアクセスをサポートします。

実行可能なタスクのリストを以下に示します。これらのどのタスクも、カスタマイズ機能を使用して制限することができます。

### メッセージの表示 (Display messages)

iSeries Access for Web 認証ユーザーに関するメッセージ待ち行列内のメッセージのリストを表示することができます。システム・オペレーター・メッセージ待ち行列にあるメッセージのリストを表示することもできます。このメッセージ・リストからメッセージ・テキストとメッセージ情報を表示することができます。メッセージに対して応答を行ったり、メッセージを削除したりすることもできます。

### メッセージおよび通知の送信 (Send messages and announcements)

テキスト・メッセージをユーザー・プロファイルまたはメッセージ待ち行列に送信することができます。このメッセージは通知メッセージでも照会メッセージでもかまいません。中断メッセージは iSeries ワークステーションに送信することができます。Sametime 通知 を iSeries Access for Web Sametime ユーザーに送信することもできます。

### メッセージ待ち行列 (Message queues)

iSeries サーバーにあるメッセージ待ち行列のリストを表示することができます。このリストから、メッセージ待ち行列を選択したり、特定のキュー内のメッセージを管理したりすることができます。サーバーからメッセージ待ち行列を削除することもできます。

## 考慮事項

Sametime 通知を送信するためには、以下の条件が満たされている必要があります。

- 使用する Sametime サーバーが識別されていなければならない。この情報を構成するには「**カスタマイズ**」 → 「**設定値**」機能を使用してください。詳しくは、『**カスタマイズ**』トピックを参照してください。
- それぞれの通知の受信者のユーザー名が Sametime サーバーに登録されていなければならない。
- Sametime の「**ユーザー・プリファレンス**」設定が、それぞれの通知受信者の登録済みユーザー名に設定されていなければならない。
- Sametime のクライアントおよびサーバー・コードがバージョン 3.0 またはそれ以降でなければならない。
- iSeries サーバー の IP アドレスが Sametime サーバー のトラステッド IP リストに含まれていなければならない。iSeries サーバーに複数の IP アドレスがある場合には、すべての IP アドレスをリストに

追加しなければなりません。 IP アドレスをトラステッド IP リストに追加するには、Sametime サーバーのデータ・ディレクトリー内の sametime.ini ファイルを編集し、そのファイルの Config セクションに次の行を追加します。

```
[Config]
VPS_TRUSTED_IPS="trusted IP addresses separated by commas"
```

## 制約事項

メッセージは、ライブラリー名が 9 文字以下のライブラリーに含まれているメッセージ待ち行列に対してのみ、送信することができます。

### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

## My folder:

iSeries Access for Web の各ユーザーには、個人用フォルダーが与えられます。このフォルダーには、フォルダーの所有者または他の iSeries Access for Web ユーザーによって格納された項目が含まれます。iSeries Access for Web 内の複数の機能の操作結果を、個人用フォルダーに保管することができます。例えば、SQL ステートメントまたは CL コマンドの結果を個人用フォルダーに保管することができます。

## My folder

現行ユーザーの個人用フォルダーに入っている項目のリストを表示することができます。このリストから、フォルダー項目を開いたり、メール送信したり、別のフォルダーまたは統合ファイル・システムにコピーしたりすることができます。項目を名前変更したり、削除したり、開いている項目または開いていない項目としてマークを付けたりするための、管理機能が用意されています。

## 考慮事項

カスタマイズ機能を使用してユーザーのフォルダーのサイズを制限したり、ユーザーのフォルダーに含めることのできる項目の数を制限したりすることができます。カスタマイズ機能は、ある項目がユーザーのフォルダーに入れられたとき、またはフォルダーがサイズまたは項目カウントのしきい値に達したときに、メールまたは Sametime 通知を送るようにセットアップするためにも、使用することができます。

## 制約事項

ありません。

### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

115 ページの『印刷』

iSeries Access for Web は、iSeries サーバーにあるスプール・ファイル、プリンター、プリンター共用、および出力待ち行列にアクセスするためのサポートを提供します。また、SCS および AFP プリンター出力を PDF 文書に自動変換するためのサポートも提供します。

95 ページの『コマンド』

iSeries Access for Web は、iSeries サーバーでの CL コマンドの実行をサポートします。

96 ページの『データベース』

iSeries Access for Web は、iSeries サーバーにあるデータベース・テーブルへのアクセスのサポートを提供しています。

## マイ・ホーム・ページ:

iSeries Access for Web は、ホーム・ページ URL ([http://<server\\_name>/webaccess/iWAHome](http://<server_name>/webaccess/iWAHome)) にアクセスしたときに表示されるデフォルト・ホーム・ページを配信します。

デフォルトのホーム・ページは、プロダクトの機能を強調するための開始点となるように設計されています。このページは、カスタマイズされたホーム・ページ、または iSeries Access for Web の機能にアクセスするためのページを構築する方法の例ともなっています。デフォルトのホーム・ページを置き換えるためには、カスタマイズ機能を使用してホーム・ページの HTML ファイル・ポリシーで新規ホーム・ページ HTML ファイルの名前を指定してください。このホーム・ページの置き換えは、個別のユーザーについて行うことも、ユーザーのグループについて行うことも、すべてのユーザー (\*PUBLIC) について行うこともできます。

## 考慮事項

- ありません。

## 制約事項

ありません。

### 関連概念

77 ページの『デフォルト・ページ・コンテンツ』

iSeries Access for Web は、ユーザー処置への応答として、たいていのページ・コンテンツを動的に生成します。コンテンツの残りは、静的 HTML ファイルから取得されます。スタイル・シートは、コンテンツの外観の特定の特徴を制御するためにも使用されます。

### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

## その他:

iSeries Access for Web は、iSeries Access for Web のその他の機能を使用して作業する場合に便利なユーティリティのセットを備えています。

実行可能なタスクのリストを以下に示します。これらのどのタスクも、カスタマイズ機能を使用して制限することができます。

## 製品情報 (About)

iSeries Access for Web およびそれが稼働する環境に関する情報を表示することができます。

## ブックマーク

iSeries Access for Web ナビゲーション・タブ内のそれぞれのリンクに関する項目を含むブックマーク・ファイルを作成することができます。

## パスワードの変更 (Change password)

ログオン・ユーザー・プロファイルのパスワードは、iSeries Access for Web を使用して変更することができます。

## 接続プールの状況 (Connection pool status)

iSeries Access for Web は、iSeries サーバー接続のプールを保守します。接続の使用および可用性に関する要約を表示することができます。プール内のそれぞれのユーザーと iSeries サーバーのペアごとに、接続使用の詳細を表示することもできます。この詳細リストを使用して、あるユーザー

とサーバーのペアに関するすべての接続をプールから消去することができます。カスタマイズ機能を使用して、接続プールの設定を構成することができます。

### トレース (Trace)

トレース機能は、問題判別に役立てることができます。IBM Service は、問題が検出された場合に、これらの機能に関する情報を提供します。

### 考慮事項

ありません。

### 制約事項

ありません。

#### 関連資料

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

### 印刷:

iSeries Access for Web は、iSeries サーバーにあるスプール・ファイル、プリンター、プリンター共用、および出力待ち行列 にアクセスするためのサポートを提供します。また、SCS および AFP プリンター出力を PDF 文書に自動変換するためのサポートも提供します。

実行可能なタスクのリストを以下に示します。これらのどのタスクも、カスタマイズ機能を使用して制限することができます。

### プリンター出力 (Printer output)

現行ユーザーが所有しているスプール・ファイルのリストを表示することができます。このリストから、SCS および AFP 出力を PNG、TIFF、PCL、 および AFP フォーマットで表示することができます。ASCII 出力は、ブラウザにダウンロードすることができます。スプール・ファイルの内容を使用して PDF 文書を作成することができます。この文書を、ブラウザで見たり、個人用フォルダーに入れたり、E メール添付ファイルとして他のユーザーに送信したりすることができます。プリンター出力に関して以下の処置を行うためのオプションも用意されています: 保留、削除、次の印刷、別のプリンターへの移動、別の出力待ち行列への移動、別のサーバーへの送信、属性の変更、およびデータベース・ファイルへのコピー。

### プリンターおよび共用 (Printers and shares)

iSeries サーバーにあるプリンターのリストを表示することができます。リストに表示されるプリンターのセットは、プリンター名フィルターを使用して制限することができます。iSeries NetServer プリンター共用のリストも表示することができます。これらのリストから、あるプリンターに関するプリンター出力にアクセスすることができます。プリンター状況情報を表示することができます。プリンター・ジョブで待機中のメッセージを表示したり、それに対して応答したりすることができます。書き込みプログラム・ジョブを保留、解放、開始、および停止することができます。

### PDF プリンター

SCS および AFP プリンター出力を PDF 文書に自動的に変換するために、PDF プリンターを作成することができます。構成済みの PDF プリンターのリストを表示することができます。このリストから、プリンターを開始および停止することができます。プリンターの構成は、変更したり、PSF 構成オブジェクトの内容を使用して指定変更したりすることができます。PDF プリンターの所有者は、プリンターにアクセスできるユーザーを追加したり、プリンターの所有者を変更したりすることができます。所有者は、その PDF プリンターを削除することもできます。



注: PDF プリンターを使用するためには、iSeries サーバーに IBM Infoprint Server (5722IP1) がインストールされている必要があります。

## PDF プリンター出力

現行ユーザーが権限を所有している、PDF プリンターによって変換された文書のリストを表示することができます。このリストから、変換済みの各スプール・ファイルに関連したジョブ情報を表示することができます。これらの文書を表示または削除したり、個人用フォルダーにコピーしたり、iSeries 統合ファイル・システムにコピーしたり、E メールの添付ファイルとして他のユーザーに送信したりすることもできます。

## インターネット・プリンターおよび共用 (Internet printers and shares)

iSeries サーバーにあるインターネット・プリンターのリストを表示することができます。インターネット・プリンター共用 (IBM IPP サーバー・アドミニストレーター・インターフェースを使用して構成されたインターネット・プリンター) のリストも表示することができます。これらのリストから、プリンター状況、プリンター構成情報、および各プリンターで印刷を行うために使用される URL を表示することができます。各プリンターのプリンター出力にアクセスすることができます。プリンターを開始および停止することもできます。IBM Internet Printing Protocol について詳しくは、『Internet Printing Protocol』トピックを参照してください。

## 出力待ち行列 (Output queues)

iSeries サーバーにある出力待ち行列のリストを表示することができます。リストに表示されるキューのセットは、ライブラリーおよびキュー名のフィルターを使用して制限することができます。このリストから、それぞれのキューにあるファイルの数、およびそれぞれのキューに関連した書き出しプログラムを表示することができます。キュー状況情報を表示することができます。キューに入っているプリンター出力にアクセスすることができます。キューを保留したり解放したりすることもできます。

## 関連資料

16 ページの『iSeries のソフトウェア要件』

このトピックには、iSeries Access 用の iSeries ソフトウェア要件が含まれています。

113 ページの『My folder』

iSeries Access for Web を使用すると、iSeries Access for Web によって生成されたコンテンツを保管し、管理することができます。

96 ページの『カスタマイズ』

iSeries Access for Web は、製品を調整するためのサポートを提供します。

111 ページの『メール』

メール機能は、「データベース (Database)」、「印刷 (Print)」、「ファイル (Files)」、および「コマンド (Commands)」など、iSeries Access for Web のいくつかの場所から使用することができます。項目がユーザーの個人用フォルダーに保管されたとき、またはユーザーのフォルダーがサイズしきい値に達したときに、そのユーザーに E メール通知を送信することもできます。

## 印刷の考慮事項:

以下の考慮事項は、Web アプリケーション・サーバー環境で iSeries Access for Web の印刷機能を使用する場合に適用されます。

## PDF プリンター

PDF プリンター機能を使用する場合は、IBM Infoprint Server for iSeries が必要になります。

## プリンター出力の PDF 変換

iSeries Access for Web には 2 種類の PDF 変換が可能です。すなわち、IBM Infoprint Server (5722-IP1) と TIFF 変換です。IBM Infoprint Server は別売の製品であり、文書中をナビゲートする機能を維持したまま文書を忠実に再現する、フル・テキスト PDF ファイルを作成する機能を iSeries Access for Web ユーザーに提供します。IBM Infoprint Server がインストール済みの場合、iSeries Access for Web は自動的にそれを検出し使用します。IBM Infoprint Server をインストールしていない場合、スプール・ファイルの個々のページがイメージに変換されます。これらのイメージは PDF 文書のページになります。これらのページの内容を編集することはできません。

注:

1. IBM Infoprint Server は、現行ユーザーのリストにあるスプール・ファイルの順序を変更する場合があります。また、作成日時および開始と完了日時を変更する場合があります。
2. IBM Infoprint Server で印刷するには、スプール・ファイルは HELD、READY、または SAVED 状態でなければなりません。

## プリンター出力 - 表示

拡張機能表示™ (AFP) フォーマットの表示:

- AFP フォーマットをプレビューする場合は、「Pick App (アプリケーションの選択)」を選択して、該当の実行可能ファイル (例えば C:\Program Files\IBM\Client Access\AFPVIEWR\ftdwinvw.exe) を選択する。
- iSeries Access for Web のダウンロード機能を使用して、AFP Viewer プラグインをダウンロードするか、Windows AFP Viewer Plug-in ダウンロードページからこのプラグインをインストールする。このプラグインは、SCS ファイルの印刷 と AFP ファイルの印刷 の両方をサポートします。

PCL または TIFF フォーマットの表示

プリンター出力を PCL または TIFF として表示するには、ビューアーをインストールしておく必要があります。

**印刷の制約事項:**

Web アプリケーション・サーバー環境で iSeries Access for Web の印刷機能を使用する場合、以下の制約事項が適用されます。

**AFP データの表示**

| AFP データ は、PNG、TIFF、または PCL として表示した場合には正しく表示されないことがあります。  
| データが IBM AFP プリンター・ドライバーの 1 つを使用して作成され、「テキストをグラフィックスとして印刷」ドライバー設定が「オフ」になっている場合は、「フォント」装置設定が EBCDIC コード・ページに設定されている必要があります。「テキストをグラフィックスとして印刷」設定はプリンター・ドライバーの文書デフォルト設定です。

**AFP Viewer を使用したスプール・ファイルの表示**

AFP スプール・ファイルの外部リソースは表示されません。

## iSeries Access for Web URL インターフェース

iSeries Access for Web によって提供される機能は、いくつかの URL インターフェースを介して利用することができます。これらの URL インターフェースを Web ページにリンクとして組み込むことにより、iSeries Access for Web の機能に直接アクセスできるようになります。これらの URL にブックマークを付けて、頻繁に使用されるタスクに簡単にアクセスできるようにすることもできます。

これらのインターフェースの詳細については、「iSeries Access for Web」Web サイトを参照してください。

## NLS に関する考慮事項

iSeries Access for Web は、さまざまなソースからの情報を表示します。これらのソースの中には、複数の言語で情報を提供したり、言語に特有の方法で情報をフォーマット設定できるものがあります。

これには、以下のようなソースが含まれます。

- i5/OS
- JDBC ドライバー
- Web アプリケーション・サーバー
- iSeries Access for Web

このような言語特有の情報には、書式、エラー・メッセージ、ヘルプ、フォーマット済み日付および時刻、およびソートされたリストが含まれます。言語の選択が可能な場合、ユーザーにとって適切な言語の選択が毎回行われます。選択された言語は、言語およびこれらの他のソースからの情報のフォーマット設定に影響を及ぼします。しかしこれは、特定のソースからの情報が選択された言語になること、あるいは、すべての情報が同じ言語になることを保証するものではありません。

iSeries にインストールされている言語バージョンによっては、i5/OS で生成されるメッセージおよびヘルプが、選択された言語とは異なる言語になっている場合があります。選択した言語が iSeries にインストールされていない場合には、iSeries Access for Web で表示される i5/OS メッセージが i5/OS の 1 次言語で表示されます。

## 言語および文字セットの選択

iSeries Access for Web は、適切な言語および文字セットを選択するために、以下のような手順を使用します。

まず、以下のソースから、可能性のある言語選択のリストを組み立てます。

- iSeries Access for Web の **locale=** パラメーター。
- iSeries Access for Web の「希望する言語 (Preferred language)」プリファレンス。
- ブラウザーの言語構成 (「HTTP Accept-Language」ヘッダー)。
- iSeries ユーザー・プロファイル言語 ID。
- Java 仮想マシンのデフォルト・ロケール。

2 番目に、以下のソースから、受け入れ可能な文字セットのリストを組み立てます。

- iSeries Access for Web の **charset=** パラメーター。
- iSeries Access for Web の「希望する文字セット (Preferred character set)」プリファレンス。
- ブラウザーの文字セット情報 (「HTTP Accept-Charset」ヘッダー)。

| 注: ブラウザーの文字セット情報 (「HTTP Accept-Charset」ヘッダー) で、UTF-8 がサポートされることが示されている場合には、受け入れ可能な文字セットのリストで、そのブラウザーがサポートするその他の文字セットの前に UTF-8 が表示されます。この場合、「希望する文字セット (Preferred character set)」プリファレンスが「なし」に設定されていると、UTF-8 が文字セットとして使用されます。

3 番目に、可能性のある言語のリストに含まれるそれぞれの言語について、それが使用可能であるか、また、受け入れ可能な文字セットのリストに含まれる文字セットを使用して表示できるかどうか検査されます。

使用可能で、しかも受け入れ可能な文字セットのいずれかで表示できる言語のうち、最初のものが選択されます。

文字セットについては、その言語を表示できる受け入れ可能な文字セットのうちで、リストの最初にあるものが選択されます。

## 複数言語 (マルチリンガル) による情報

iSeries Access for Web で表示される情報はさまざまなソースからのものであるため、その情報が複数の言語になる場合があります。複数の言語がブラウザ上で同時に表示されるとき、すべての文字が正しく表示されるために UTF-8 のようなマルチリンガル文字セットが必要になることがあります。このような場合は、「希望する文字セット (Preferred character set)」プリファレンスを「マルチリンガル (Multilingual) [UTF-8]」または「なし」に変更する必要があります。

注: たいていのブラウザは UTF-8 を文字セットとしてサポートするため、「希望する文字セット (Preferred character set)」プリファレンスに「なし」を指定すると、iSeries Access for Web は、文字セットに UTF-8 を使用します。

## CCSID および i5/OS メッセージ

情報が確実に正しく表示されるようにするためには、i5/OS で生成されるメッセージが正しく表示されるよう、ユーザー・プロファイルのコード化文字セット ID (CCSID) を適切に設定します。

## Web アプリケーション・サーバー環境での iSeries Access for Web の保管および復元

サーバー・コマンド SAVLICPGM および RSTLICPGM を使用すると、iSeries Access for Web をあるサーバーから別のサーバーへ保管し、復元することができます。これらのコマンドを使用することは、インストール・メディア (CD-ROM) を使用して iSeries Access for Web をインストールすることと同じです。ただし、これらのコマンドを使用すると、適用済みの iSeries Access for Web PTF がソース・サーバーから保管され、ターゲット・サーバーで復元されるという利点があります。

ソース・サーバーで iSeries Access for Web が使用されており、ユーザーがユーザー・データを生成し、保管している場合、SAVLICPGM および RSTLICPGM プロセスによって、ターゲット・サーバーにユーザー・データが伝搬されることはありません。ユーザー・データを伝搬するには、追加ステップを実行する必要があります。

iSeries Access for Web を開始し、ユーザー・データを伝搬するには、以下の手順に従います。

1. 計画を完了し、チェックリストをインストールして構成する。RSTLICPGM コマンドでは、ターゲット・サーバーで iSeries Access for Web は使用可能になりません。iSeries Access for Web を使用する前に、まず構成し、開始する必要があります。iSeries Access for Web を構成するには、『チェックリストのプラン、インストール、および構成』を参照してください。チェックリストには、インストール・メディア (CD-ROM) を使用して、サーバーに iSeries Access for Web をインストールする手順が含まれています。チェックリストのインストールに関連する箇所で、ソース・サーバーからターゲット・サーバーに対して SAVLICPGM および RSTLICPGM コマンドを実行します。
2. CFGACCWEB2 コマンドを使用する。引き続きチェックリストを使用してステップを実行し、CFGACCWEB2 コマンドを使用してターゲット・サーバーに iSeries Access for Web を構成します。
3. WRKLNK コマンドを実行する。iSeries Access for Web の構成後に、ターゲット・サーバーでサーバー・コマンド WRKLNK OBJ('/QIBM/UserData/Access/Web2/\*') を実行します。



4. **ターゲット・サーバーの users パスを確認する。** 複数のディレクトリーがリストされます。その中に、CFGACCWEB2 コマンドを使用して構成された Web アプリケーション・サーバー・タイプに対応した名前を持つディレクトリーがあります。このディレクトリーには、構成されている Web アプリケーション・サーバー・タイプのインスタンスおよびアプリケーション・サーバーを識別するサブディレクトリーが含まれています。

「users」という名前のディレクトリーが表示されるまでこのディレクトリーを展開します。このディレクトリーの完全パスをメモします。後のステップで、ユーザー・データが、この users ディレクトリーにコピーされます。

複数の Web アプリケーション・サーバー・タイプを構成した場合は、複数の users ディレクトリーを異なるディレクトリー・ツリーに配置する必要があります。

5. **WRKLNK コマンドを実行する。** ソース・サーバーで、サーバー・コマンド WRKLNK OBJ('/QIBM/UserData/Access/Web2/\*') を実行します。
6. **ソース・サーバーの users パスを確認する。** 複数のディレクトリーがリストされます。その中に、ソース・サーバーで使用されている Web アプリケーション・サーバー・タイプに対応した名前を持つディレクトリーがあります。このディレクトリーには、構成されている Web アプリケーション・サーバー・タイプのインスタンスおよびアプリケーション・サーバーを識別するサブディレクトリーが含まれています。

users という名前のディレクトリー・ツリーが表示されるまでこのディレクトリーを展開します。このディレクトリーの完全パスをメモします。この users ディレクトリーには、ターゲット・サーバーに保管され、復元されるユーザー・データが含まれています。

複数の Web アプリケーション・サーバー・タイプを構成した場合は、複数の users ディレクトリーを異なるディレクトリー・ツリーに配置する必要があります。

7. **users ディレクトリーを保管し、復元する。** ソース・サーバーの users ディレクトリーをターゲット・サーバーの users ディレクトリーに保管し、復元する必要があります。使用しやすい保管および復元手段を使用してください。
8. **config ディレクトリーを保管し、復元する。** users ディレクトリーが含まれているディレクトリーには、config というディレクトリーも含まれています。config ディレクトリーにも、保管および復元する必要があるファイルが含まれています。保管および復元する必要があるファイルは、webaccess.policies、extension.properties、および disposition.properties です (ない場合もあります)。
9. **CFGACCWEB2 コマンドを実行する。** すべてのユーザー・データ・ファイルがソース・サーバーから保管され、ターゲット・サーバーで復元されたため、CFGACCWEB2 コマンドを再度実行する必要があります。コマンドを再度実行することによって、保管および復元されたすべてのユーザー・データ・ファイルのデータおよびオブジェクト権限が適切に設定されます。

複数の Web アプリケーション・サーバー・タイプを構成した場合は、ステップ 4 および 6 で配置したユーザー・ディレクトリーの各ペアに対してステップ 7、8、および 9 を繰り返します。

10. **チェックリストに戻る。** 計画に戻り、チェックリストをインストールおよび構成し、残りのステップを実行します。

#### 関連概念

14 ページの『チェックリスト: プラン、インストール、および構成』

このチェックリストは、単純な iSeries Access for Web 環境をプラン、インストール、検査、および構成するために必要なステップを示しています。これらのステップは、他の Web アプリケーション、またはさらに複雑な Web 環境は考慮していません。

#### 関連情報



CFGACCWEB2 CL コマンド

WRKLNK CL コマンド

---

## ポータル環境の iSeries Access for Web

iSeries Access for Web は、ブラウザ・インターフェースを使って iSeries リソースにアクセスするためのポートレットのセットを提供します。このポートレットは、iSeries サーバー上のポータル環境で実行されます。

以下のトピックでは、この環境での製品の構成、カスタマイズ、使用、保管についての情報を提供します。ポータル環境に固有の概念も説明されています。

### 関連概念

6 ページの『ポータル・アプリケーション』

iSeries Access for Web は、WebSphere Portal や IBM Workplace Services Express などのポータル環境で実行されるポータル・アプリケーションを提供します。

## ポータルの概念

IBM は、アプリケーションをインストールして実行できるポータル環境を提供する、WebSphere Portal などの多くの製品を提供しています。単純化した用語でのポータルは、複数の情報ソースへのアクセスの単一点です。各情報ソースは、ポートレットと呼ばれます。ポートレットとは、ポータル・ページに表示される小さなウィンドウまたはコンテンツ領域の 1 つです。

ポータル・ページにポートレットを置くことによって、多くの「アプリケーション」またはデータのソースを同時に表示することができます。個々のポートレットは、あらゆるバックエンド・サーバーからのデータを処理できるため、ポータル・ページは、データ・ロケーションおよびデータ・フォーマットとは独立にデータの統合を提供します。

ページ上の個々ポートレットは関係していても、関係していなくてもかまいません。ポートレットが関連している場合、エンド・ユーザーの一連のタスクを実行するために、ポートレットが協働できると役立ちます。互いに通信して関連するタスクを実行できるポートレットは、連携ポートレットと呼ばれます。

iSeries Access for Web ポートレットは、iSeries i5/OS リソースにアクセスするためのポータル機能を提供します。

以下のトピックは、ポートレットとその使用方法についての詳細情報を含んでいます。

## 連携ポートレット

用語「連携ポートレット」は、情報を共用することによって互いに対話するページ上のポートレットの能力を指します。

ポータル・ページ上の 1 つ以上の連携ポートレットは、ソース・ポートレットのアクションまたはイベントによってトリガーされるソース・ポートレットからの変更自動的に反応することができます。ソース・ポートレットは、ターゲットまたは受信ポートレットで消費、処理される情報の送信者です。情報の断片のターゲットまたは受信者であるポートレットは、情報を処理し、ポートレット・コンテンツ領域に適切な情報を表示することで反応することができます。ソースおよびターゲット・ポートレットの連携は、プロパティ・ブローカーと呼ばれる WebSphere Portal ランタイム・エンティティによって促進されます。

ページ上のポートレットは、独立に開発され、異なるアプリケーションの一部であっても、このように連携できます。これを機能させる唯一の要件は、断片情報の送信者ポートレットおよび受信者ポートレットの両

方が同じポータル・ページにあり、同じタイプの情報を取り扱うようにセットアップされている必要があるということです。デフォルトで、ソース・ポートレットの情報をターゲット・ポートレットに送信するためには手動の操作が必要です。この手動の操作は、「クリック・ツー・アクション (Click To Action) (C2A)」と呼ばれます。情報の自動送信を望む場合、ポートレットと一緒に「配線」することができます。管理者は、IBM ワイヤリング・ポートレットを使用して配線することができます。このシナリオでは、ソース・ポートレットでアクションが取られたときに、断片情報が正しい受信ポートレットに自動的に流れます。エンド・ユーザーまたは管理者は、ソース・ポートレットで CTRL キーを押しながら「アクション」アイコンをクリックすることで、2 つのポートレットと一緒に配線することもできます。このソース・ターゲット関係は、ユーザーが再び CTRL キーを押して「アクション」アイコンをクリックするまで保持されます。

iSeries Access for Web のポータル機能には複数の連携ポートレットが含まれます。連携ポートレットを含む機能領域には、データベース、ファイル、および印刷が含まれます。連携してより高度な一連の機能を提供するポートレットがどれかを判別するには、以下のセクションの詳細情報を参照してください。

#### 関連概念

145 ページの『印刷』

139 ページの『データベース』

#### 関連資料

141 ページの『ファイル』

iSeries Access ポートレットは、i5/OS 上のファイルへのアクセスのサポートを提供します。

## Cross Site Scripting

WebSphere Portal は、Cross-site scripting (CSS) セキュリティー保護をデフォルトで使用可能にします。CSS セキュリティー保護を使用可能にすると、フォーム入力の文字「>」(より大きい) および「<」(より小さい) は、文字エンティティー「&gt;」および「&lt;」に変更されます。ポータル・コンテンツを混乱させる可能性のある悪意のある入力のセキュリティ・リスクを最小化するためにこれを行います。

CSS セキュリティー保護を使用可能にすると、ユーザーからの情報の検索でフォーム入力に依存している iSeries Access ポートレットで問題が発生する可能性があります。例えば、iSeries Dynamic SQL ポートレットは、実行する SQL ステートメントを検索するためにフォームを使用します。ステートメントのすべての「>」または「<」文字は、「&gt;」および「&lt;」に変更されます。この変更済みステートメントが実行されると、以下のようなメッセージで失敗します。[SQL0104] トークン & が無効でした。有効なトークン:  
< > = <> <= ...

WebSphere Portal は、CSS セキュリティー保護を使用不可にする構成オプションを備えています。この保護を使用不可化すると、フォーム入力の変更に関連する問題を避けることができますが、このサポートを使用不可化することに関連したセキュリティへの影響を考慮する必要があります。詳しくは、WebSphere Portal 資料の『トラブルシューティング』セクションを参照してください。

#### 関連資料

142 ページの『ファイルの考慮事項』

以下はファイルの考慮事項です。

98 ページの『データベースの考慮事項』

以下の考慮事項が、Web アプリケーション・サーバー環境で iSeries Access for Web データベース機能を使用する際に適用されます。

## ポータル環境での iSeries Access for Web の構成

- iSeries Access for Web を iSeries サーバーにインストールしても、それだけでは使用可能になりません。
- iSeries Access for Web を使用するためには、ポータル環境に配置する必要があります。

- 注: 前のリリースから iSeries Access for Web をアップグレードしている場合でも、新機能を使用可能にするには、iSeries Access for Web を構成する必要があります。

## 構成コマンド

- iSeries Access for Web には、サーバーで構成を実行したり管理するためのコマンドが備わっています。
- ポータル環境内での iSeries Access for Web 構成の構成および除去などの処理を行うためには、これらのコマンドを使用する必要があります。

- CL コマンドおよびスクリプト・コマンドの両方が提供されます。異なるタイプのコマンドを提供することによって、最も使いやすいインターフェースを使用して iSeries Access for Web を管理する柔軟性が得られます。CL コマンドとスクリプト・コマンドは同じ機能を実行しますが、起動の仕方が異なるだけです。パラメーターも同じですが、入力方法が異なります。

- CL コマンドはライブラリー QIWA2 にインストールされます。スクリプト・コマンドは、/QIBM/ProdData/Access/Web2/install にインストールされ、QShell 環境内で使用することができます。

- iSeries Access for Web CL コマンドには次のようなものがあります。

- **CFGACCWEB2:** iSeries Access for Web ポータル・アプリケーションを配置します。
- **RMVACCWEB2:** iSeries Access for Web 構成を除去します。

- iSeries Access for Web スクリプト・コマンドには次のようなものがあります。

- **cfgaccweb2:** iSeries Access for Web ポータル・アプリケーションを配置します。
- **rmvaccweb2:** iSeries Access for Web 構成を除去します。

## コマンド・ヘルプ

- CL コマンド用のヘルプにアクセスするには複数の方法があります。コマンド行にコマンド名を入力して F1 を押します。あるいは、コマンド名を入力して F4 を押し、コマンドにプロンプトを出してから、任意のフィールドにカーソルを移動して F1 を押し、そのフィールドのヘルプを表示します。

- スクリプト・コマンドに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。例えば、コマンド STRQSH を実行して QShell セッションを開始してから、コマンド /QIBM/ProdData/Access/Web2/install/cfgaccweb2 -? を入力します。

## 構成シナリオ

- ポータル環境に慣れていないユーザーが HTTP および Web アプリケーション・サーバーを作成し、ポータル環境を配置する必要がある場合、または iSeries Access for Web 用の新規のポータル環境を作成する場合には、プロセス全体を説明した例が使用できます。

- ポータル環境に慣れているユーザーが HTTP および Web アプリケーション・サーバーを既に作成しており、ポータル環境が配置され、使用準備ができている場合は、iSeries Access for Web コマンドを起動する方法およびコマンドに入力する内容を示す例が使用できます。

### 関連タスク

24 ページの『iSeries Access for Web のインストール』  
サーバーに iSeries Access for Web をインストールするには、以下の手順に従います。

#### 関連資料

136 ページの『ページの作成』  
iSeries Access ポートレットを WebSphere Portal 用に構成する場合に、iSeries Access ポートレットでデフォルトの WebSphere Portal ページを作成して、データを追加することができます。作成されたデフォルト・ページは、「マイ iSeries」という名前のメインページおよびメインページの下複数のサブページから構成されます。サブページは、同様の機能ポートレットを同じページにグループ化します。

22 ページの『アップグレードの考慮事項』  
このトピックでは、iSeries Access for Web の前のリリースからのアップグレードについて説明します。

#### 関連情報

CFGACCWEB2 CL コマンド

RMVACCWEB2 CL コマンド

### 新規ポータル環境の構成例

以下の例では、完成したポータル環境を設定する手順を段階的に示しています。

この手順では、HTTP および Web アプリケーション・サーバーの作成、ポータル環境の配置、iSeries Access for Web ポータル・アプリケーションの配置、および iSeries Access for Web ポータル・アプリケーションが作動しているかどうかの確認について説明します。

以下の例に進む前に、チェックリストの計画、インストール、および構成が完了していることを確認してください。

#### WebSphere Portal - Express for Multiplatforms V5.0.2 (iSeries) の構成:

この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。WebSphere Portal Web サービス提供環境で、iSeries Access for Web を実行するのに必要なすべてのステップを説明します。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。

この例は、以下のステップから構成されます。

- IBM Web Administration for iSeries インターフェース (IBM HTTP Server for iSeries としても知られる) を始動する。ステップ 1 を参照してください。
- HTTP Web サーバーを作成し、WebSphere Application Server V5.0 for iSeries Web アプリケーション・サーバーを作成して WebSphere Portal を配置する。ステップ 2 (125 ページ) を参照してください。
- iSeries Access for Web を構成する。ステップ 3 (126 ページ) を参照してください。
- ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。ステップ 4 (128 ページ) を参照してください。

WebSphere Portal Web サービス提供環境を構成するためのステップは、以下のとおりです。

1. IBM Web Administration for iSeries インターフェースを開始する。
  - a. サーバーへの 5250 セッションを開始する。
  - b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでサインオンする。
  - c. サーバー・コマンド STRTCPSVR SERVER(\*HTTP) HTTPSVR(\*ADMIN) を実行して、Web 管理インターフェースを開始する。

- d. 5250 セッションを最小化する。
2. HTTP Web サーバーを作成し、WebSphere Application Server V5.0 for iSeries Web アプリケーション・サーバーを作成して WebSphere Portal を配置する。
- a. ブラウザーで `http://<server_name>:2001` を開く。
- b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでログインする。
- c. 「**IBM Web Administration for iSeries**」を選択する。
- d. 「**セットアップ**」タブ付きページを選択する。
- e. 「共通タスクおよびウィザード」で、「**WebSphere Portal の作成**」を選択する。
- f. 「WebSphere Portal の作成」ページが開きます。「次へ」を選択します。
- g. 「ポータル用の WebSphere Application Server の作成 - 名前の指定」ページが表示されます。「**アプリケーション・サーバー名**」フィールドに `iwawps5` と入力し、「次へ」を選択します。
- h. 「HTTP サーバー・タイプの選択」ページが開きます。「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」を選択してから、「次へ」を選択します。
- i. 「新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成」ページが表示されます。
- 「**HTTP サーバー名**」に `IWAWPS5` を指定する。
  - 「**ポート**」に `2038` を指定する。
- 値を入力後に、「次へ」を選択します。
- j. 「アプリケーション・サーバーで使用する内部ポートの指定」ページが表示されます。「**範囲の最初のポート**」でデフォルト値を `21038` に変更し、「次へ」を選択します。
- k. 「ポータル用 DB2 データベースの作成」ページが表示されます。「次へ」を選択します。
- l. 「ポータル・データベースを所有するユーザー ID の指定 (Specify User to Own the Portal Database)」ページが表示されます。ページには、デフォルトで既存のユーザー・プロファイル `wpsdbuser` が表示されます。
- このユーザー・プロファイルのパスワードが分かっている場合は、そのパスワードを入力する。
  - 分かっている場合は、「**このローカル・システム上での新規ユーザー ID の作成 (Create a new user on this local system)**」を選択し、プロンプトの指示に従う。
- この例では、ユーザーが既存のユーザー (デフォルト・オプション) を使用することを前提としています。ユーザー・プロファイルを指定した後、「次へ」を選択します。
- m. 「デフォルト URL パス、ポータル・パス、および個別設定されたパスの作成」ページが表示されます。表示されるフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。「次へ」を選択します。
- n. 「Content Access Service のプロキシ情報の構成」ページが開きます。「次へ」を選択します。
- o. 「デフォルト・ポートレットの配置」ページが表示されます。配置する「**ビジネス・ポートレット**」を選択します。「**iSeries Access ポートレット**」などの他のオプションのポートレットすべてを選択解除します。「次へ」を選択します。
- p. 「Secure Application Server および WebSphere Portal LDAP 付き」ページが表示されます。「次へ」を選択します。
- q. 「ポータル管理グループおよび管理ユーザー」ページが開きます。「パスワード」および「パスワードの確認」に `wpsadmin` を入力し、「次へ」を選択します。
- r. 「要約」ページが表示されます。「完了」を選択します。



- s. Web ページが再表示されます。「管理/アプリケーション・サーバー」タブ付きページがアクティブになります。「インスタンス/サーバー」の下に、状況が「作成中」となった「iwawps5/iwawps5 – WAS, V5 (portal)」がリストされます。この Web ページから、WebSphere Application Server を管理できます。

ページが定期的に更新されない場合は、「作成中」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

処理が完了すると、状況が「実行中」に更新されます。

ブラウザ・ウィンドウを最小化します。

### 3. iSeries Access for Web を構成する。

- a. 5250 セッション・ウィンドウを復元する。
- b. WebSphere Application Server が実行されているかどうかを確認するため、サーバー・コマンド WRKACTJOB SBS(QEJBAS5) を実行する。
- c. IAWWPS5 が、QEJBAS5 サブシステムの下で実行されているジョブとしてリストされているか確認する。iSeries Access for Web を構成するには、WebSphere Portal があらかじめ実行されている必要があります。
- d. HTTP サーバーが実行されているかどうかを確認するため、サーバー・コマンド WRKACTJOB SBS(QHTTSPVR) を実行する。
- e. IAWWPS5 が実行中のジョブとしてリストされているか確認する。この名前の複数ジョブが実行中である可能性があります。
- f. iSeries Access for Web ポートレットは、ソフトウェア・プロダクトによって提供されるコマンドを使用して構成されます。CL コマンドと QShell スクリプト・コマンドの 2 つの異なるコマンドがあります。これらのコマンドで提供および実行される機能は同じです。いずれか希望する方のコマンドを使用してください。

• **CL コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。**

- 1) 以下のコマンドを使用して、iSeries Access for Web ポートレットを構成する。

```
CFGACCWEB2 APPSVRTYPE (*WP50) WASINST(iwawps5)
          WPUSRID(wpsadmin) WPPWD(wpsadmin)
          WPURL('<server_name>:2038/wps/config') WPDFTPAG(*CREATE)
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

#### **APPSVRTYPE**

どの Web アプリケーション・サーバー環境を構成するかをコマンドに知らせます。

#### **WASINST**

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

#### **WPUSRID**

どの WebSphere Portal 管理ユーザー ID を使用して構成変更を行うかをコマンドに知らせます。

#### **WPPWD**

WPUSRID パラメーターを使用して入力したユーザー ID 用のパスワードです。

#### **WPURL**

構成変更を行うために、WebSphere Portal 構成サブレットにアクセスします。

## WPDFTPAG

iSeries Access ポートレットのデフォルトのページを作成し、これらのページにポートレットを配置するようコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、F1 を押します。

- 2) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために Portal Server を呼び出し中。

追加の成功/失敗情報については、以下のログ・ファイルを参照してください。  
/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iwawps5/logs/cfgwps50iwa.log

追加の成功/失敗情報については、以下のログ・ファイルを参照してください。  
/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iwawps5/logs/cfgwps50iwapage.log

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

- 3) コマンドが完了した後に F3 または Enter を押して、ディスプレイ・セッションを終了する。
- QShell スクリプト・コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。

- 1) サーバー・コマンド QSH を使用して、QShell 環境を開始する。

- 2) iSeries Access for Web ディレクトリーを現行ディレクトリーにする。以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
```

- 3) 以下のコマンドを使用して、iSeries Access for Web ポートレットを構成する。

```
cfgaccweb2 -appsvrtype *WP50 -wasinst iwawps5 -wpusrid wpsadmin  
-wppwd wpsadmin -wpurl <server_name>:2038/wps/config  
-wpdftpag *CREATE
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

### -appsvrtype

どの Web アプリケーション・サーバー環境を構成するかをコマンドに知らせます。

### -wasinst

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

### -wpusrid

どの WebSphere Portal 管理ユーザー ID を使用して構成変更を行うかをコマンドに知らせます。

### -wppwd

WPUSRID パラメーターを使用して入力したユーザー ID 用のパスワードです。

### -wpurl

構成変更を行うために、WebSphere Portal 構成サブレットにアクセスします。

### -wpdftpag

iSeries Access ポートレットのデフォルトのページを作成し、これらのページにポートレットを配置するようコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。

- 4) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために Portal Server を呼び出し中。

追加の成功/失敗情報については、以下のログ・ファイルを参照してください。  
/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iawwps5/logs/cfgwps50iwa.log

追加の成功/失敗情報については、以下のログ・ファイルを参照してください。  
/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iawwps5/logs/cfgwps50iwapage.log

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

- 5) コマンドが完了した後に F3 を押して、QShell セッションを終了する。

- g. コマンドが失敗したり、エラーを示したりする場合は、ログ・ファイルを参照してください。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmds.log**

高水準な原因およびリカバリー情報。翻訳済みです。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmdstrace.log**

IBM ソフトウェア・サービスの詳細なコマンド・フローが含まれ、英語版のみが提供されません。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iawwps5/logs/cfgwps50iwa.log**

ポートレットの配置に関する詳細を示します。

注: このファイルは、EBCDIC 形式である場合があります。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iawwps5/logs/cfgwps50iwapage.log**

ポータル・ページの作成に関する詳細を示します。

注: このファイルは、EBCDIC 形式である場合があります。

- h. 5250 セッション・ウィンドウからサインオフする。

- i. 5250 セッション・ウィンドウを閉じる。

4. ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。

- a. WebSphere Portal および iSeries Access for Web ポートレットにアクセスするため、Web ブラウザーで `http://<server_name>:2038/wps/portal` を開く。

- b. ユーザー ID およびパスワードに `wpsadmin` を使用して WebSphere Portal にログインします。

- c. 「ポータル」ページが開きます。「マイ iSeries」タブ付きページを選択します。「マイ iSeries」タブを表示するには、タブ・バーを右方向に移動させる必要がある場合があります。

- d. 「マイ iSeries」タブ付きページのさまざまなサブページに移動する。

- e. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

上記のステップに従って、以下のタスクを完了しました。

• iwawps5 という WebSphere Web アプリケーション・サーバーの作成。

• WebSphere Portal の iwawps5 WebSphere Web アプリケーション・サーバーへの配置。

• IAWWPS5 という HTTP サーバーの作成。

• WebSphere Portal への iSeries Access for Web ポートレットの構成。

- | • Web ブラウザーから iSeries Access for Web ポートレットにアクセスできることの確認。
- | この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### | 関連情報

| CL コマンド・ファインダー

- | **シングル・サインオンを使用する WebSphere Portal - Express for Multiplatforms V5.0.2 (iSeries) の構成**
- | :

| この例は、Web サービス環境について熟知していないユーザーを対象としています。 WebSphere Portal Web サービス環境で、シングル・サインオン (SSO) を使用可能にした iSeries Access for Web を実行するために必要なすべてのステップについて説明しています。また、セットアップが機能しているかどうかを確認する方法についても説明しています。

| 構成が完了すると、iSeries Access ポートレットの認証オプションのデフォルト値は、「**認証済み WebSphere クリデンシャルを使用**」になります。このオプションによって、iSeries Access ポートレットは、認証された WebSphere Portal ユーザーを使用して自動的に i5/OS リソースにアクセス できるようになります。このタイプの SSO 環境を使用可能にしておく、それぞれの iSeries Access ポートレットごとに、i5/OS 信用証明情報 (ユーザー・プロファイル名およびパスワード) を構成する必要がありません。iSeries Access ポートレットでは、エンタープライズ識別マッピング (EIM) を使用して、認証済みの WebSphere Portal ユーザーを i5/OS ユーザー・プロファイルにマップします。マップされた i5/OS ユーザー・プロファイルは、ユーザーに標準の i5/OS オブジェクト・レベル・セキュリティーを使用した i5/OS リソースに対する許可を与えるために使用されます。

| ポータル環境の構成は、以下のステップで構成されています。

- | • EIM 環境を構成する。これを行う方法については、11 ページの『エンタープライズ識別マッピングの構成』トピックを参照してください。
- | • IBM Web Administration for iSeries インターフェース (IBM HTTP Server for iSeries としても知られる) を始動する。ステップ 1 を参照してください。
- | • HTTP Web サーバーを作成し、WebSphere Application Server V5.0 for iSeries Web アプリケーション・サーバーを作成して WebSphere Portal を配置する。ステップ 2 を参照してください。
- | • iSeries Access for Web を構成する。ステップ 3 (132 ページ) を参照してください。
- | • ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。ステップ 4 (134 ページ) を参照してください。

| **ポートレット環境を構成するには、以下のステップを実行します。**

- | 1. IBM Web Administration for iSeries インターフェースを開始する。
  - | a. サーバーへの 5250 セッションを開始する。
  - | b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでサインオンする。
  - | c. サーバー・コマンド STRTCPSVR SERVER(\*HTTP) HTTPSVR(\*ADMIN) を実行して、Web 管理インターフェースを開始する。
  - | d. 5250 セッションを最小化する。
- | 2. HTTP Web サーバーを作成し、WebSphere Application Server V5.0 for iSeries Web アプリケーション・サーバーを作成して WebSphere Portal を配置する。

- a. ブラウザーで `http://<server_name>:2001` を開く。
- b. 特殊権限 \*ALLOBJ、\*IOSYSCFG、\*JOBCTL、および \*SECADM のうちの少なくとも 1 つを持つユーザー・プロファイルでログインする。
- c. 「**IBM Web Administration for iSeries**」を選択する。
- d. 「**セットアップ**」タブ付きページを選択する。
- e. 「共通タスクおよびウィザード」で、「**WebSphere Portal の作成**」を選択する。
- f. 「WebSphere Portal の作成」ページが開きます。「次へ」を選択します。
- g. 「ポータル用の WebSphere Application Server の作成 - 名前の指定」ページが表示されます。「アプリケーション・サーバー名」フィールドに `iwawps5sso` と入力してから、「次へ」を選択します。
- h. 「HTTP サーバー・タイプの選択」ページが開きます。「**新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成**」を選択してから、「次へ」を選択します。
- i. 「新規の HTTP サーバー (powered by Apache) の作成」ページが表示されます。
  - 「**HTTP サーバー名**」に、`IWAWPS5SSO` と入力する。
  - 「**ポート**」に、`4038` と指定する。値を入力後に、「次へ」を選択します。
- j. 「アプリケーション・サーバーで使用する内部ポートの指定」ページが表示されます。「**範囲内の最初のポート**」で、デフォルト値を `41038` に変更してから、「次へ」を選択します。
- k. 「ポータル用 DB2 データベースの作成」ページが表示されます。「次へ」を選択します。
- l. 「ポータル・データベースを所有するユーザー ID の指定 (Specify User to Own the Portal Database)」ページが表示されます。ページには、デフォルトで既存のユーザー・プロファイル `wpsdbuser` が表示されます。
  - このユーザー・プロファイルのパスワードが分かっている場合は、そのパスワードを入力する。
  - 分かっている場合は、「**このローカル・システム上での新規ユーザー ID の作成 (Create a new user on this local system)**」を選択し、プロンプトの指示に従う。この例では、ユーザーが既存のユーザー (デフォルト・オプション) を使用することを前提としています。ユーザー・プロファイルを指定した後、「次へ」を選択します。
- m. 「デフォルト URL パス、ポータル・パス、および個別設定されたパスの作成」ページが表示されます。表示されるフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。「次へ」を選択します。
- n. 「Content Access Service のプロキシ情報の構成」ページが開きます。「次へ」を選択します。
- o. 「デフォルト・ポートレットの配置」ページが表示されます。配置する「**ビジネス・ポートレット**」を選択します。「**iSeries Access ポートレット**」などの他のオプションのポートレットすべてを選択解除します。「次へ」を選択します。
- p. 「Secure Application Server および WebSphere Portal LDAP 付き」ページが表示されます。「**はい、LDAP を使用してこのサーバーを保護します**」を選択してから、以下のように値を指定します。
  - 「**LDAP サーバー・ホスト名**」に、WebSphere アクティブ・ユーザー・レジストリーを含む LDAP サーバーの完全修飾ホスト名を指定する。例えば、`MYISERIES.MYCOMPANY.COM` と指定します。
  - 「**LDAP ポート**」に、WebSphere アクティブ・ユーザー・レジストリーを含む LDAP サーバーのポート番号を指定する。例えば、`389` と指定します。「次へ」を選択します。
- q. 「LDAP 認証」ページが表示されます。以下のように値を指定します。



- 「LDAP 管理者 DN」には、LDAP 管理者の識別名を指定する。例えば、cn=administrator と指定します。
  - LDAP 管理者パスワードには、LDAP 管理者のパスワードを指定する。例えば、myadminpwd と指定します。
- 「次へ」を選択します。
- r. 「LDAP 構成パラメーター」ページが表示されます。「次へ」を選択します。
  - s. 「LDAP 管理グループおよび管理ユーザー」ページが表示されます。「パスワード」および「確認パスワード」に、ポータル管理者のユーザー ID の希望するパスワードを入力します。
- 「次へ」を選択します。
- t. 「Web サーバー・シングル・サインオン (SSO) 構成パラメーター」ページが表示されます。以下のいずれかを指定します。
    - SSO ドメインに他のサーバーが含まれていない場合は、「SSO ドメインをこの Web サーバーのホスト名に制限」を選択する。
    - SSO ドメインに他のサーバーが含まれている場合は、「SSO 環境での他の Web サーバーの組み込み」を選択して、MYCOMPANY.COM などの SSO ドメイン・ネームを指定する。
- 「次へ」を選択します。
- u. 前のページで SSO ドメイン名を指定した場合は、「Web サーバー・シングル・サインオン (SSO) 環境用 Lightweight Third Party Authentication (LTPA) の構成」ページが表示されます。「LTPA パスワード」および「確認パスワード」に、LTPA 認証のための希望するパスワードを入力します。
- 「次へ」を選択します。
- v. 「ID トークン SSO for Web を i5/OS Access に構成」ページが表示されます。「ID トークンの構成」を選択してから、以下のように値を指定します。
    - 「LDAP サーバー・ホスト名」には、EIM セットアップ時に作成された EIM ドメインをホスティングしている LDAP サーバーの完全修飾ホスト名を指定する。例えば、MYISERIES.MYCOMPANY.COM と指定します。
    - 「LDAP ポート」には、EIM セットアップ時に作成された EIM ドメインをホスティングしている LDAP サーバーのポート番号を指定する。例えば、389 と指定します。
    - 「LDAP 管理者 DN」には、LDAP 管理者の識別名を指定する。例えば、cn=administrator と指定します。
    - 「LDAP 管理者パスワード」には、LDAP 管理者のパスワードを指定する。例えば、myadminpwd と指定します。
- 「次へ」を選択します。
- w. 「ID トークン EIM ドメイン情報の構成」ページが表示されます。以下のように値を指定します。
    - 「EIM ドメイン名」には、EIM セットアップ時に作成された EIM ドメインの名前を選択する。例えば、EimDomain を選択します。
    - 「ソース・レジストリー名」で、EIM のセットアップ時に作成された EIM ソース・レジストリーの名前を選択する。例えば、WebSphereUserRegistry を選択します。
- 「次へ」を選択します。
- x. 「ルックアサイド・データベースの構成」ページが表示されます。「次へ」を選択します。
  - y. 「要約」ページが表示されます。「完了」を選択します。

- z. Web ページが再表示されます。「管理」 → 「アプリケーション・サーバー」タブ付きページがアクティブになります。「インスタンス/サーバー」に、「iwawps5sso/iwawps5sso – WAS, V5 (portal)」が「作成中」という状況でリストされます。この Web ページから、WebSphere Application Server を管理できます。

ページが定期的に更新されない場合は、「作成中」状況の隣の最新表示アイコンを使用してください。

処理が完了すると、状況が「実行中」に更新されます。

ブラウザ・ウィンドウを最小化します。

### 3. iSeries Access for Web を構成する。

- a. 5250 セッション・ウィンドウを復元する。
- b. WebSphere Application Server が実行されているかどうかを確認するため、サーバー・コマンド WRKACTJOB SBS(QEJBAS5) を実行する。
- c. QEJBAS5 サブシステムで実行中のジョブとして IAWWPS5SSO がリストされていることを確認する。iSeries Access for Web を構成するには、あらかじめ WebSphere Portal が稼働している必要があります。
- d. HTTP サーバーが実行されているかどうかを確認するため、サーバー・コマンド WRKACTJOB SBS(QHTTSPVR) を実行する。
- e. 実行中のジョブとして IAWWPS5SSO がリストされていることを確認する。この名前のジョブが複数実行されている可能性があります。
- f. iSeries Access for Web ポートレットは、ソフトウェア・プロダクトによって提供されるコマンドを使用して構成されます。CL コマンドと QShell スクリプト・コマンドの 2 つの異なるコマンドがあります。これらのコマンドで提供および実行される機能は同じです。いずれか希望する方のコマンドを使用してください。

#### • CL コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。

- 1) 以下のコマンドを使用して、iSeries Access for Web ポートレットを構成する。

```
CFGACCWEB2 APPSVRTYPE (*WP50) WASINST(iwawps5sso)
          WPUSRID(wpsadmin) WPPWD(wpsadmin)
          WPURL('<server_name>:4038/wps/config') WPDFTPAG(*CREATE)
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

#### **APPSVRTYPE**

どの Web アプリケーション・サーバー環境を構成するかをコマンドに知らせます。

#### **WASINST**

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

#### **WPUSRID**

どの WebSphere Portal 管理ユーザー ID を使用して構成変更を行うかをコマンドに知らせます。

#### **WPPWD**

WPUSRID パラメーターを使用して入力したユーザー ID 用のパスワードです。

#### **WPURL**

構成変更を行うために、WebSphere Portal 構成 サブレットにアクセスします。

## WPDFTPAG

iSeries Access ポートレットのデフォルトのページを作成し、これらのページにポートレットを配置するようコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、F1 を押します。

- 2) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

追加の成功/失敗の情報については、ログ・ファイル

/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iwawps5sso/logs/cfgwps50iwa.log を参照してください。追加の成功/失敗の情報については、ログ・ファイル

/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iwawps5sso/logs/cfgwps50iwapage.log を参照してください。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

- 3) コマンドが完了した後に F3 または Enter を押して、ディスプレイ・セッションを終了する。
- QShell スクリプト・コマンドを使用するには、以下のステップに従ってください。

- 1) サーバー・コマンド QSH を使用して、QShell 環境を開始する。
- 2) iSeries Access for Web ディレクトリーを現行ディレクトリーにする。以下のサーバー・コマンドを実行します。

```
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
```

- 3) 以下のコマンドを使用して、iSeries Access for Web ポートレットを構成する。

```
cfgaccweb2 -appsvrtype *WP50 -wasinst iwawps5sso -wpusrid wpsadmin  
-wppwd wpsadmin -wpurl <server_name>:4038/wps/config  
-wpdftpag *CREATE
```

使用されるパラメーターは、以下のとおりです。

### -appsvrtype

どの Web アプリケーション・サーバー環境を構成するかをコマンドに知らせます。

### -wasinst

Web アプリケーション・サーバーのどのインスタンスを構成するかをコマンドに知らせます。

### -wpusrid

どの WebSphere Portal 管理ユーザー ID を使用して構成変更を行うかをコマンドに知らせます。

### -wppwd

WPUSRID パラメーターを使用して入力したユーザー ID 用のパスワードです。

### -wpurl

構成変更を行うために、WebSphere Portal 構成 サブレットにアクセスします。

### -wpdftpag

iSeries Access ポートレットのデフォルトのページを作成し、これらのページにポートレットを配置するようコマンドに知らせます。

このコマンドおよびパラメーターに関するヘルプを表示するには、-? パラメーターを指定します。

4) 以下のような複数のメッセージが表示されます。

iSeries Access for Web を構成中。

構成変更の実行を準備中。

構成変更を実行するために WebSphere を呼び出し中。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

追加の成功/失敗の情報については、ログ・ファイル

/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iwawps5sso/logs/cfgwps50iwa.log を参照してください。追加の成功/失敗の情報については、ログ・ファイル

/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iwawps5sso/logs/cfgwps50iwapage.log を参照してください。

iSeries Access for Web コマンドが完了しました。

5) コマンドが完了した後に F3 を押して、QShell セッションを終了する。

g. コマンドが失敗したり、エラーを示したりする場合は、ログ・ファイルを参照してください。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmds.log**

高水準な原因およびリカバリー情報。翻訳済みです。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/logs/cmdstrace.log**

IBM ソフトウェア・サービスの詳細なコマンド・フローが含まれ、英語版のみが提供されます。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iwawps5sso/logs/cfgwps50iwa.log**

ポートレットの配置に関する詳細を示します。

注: このファイルは、EBCDIC 形式である場合があります。

**/QIBM/UserData/Access/Web2/wp50/iwawps5sso/logs/cfgwps50iwapage.log**

ポータル・ページの作成に関する詳細を示します。

注: このファイルは、EBCDIC 形式である場合があります。

h. 5250 セッション・ウィンドウからサインオフする。

i. 5250 セッション・ウィンドウを閉じる。

4. ブラウザーを使用して、iSeries Access for Web にアクセスする。

a. Web ブラウザーで `http://<server_name>:4038/wps/portal` を開き、WebSphere Portal および iSeries Access for Web ポートレットにアクセスする。

b. ユーザー ID およびパスワードに `wpsadmin` を使用して、WebSphere Portal にログインする。

c. 「ポータル」ページが開きます。「マイ iSeries」タブ付きページを選択します。「マイ iSeries」タブを表示するには、タブ・バーを右方向に移動させる必要がある場合があります。

d. 「マイ iSeries」タブ付きページのさまざまなサブページに移動する。

e. ブラウザー・ウィンドウを閉じる。

上記のステップに従って、以下のタスクを完了しました。

- EIM 環境を構成することによる、WebSphere Portal ユーザー ID の i5/OS ユーザー・プロファイルへのマッピングの有効化。

- | • iwawps5sso という名前の WebSphere アプリケーション・サーバーの作成。
- | • iwawps5sso という名前の WebSphere Web アプリケーション・サーバーへの WebSphere Portal の配置。
- | • IAWWPS5SSO という名前の HTTP サーバーの作成。
- | • WebSphere Portal への iSeries Access for Web ポートレットの構成。
- | • Web ブラウザーから iSeries Access for Web ポートレットにアクセスできることの確認。

| この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

#### | 関連概念

| 9 ページの『シングル・サインオンの考慮事項』

| このトピックでは、Web アプリケーション・サーバーおよびポータル環境での iSeries Access for Web によるシングル・サインオン (SSO) に関する考慮事項をリストします。

#### | 関連情報

| CL コマンド・ファインダー

### | 既存のポータル環境の構成例

| これらの例では、既存のポータル環境内への iSeries Access for Web の構成に関する説明をします。HTTP サーバーおよび Web アプリケーション・サーバーが存在し、WebSphere Portal が配置されていることを前提としています。以下の例に進む前に、チェックリストの計画、インストール、および構成が完了していることを確認してください。

#### | WebSphere Portal - Express for Multiplatforms バージョン 5.0.2 (iSeries) の構成:

| WebSphere Portal - Express for Multiplatforms バージョン 5.0.2 (iSeries) で使用するために iSeries Access for Web for を構成するには、以下を参照してください。

| WebSphere Portal - Express for Multiplatforms バージョン 5.0.2 (iSeries) で使用するために iSeries Access for Web for を構成するには、次のようにします。

- | 1. サーバーにサインオンする。
- | 2. WebSphere Portal Web サービス環境を開始する。
  - | a. サーバー・コマンド STRTCPSVR \*HTTP HTTPSVR(\*ADMIN) を実行する。
  - | b. ご使用のブラウザで http://:2001 を開く。
  - | c. 「IBM Web Administration for iSeries」を選択する。
  - | d. ご使用の HTTP サーバーに移動し、まだ稼働していない場合は始動する。
  - | e. ご使用の WebSphere Portal サーバーに移動し、稼働していない場合は始動する。
  - | f. アプリケーション・サーバーに「稼働」の状況が表示されるまで待つ。
  - | g. ブラウザー・ウィンドウを最小化する。
- | 3. 適切な iSeries Access for Web 構成コマンドを使用する。
  - | • CL コマンドを使用するには、以下のコマンドを実行する。

```
| QIWA2/CFGACCWEB2 APPSVRTYPE(*WP50) WASINST(was_instance_name)
|     WPUSTRID(wp_user_ID) WPPWD(wp_password)
|     WPURL('your_server_name:port/wps/config') WPDFTYPAG(*CREATE)
```



- スクリプト・コマンドを使用するには、以下のサーバー・コマンドを実行する。

```
STRQSH
cd /QIBM/ProdData/Access/Web2/install
cfgaccweb2 -appsvrtype *WP50 -wasinst was_instance_name
           -wpusrid wp_user_ID -wppwd wp_password
           -wpurl your_server_name:port/wps/config -wpdfcpag *CREATE
```

構成コマンドは、以下の変数を使用する。

*was\_instance\_name*

使用している WebSphere Express アプリケーション・サーバー・インスタンスの名前です。

*wp\_user\_id*

WebSphere Portal への構成変更を実行する管理者レベルの権限を持つ WebSphere Portal ユーザー ID です。

**wp\_password**

WPUSRID パラメーターで指定されているユーザー ID のパスワードです。

**your\_server\_name:port/wps/config**

WebSphere Portal の構成サブレットにアクセスするための URL です。

**\*CREATE**

コマンドに、デフォルトの iSeries Access for Web ポータル・ページを作成し、これらのページに iSeries Access for Web ポートレットを追加するよう指示します。

これらの値について詳しくは、該当するフィールドのヘルプ・テキストを参照してください。

4. ステップ 2g (135 ページ) で最小化した Web 管理ブラウザ・インターフェース・ウィンドウに戻る。 WebSphere Portal アプリケーション・サーバーを停止し、再始動します。
5. ご使用のブラウザで `http://<your_server_name>:port/wps/portal` を開く。大文字小文字も一致させてください。
6. ポータルにサインオンする。
7. 新しい「My iSeries (マイ iSeries)」タブ付きページを選択する。
8. 表示された iSeries Access for Web ページおよびポートレットに移動する。

この例では、CFGACCWEB2 コマンドのみを使用して、iSeries Access for Web が構成されています。すべての iSeries Access for Web CL コマンドの使用に関する詳細については、CL コマンド・ファインダーを使用してください。

## 関連情報

CL コマンド・ファインダー

## ポータル環境での iSeries Access for Web のカスタマイズ

以下のトピックでは、ポータル環境での iSeries Access ポートレットのカスタマイズに関する情報を提供します。

### ページの作成

iSeries Access ポートレットを WebSphere Portal 用に構成する場合に、iSeries Access ポートレットでデフォルトの WebSphere Portal ページを作成して、データを追加することができます。作成されたデフォルト・ページは、「マイ iSeries」という名前のメインページおよびメインページの下の複数のサブページから構成されます。サブページは、同様の機能ポートレットを同じページにグループ化します。

サブページは以下のように作成されます。

- 5250
- IFrame ポートレット
- ファイル
- 印刷
- データベース
- コマンド
- その他

デフォルトの iSeries Access ポートレット・ページは、以下の 2 つの方法のいずれかで作成できます。

1. CFGACCWEB2 CL コマンドでポートレットを配置する際に、WPDFTPAG(\*CREATE) パラメーターを指定する。
2. iSeries Access ポートレット・オプションを「WebSphere Portal ウィザードの作成」の「デフォルト・ポートレットのデプロイ」ページから選択する。

WebSphere Portal でのページの管理について詳しくは、WebSphere Portal Information Center の「**ご使用のポータル**の管理 (Administrating your portal)」 → 「ページ、レイアウトおよびコンテンツの管理

(Managing pages, layout and content)」 を参照してください。

#### 関連資料

123 ページの『ポータル環境での iSeries Access for Web の構成』  
ポータル環境で iSeries Access for Web を構成するのに必要なステップに従います。

## ポートレットのカスタマイズ

iSeries Access ポートレットは、編集モード設定を使用してカスタマイズされます。iSeries Access ポートレットの大部分を使用する前に、編集モード設定を構成する必要があります。

ただし、編集モードはすべてのポートレットに使用可能ではなく、ポートレットの編集モードを管理者が使用不可にすることもできます。ポートレットで編集モードを使用可能である場合は、ポートレット・ウィンドウのタイトル・バーに鉛筆アイコンが表示されます。編集モード設定にアクセスするには、鉛筆アイコンを選択します。

iSeries Access for Web ポートレットの大部分で使用可能な共通の構成オプションがあります。多くのポートレットは、ポートレット固有の設定も持っています。保護された iSeries リソースにアクセスする iSeries Access ポートレットの場合、サーバーおよび認証編集モードを構成する必要があります。

ポートレットの編集モード設定のそれぞれのオンライン・ヘルプは、編集モード時に使用可能です。


## Portal の役割

WebSphere Portal において、ポートレットへのアクセスは役割によって制御されます。役割によって、特定のユーザーまたはグループのポートレットなどのリソースに対する許可が定義されます。デフォルトでは、iSeries Access ポートレットの配置時に、認証済み全ユーザー・グループのポートレットに特権ユーザー 役割が割り当てられます。

この役割とグループの割り当てによって、認証済み (ログインしている) WebSphere Portal ユーザーが iSeries Access ポートレットにアクセスすることができます。また、編集モード機能を使用することがも

ます。 iSeries Access ポートレットのデフォルトの役割割り当てを変更するには、「Administration」 → 「アクセス」 → 「ユーザーおよびグループ許可の管理インターフェース (User and Group Permissions administration interface)」を使用します。

WebSphere Portal における役割、アクセス権限、およびグループ許可については、WebSphere Portal

Information Center  で「Securing your portal (ポータル保護)」 → 「Security Concepts (セキュリティ概念)」と参照してください。

#### 関連概念

7 ページの『セキュリティ上の考慮事項』

iSeries Access for Web でのセキュリティ上の考慮事項について説明します。

## ポータル環境での iSeries Access for Web の使用

以下のトピックでは、ポータル環境での iSeries Access for Web の使用について説明します。

### iSeries Access for Web の機能

ポータル環境で実行可能な機能のリストを以下に示します。 このリストに示された機能を選択すると、サポートされるタスク、使用する際の考慮事項、および制約事項を確認できます。

- | **5250:** iSeries Access ポートレットは、5250 セッションの開始および使用をサポートします。
- | 使用可能なポートレットのリストを以下に示します。
- | **iSeries 5250 セッション**
- | 5250 セッションは、i5/OS を実行中のあらゆるサーバーに対して開始できます。アクセス対象のサーバーには、iSeries Access for Web がインストールされている必要はありません。セッションの外観と動作をカスタマイズするためのオプションが用意されています。一部の JavaScript™ 使用可能ブラウザではキーボード・サポートが使用可能です。

### 考慮事項

- | キーボードの Enter キーは、JavaScript が使用可能なタイトルのブラウザでサポートされます。サポートされないブラウザについて詳しくは、制約事項を参照してください。
- | キーボードの page up、page down、およびファンクション・キーは、JavaScript が使用可能であるときに、以下のブラウザでサポートされます。
- | • Microsoft Internet Explorer (バージョン 5.0 以降)
- | • Netscape (バージョン 6.0 以降)
- | • Mozilla
- | • Firefox
- | マクロはサポートされません。
- | ユーザーのすべての 5250 セッションは、WebSphere Portal からログアウトしたか、自動的にログアウトされたときに停止されます。

### 制約事項

- | 以下のブラウザではキーボード・サポートが使用できません。
- | • Opera バージョン 6.x 以前 (バージョン 7.0 and 以降はサポートされます)

| • Konqueror

| **コマンド:**

| **iSeries コマンド:**

| iSeries Command ポートレットは、iSeries サーバーでのバッチ・タイプ CL コマンドの実行をサポートします。

| **考慮事項**

| 対話式 CL コマンドを実行することはできますが、出力は表示されません。

| **制約事項**

| ありません。

| **データベース:** iSeries Access for Web は、iSeries サーバーにあるデータベース・テーブルへのアクセスのサポートを提供しています。

| 使用可能なポートレットのリストを以下に示します。

| **iSeries データベース・テーブル**

| iSeries データベース・テーブルは、データベース・テーブル・レコードのリストを表示します。表示されるレコードのリストのフィルター操作を支援するための SQL ウィザードが用意されています。リストからテーブル・レコードを挿入、更新、削除することができます。挿入および更新フォームが表示される方法をカスタマイズするためのオプションが提供されています。

| **iSeries 動的 SQL**

| iSeries 動的 SQL は SQL ステートメントを実行し、結果をページ・テーブルまたはサポートされるクライアント・ファイル・フォーマットで表示します。このポートレットは、照会ステートメントに制限されていません。IBM Toolbox for Java JDBC ドライバーがサポートするすべての SQL ステートメントを実行することができます。

| **iSeries SQL 照会**

| iSeries SQL 照会は SQL 照会の結果をページ・テーブルまたはサポートされるクライアント・ファイル・フォーマットで表示します。照会ステートメントの構築を支援するための SQL ウィザードが用意されています。ウィザードは、パラメーター・マーカーを使用してプロンプトを出された照会を構築することもできます。

| **iSeries SQL 要求**

| iSeries SQL 要求は、保管された SQL 要求のリストを表示、管理するために使用されます。このリストは、現在の WebSphere Portal ユーザーの要求または指定した共用名を持つ要求を含むことができます。このリストから、要求を作成、更新、および削除することができます。要求は、ステートメントが実行され、SQL 結果が表示される iSeries SQL 結果 - ビューアー・ポートレットに送信することができます。必要な構成情報については、『データベースの考慮事項』を参照してください。

| **iSeries SQL 結果 - ビューアー**

| iSeries SQL 結果 - ビューアーは、iSeries SQL 要求ポートレットとのユーザー対話から要求を受信して、要求で指定されたステートメントを実行し、要求出力設定を使用して SQL 結果を表示することができます。

| **関連概念**

| 121 ページの『連携ポートレット』  
ポートレット間の情報共有について説明します。

## データベースの考慮事項:

ポータル環境で iSeries Access for Web データベース機能を使用する際には、以下の考慮事項が適用されます。

## Cross Site Scripting

より大きい (>) またはより小さい (<) 文字を含むステートメントは、WebSphere Portal のデフォルト構成では失敗します。これを取り扱う方法の詳細は、Cross Site Scripting を参照してください。

## iSeries SQL 要求

iSeries SQL Requests ポートレットで作成、管理される SQL 要求は、バックエンド・データベース・テーブルに格納されます。WebSphere データ・ソースは、この情報を格納するためのデータベース・サーバーへのアクセスを提供するように構成されていなければなりません。このデータ・ソースは以下の要件を満たす必要があります。

- データ・ソースは、バージョン 4 であってはならない。
- データ・ソース JNDI 名は jdbc/iwads に設定する必要がある。
- データ・ソースは、Container-managed 別名セットを持つ必要がある。

この要求のいずれかが満たされない場合、ポートレットは必要な構成が実行されていないことを示すメッセージを表示します。

**注:** iSeries Access for Web は、IBM Toolbox for Java JDBC ドライバーを使用してテストされています。異なるドライバーも動作する可能性がありますが、これは、テストされていない非サポート環境ということになります。

データベース・テーブルは、QUSRIWA2 という名のスキーマで作成されます。このスキーマが存在しない場合は、作成されます。このスキーマが存在する場合、データ・ソース認証別名で識別されるユーザーは、このスキーマへの読み取りおよび書き込みアクセスを持つ必要があります。

デフォルトのテーブル名は QIWADTA です。この値をオーバーライドする必要がある可能性があります。例えば、複数の WebSphere Portal インスタンスが同じバックエンド・データベース・サーバーを宛先にする場合です。iSeries Access for Web の Web モジュール (iwawps.war) は、テーブル名を構成するための **dataTable** パラメーターを定義します。WebSphere Portal 管理インターフェースは、このパラメーター値を変更する方法を提供します。詳しくは、WebSphere Portal 資料を参照してください。

**重要:** **dataTable** パラメーターが変更されている間に、iSeries Access for Web Data Store または iSeries SQL Requests ポートレットのアクティブ・ユーザーがないことを確かめてください。

この構成テーブルが存在しない場合は、作成されます。この構成テーブルが存在する場合、データ・ソース認証別名で識別されるユーザーは、このスキーマへの読み取りおよび書き込みアクセスを持つ必要があります。

複数の WebSphere Portal インスタンス間でデータベース要求を共有することが可能です。各インスタンス用の jdbc/iwads データ・ソースを同じバックエンドデータベース・サーバーに構成し、各インスタンスに同じデータベース・テーブル名を使用することによって、これを行います。複数の WebSphere Portal インスタンス間での共有を促進するために、データベース要求用の認証設定も以下のように構成する必要があります。

- この要求に固有の証明書の使用: この認証オプションで構成された要求は、それが作成されたインスタンスからのみ使用できます。



- | • iSeries Credentials ポートレットで設定された証明書および管理者が設定したシステム共有証明書の使用:  
| この認証オプションのいずれかで作成された要求は複数のインスタンスから使用可能です。ただし、選  
| 択された名前を持つ信任状が各インスタンス用に存在するものとします。
- | • 認証済み WebSphere 信任状および WebSphere Portal ID の使用: この認証オプションのいずれかで作成  
| された要求は複数のインスタンスから使用可能です。ただし、各インスタンスが選択された環境用に正  
| しく構成されているものとします。

#### | データベースの制約事項:

| このトピックでは、ポートレット環境でのデータベース機能の使用に伴う制約事項について説明します。

| Microsoft Internet Explorer および OpenOffice.org を使用し、OpenDocument スプレッドシート・フォーマ  
| ットに SQL 出力を表示する際にエラーが発生した場合、以下のいずれかを試みます。

- | • 最新のバージョンの OpenOffice.org を使用する。
- | • OpenOffice.org ActiveX オプションをアンインストールする。
- | • 異なるブラウザを使用する。

#### | ファイル:

| iSeries Access ポートレットは、i5/OS 上のファイルへのアクセスのサポートを提供します。

| 使用可能なポートレットのリストを以下に示します。

#### | iSeries ファイル・リスト

| iSeries ファイル・リストは、i5/OS 上の統合ファイル・システムをナビゲートするためのファイル  
| およびディレクトリーのリストを表示します。このリストから、ファイルの表示、ダウンロード、  
| および削除を行うことができます。ファイルを iSeries ファイル・リスト - エディターおよび  
| iSeries ファイル・リスト - ビューアーのポートレットに送信して、編集および表示することがで  
| きます。新規ディレクトリーを作成することができます。ファイルをローカル・ワークステーショ  
| ン・ファイル・システムから i5/OS 統合ファイル・システムにアップロードすることができます。  
| リストの表示方法およびどのアクションが使用可能かを制御するためのオプションが用意されてい  
| ます。

#### | iSeries ファイル・リスト - エディター

| iSeries ファイル・リスト - エディターは、iSeries ファイル・リスト・ポートレットとのユーザー  
| 対話からファイルを受信し、そのファイルを編集することができます。変更は、保管または廃棄す  
| ることができます。

#### | iSeries ファイル・リスト - ビューアー

| iSeries ファイル・リスト - ビューアーは、iSeries ファイル・リストまたは iSeries ZIP ファイ  
| ル・ポートレットとのユーザー対話からファイルを受信し、ファイルを表示することができます。  
| 別個のブラウザ・ウィンドウでバイナリー・ファイルを表示できるようにするオプションが提供  
| されています。最近表示したファイルのリストを表示することもできます。

#### | iSeries ファイル・ビューアー

| iSeries ファイル・ビューアーは、i5/OS の統合ファイル・システムのファイルの内容を表示しま  
| す。別個のブラウザ・ウィンドウでバイナリー・ファイルを表示できるようにするオプションが  
| 提供されています。

#### | iSeries ZIP ファイル

| iSeries ZIP ファイルは、iSeries ファイル・リスト・ポートレットとのユーザー対話から ZIP ファ  
| イルを受信し、内容を表示することができます。新規の ZIP を作成することもできます。ZIP フ

ファイル内のファイルを表示または削除することができます。ファイルを追加することもできます。ZIP ファイルを iSeries の統合ファイル・システムに解凍することができます。最近表示した ZIP ファイルのリストを表示することもできます。

#### 関連概念

121 ページの『連携ポートレット』  
ポートレット間の情報共有について説明します。

#### ファイルの考慮事項:

以下はファイルの考慮事項です。

##### > および < 文字を含むファイルの編集

iSeries File List - Editor で編集されたファイルでは、より大きい (>) およびより小さい (<) 文字が「&gt;」および「&lt;」に変更されます。これは WebSphere Portal のデフォルト構成です。これを取り扱う方法については、『Cross Site Scripting』トピックを参照してください。

##### 編集中にファイルがロックされない

iSeries File List - Editor は、編集中にファイルをロックしません。iSeries File List - Editor でファイルを編集中に他のユーザーは編集することができます。

#### 文書ライブラリー・サービス (QDLS) のファイル・システムの登録

iSeries Access for Web で文書ライブラリー・サービス (QDLS) のファイル・システムにアクセスするためには、システム・ディレクトリーにユーザーを登録しなければなりません。ユーザーを登録するために必要なステップを以下にリストします。ユーザーが以前に登録されている場合、または QDLS のファイル・システムにアクセスする必要がない場合には、これらのステップを行う必要はありません。ユーザーは、QDLS のファイル・システムにアクセスしなくても、iSeries Access for Web のファイル機能を使用することができます。

1. iSeries コマンド・プロンプトで GO PCSTSK と入力します。この表示画面を以下に示します。

#

```
-----+-----
PCSTSK                ISERIES ACCESS タスク
                        システム :  SYSTEM1
次から 1 つを選択してください。

ユーザー・タスク
  1. PC 文書のデータベースへのコピー
  2. データベースの PC 文書へのコピー
  3. フォルダー中の文書の処理
  4. フォルダー処理
  5. ISERIES ACCESS オーガナイザー

管理担当者タスク
  20. ISERIES ACCESS 管理担当者の処理
  21. ISERIES ACCESS ユーザーの登録
-----+-----
```

図3. クライアント・アクセス・タスク (GO PCSTSK)

2. 「ISERIES ACCESS ユーザーの登録」オプションを選択する。この表示画面を以下に示します。

ISERIES ACCESS ユーザーの登録		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
ユーザー・プロファイル . . .	AARON	名前
ユーザー ID:		
ユーザー識別コード . . . . .	AARON	文字値
アドレス . . . . .	SYSTEM1	文字値
ユーザー記述 . . . . .	AARON B.	
システム・ディレクトリー追 加 . . . . .	*NO	*NO, *YES

図 4. 「ISERIES ACCESS ユーザーの登録」表示

3. 次の値に適切な情報を入力する。

**ユーザー・プロファイル**

ユーザーの名前です

**ユーザー ID**

通常はユーザー・プロファイル名と同じです

**ユーザー・アドレス**

通常はシステム名と同じです

**ユーザー記述**

ユーザーの説明です

**システム・ディレクトリー追加**

QDLS ファイル・システムを使用する場合は \*YES を選択します

入力フィールドの詳しい説明については、オンライン・ヘルプを参照してください。

4. 上記の手順を繰り返して、ディレクトリー項目データベースに他のユーザーを登録する。

**関連概念**

122 ページの『Cross Site Scripting』

Cross Site Scripting とは何か、およびそれを使用不可にする必要がある理由を説明します。

**ファイルの制約事項:**

以下の制約事項が、ポータル環境で iSeries Access for Web 機能を使用する際に適用されます。

**制約事項**

**ファイル・サイズ:** サーバーで作成されるファイルには、現在、 2 147 483 647 バイト (約 2 GB) のサイズ制限があります。

**IFrame:**

iSeries Access for Web IFrame ポートレットを使用すると、ポータル環境から iSeries Access for Web サブレット機能にアクセスすることができます。

**iSeries Access for Web IFrame:**

この IFrame ポートレットを使用すると、ポータル環境から iSeries Access for Web サブレット機能にアクセスすることができます。 IFrame ポートレットで Web アプリケーション機能にアク

セスするには、その前に iSeries Access for Web アプリケーションを iSeries サーバーにインストールし、構成しておく必要があります。IFrame ポートレットが初めてサブレットにアクセスするときに、ブラウザーは、i5/OS のユーザーとパスワードを入力するようにプロンプトを出します。

注: iSeries Access for Web アプリケーションが WebSphere シングル・サインオン (SSO) 環境に参加するように構成されている場合、ブラウザーは、i5/OS のユーザーおよびパスワードを要求するプロンプトを出す必要がない場合があります。詳しくは、『シングル・サインオンの考慮事項』を参照してください。

## 考慮事項

ありません。

## 制約事項

「カスタマイズ」ポリシーによって Web アプリケーション・サーバー環境で制限されているタスクは、ポータル環境でも制限されます。

### 関連概念

9 ページの『シングル・サインオンの考慮事項』

このトピックでは、Web アプリケーション・サーバーおよびポータル環境での iSeries Access for Web によるシングル・サインオン (SSO) に関する考慮事項をリストします。

**その他:** iSeries Access for Web は、iSeries Access for Web のその他の機能を使用する場合に便利な、ユーザーリテナー・ポートレットのセットを備えています。

使用可能なポートレットのリストを以下に示します。

### iSeries Credentials

iSeries Credentials を使用すると、保管されている信用証明情報のリストを表示し、管理することができます。Credentials では、特定のユーザー名とパスワードの組み合わせを定義します。このリストから信用証明情報を作成、更新、および削除することができます。このポートレットを使用して作成した信用証明情報は、iSeries Access ポートレットの認証オプションを構成するときに選択することができます。また、i5/OS ユーザー・プロファイルのパスワードを変更し、新規パスワード値で現在定義されている信用証明情報を自動的に更新するオプションもあります。

### iSeries Related Links

iSeries Related Links は、iSeries Access ポートレットに関連する情報へのリンクを表示します。

### iSeries Welcome

iSeries Welcome は、使用可能な iSeries Access ポートレットの要約を表示します。また、追加の製品情報リンクも示されます。

### iSeries Access for Web Data Store

iSeries Access for Web Data Store は、iSeries Access ポートレットに保管されているデータのリストを表示します。このリストから、項目の名前変更と削除を行えます。また、保管されているデータ項目へのアクセスを変更することもできます。データ項目は、バックエンド・データベースに保管されます。必要な構成情報については、『データベースの考慮事項』を参照してください。

## 考慮事項

ありません。

## 制約事項

ありません。

### 関連概念

140 ページの『データベースの考慮事項』

ポータル環境で iSeries Access for Web データベース機能を使用する際には、以下の考慮事項が適用されます。

**印刷:** iSeries Access for Web は、iSeries サーバーにある印刷関連リソースへのアクセスのサポートを提供しています。

使用可能なポートレットのリストを以下に示します。

### iSeries Printer Output

iSeries Printer Output は、プリンター出力ファイルのリストを表示します。個々のファイルを変更、異なるプリンターまたは出力待ち行列に移動、削除、表示、または印刷することができます。プリンター出力ファイルを表示するには、iSeries Printer Output - ビューアー・ポートレットが、iSeries Printer Output ポートレットと同じポータル・ページにある必要があります。

### iSeries Printer Output - ビューアー

iSeries Printer Output ビューアーは、SCS、AFPDS、または ASCII プリンター出力ファイルを表示します。ファイルを現行ウィンドウに表示したり、新規ウィンドウにファイルを表示するリンクを提供するオプションが存在します。iSeries Printer Output - ビューアー・ポートレットは、iSeries Printer Output ポートレットによるユーザー対話で要求された場合に、プリンター出力ファイルを表示します。

### iSeries Printers

iSeries Printers は、サーバー上のプリンターをリストします。個々のプリンターを開始および停止することができます。

### iSeries Printer Output Queues

iSeries Printer Output Queues は、サーバー上の出力待ち行列のリストを表示します。個々の出力待ち行列を保留したり解放したりすることができます。

## 考慮事項

ありません。

## 制約事項

ありません。

### 関連概念

121 ページの『連携ポートレット』

ポートレット間の情報共有について説明します。

## NLS に関する考慮事項

iSeries Access ポートレットは、さまざまなソースからの情報を表示します。これらのソースの中には、複数の言語で情報を提供したり、言語に特有の方法で情報をフォーマット設定できるものがあります。このような言語特有の情報には、書式、エラー・メッセージ、ヘルプ、フォーマット済み日付および時刻、およびソートされたリストが含まれます。

ポートレットで表示される情報のソースには、以下のようなものがあります。



- i5/OS
- JDBC ドライバー
- ポータル・サーバー
- iSeries Access ポートレット

iSeries Access ポートレットはポータル・サーバーによってユーザーのために選択された言語を使用し、他のソースからの情報の言語とフォーマットに影響します。しかしこれは、特定のソースからの情報が選択された言語になること、あるいは、すべての情報が同じ言語になることを保証するものではありません。

i5/OS にインストールされている言語バージョンによっては、i5/OS で生成されるメッセージおよびヘルプが、選択された言語とは異なる言語になっている場合があります。選択した言語がインストールされていない場合、iSeries Access ポートレットで表示される i5/OS メッセージは i5/OS の 1 次言語で表示されます。

WebSphere Portal での言語サポートについては、WebSphere Portal Information Center の「[ご使用のポータルの管理 \(Administering your portal\)](#)」 → 「[言語サポート \(Language support\)](#)」を参照してください。

iSeries Access ポートレットは、WebSphere Portal がデフォルトでサポートしない言語をサポートします。追加の言語をサポートするための WebSphere Portal の構成について詳しくは、WebSphere Portal Information Center の「[お客様のポータルの管理 \(Administering your portal\)](#)」 → 「[言語サポート \(Language support\)](#)」 → 「[新規言語のサポート \(Supporting a new language\)](#)」を参照してください。

## WebSphere Portal の言語選択

ユーザーの言語選択プロセスに影響するポータル・コンテンツおよび指示の表示用の言語を WebSphere Portal が選択する方法について詳しくは、WebSphere Portal Information Center の「[お客様のポータルの管理 \(Administering your portal\)](#)」 → 「[言語サポート \(Language support\)](#)」 → 「[言語の選択と変更 \(Selecting and changing the language\)](#)」を参照してください。

## 複数言語 (マルチリンガル) による情報

iSeries Access ポートレットで表示される情報はさまざまなソースからのものであるため、その情報が複数の言語になる可能性があります。複数の言語がブラウザ上で同時に表示されるとき、すべての文字が正しく表示されるために UTF-8 のようなマルチリンガル文字セットが必要になることがあります。文字セットの変更に関するポータル・コンテンツおよび指示を表示するために WebSphere Portal が使用する文字セットについて詳しくは、WebSphere Portal Information Center の「[お客様のポータルの管理 \(Administering your portal\)](#)」 → 「[言語サポート \(Language support\)](#)」 → 「[言語用の文字セットの変更 \(Changing the character set for a language\)](#)」を参照してください。

## CCSID および i5/OS メッセージ

情報が確実に正しく表示されるようにするためには、ユーザー・プロファイルのコード化文字セット ID (CCSID) が、i5/OS で生成されるメッセージに対して適切な設定になるようにします。

### 関連情報


WebSphere Portal Information Center

## ポータル環境での iSeries Access for Web の保管および復元

iSeries Access for Web は、他の iSeries サーバーに伝搬することができますが、それを保存および復元する前に確認する必要があるいくつかの考慮事項があります。

SAVLICPGM および RSTLICPGM コマンドを使用して、iSeries Access for Web を他の iSeries サーバーに保管および復元することができます。これらのコマンドを使用することは、iSeries Access for Web をインストール・メディア (CD) を使ってインストールするのと同じことですが、このコマンドを使用する利点は、適用済みのあらゆる PTF がソース・サーバーから保管されて、ターゲット・サーバーで復元されるということです。

iSeries Access for Web を構成するには、『チェックリストのプラン、インストール、および構成』を参照してください。チェックリストには、インストール・メディア (CD-ROM) を使用して、サーバーに iSeries Access for Web をインストールする手順が含まれています。チェックリストにおいてインストールが指定されている時点で、SAVLICPGM/RSTLICPGM コマンドを実行し、ソース・サーバーから保管し、ターゲット・サーバーに復元します。SAVLICPGM/RSTLICPGM プロセスを完了後、チェックリストのステップを続行して、必要な構成ステップを完了します。

SAVLICPGM および RSTLICPGM は、ユーザー生成データは保管しません。WebSphere Portal 環境では、すべてのユーザー構成設定およびユーザー生成データが、WebSphere Portal 環境内に保管されます。ユーザー構成設定およびデータの保管と復元については、WebSphere Portal の資料を参照してください。WebSphere Portal 資料は、「WebSphere Portal for Multiplatforms のライブラリー・ページ (WebSphere portal for multiplatforms library page)」 にあります。

#### 関連概念

14 ページの『チェックリスト: プラン、インストール、および構成』

このチェックリストは、単純な iSeries Access for Web 環境をプラン、インストール、検査、および構成するために必要なステップを示しています。これらのステップは、他の Web アプリケーション、またはさらに複雑な Web 環境は考慮していません。

---

## iSeries Access for Web の削除

iSeries Access for Web を削除するには、次のようにしてください。

1. サーバーにサインオンする。
2. iSeries Access for Web を実行するように構成されたすべての Web アプリケーション・サーバー・インスタンスおよびすべてのポータル構成に対して、QIWA2/RMVACCWEB2 を入力します。どのような構成が行われているのかわからない場合には、/QIBM/ProdData/Access/Web2/config/instances.properties ファイルを参照して、iSeries Access for Web を実行するように構成されている Web アプリケーション・サーバー・インスタンスおよびポータル構成のリストを調べてください。
3. RMVACCWEB2 コマンドによって表示される指示に従う。
4. GO LICPGM、オプション 12 を入力する。
5. インストール済みライセンス・プログラムのリストをページ送りして 5722-XH2 を見つける。4 を入力して 5722-XH2 を削除します。
6. **Enter** を押して、ライセンス・プログラムを削除する。

注: iSeries Access for Web の使用中にユーザーが生成したデータが保管されている

/QIBM/UserData/Access/Web2 ディレクトリーおよびライブラリーは、サーバーから削除されません。ユーザー生成データ用のライブラリーは、QUSRIWA2 です。

#### 関連情報

RMVACCWEB2 CL コマンド

---

## 関連情報

以下の Web サイトには、iSeries Access for Web 関連の情報が 있습니다。


### iSeries Access の情報

- IBM iSeries Access for Web ホーム・ページ  (<http://www.ibm.com/eserver/iseries/access/web/>) iSeries Access for Web の詳細については、このサイトを参照してください。
- iSeries Access for Web Service Pack (PTF) (iSeries Access for Web Service Packs (PTFs) Available) (<http://www.ibm.com/eserver/iseries/access/web/servicepacks.htm>) この Web ページには、iSeries Access for Web の Service Pack へのリンクが示されています。
- iSeries Access for Web Information APAR (iSeries Access for Web Information APARs)  (<http://www.ibm.com/eserver/iseries/access/web/infoapars.htm>) 情報プログラム診断依頼書 (情報 APAR) は、出版物、オンライン情報、クリティカル修正情報、またはその他の情報ソースにない情報を配布するために使用される電子文書です。
- iSeries Access for Web README ファイル (iSeries Access for Web readme file)  (<http://www.ibm.com/eserver/iseries/access/web/readme.htm>) 製品に関する重要な情報または技術的な変更については、このサイトを参照してください。
- IBM iSeries Access ホーム・ページ  (<http://www.ibm.com/eserver/iseries/access>) この Web サイトには、iSeries Access のオンライン製品情報が示されています。


### HTTP Server および ASF Tomcat の情報

- HTTP Server 資料 (HTTP server documentation)  (<http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/software/http/docs/doc.htm>)。この Web ページには、HTTP Server および ASF Tomcat の資料へのリンクがあります。

### WebSphere の情報

- IBM WebSphere Application Server 資料 (WebSphere Application Server documentation) (<http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/software/websphere/wsappserver/>) この Web ページには、WebSphere Application Server のすべてのバージョンに関する情報へのリンクがあります。
- WebSphere Portal Enable for iSeries  (<http://www.ibm.com/software/genservers/portaliseries/>) WebSphere Portal Enable for iSeries の概要が記載されています。
- WebSphere Portal Information Center (<http://publib.boulder.ibm.com/pvc/wp/502/smbi/en/InfoCenter/index.html>) 
- iSeries の WebSphere Portal (WebSphere Portal on iSeries) (<http://www-03.ibm.com/servers/eserver/iseries/software/websphere/portal/documentation.html>) このページには、iSeries の WebSphere Portal の製品資料へのリンクがあります。

### iSeries の情報

- IBM eServer iSeries のサポート  (<http://www-03.ibm.com/servers/eserver/support/iseries/index.html>) iSeries および AS/400 サーバーの技術サポートおよびリソース。

- IBM iSeries ホーム・ページ  (<http://www.ibm.com/eserver/series>) iSeries ファミリーのサーバーについて記載されています。

## マニュアルと資料

- IBM 資料センター (IBM Publications Center)   
(<http://www.elink.ibm.link.ibm.com/public/applications/publications/cgibin/pbi.cgi>) IBM 発行の資料については、このサイトで検索してください。
- IBM Redbooks™ ホーム・ページ  (<http://www.redbooks.ibm.com>) 現実的なカスタマー・シナリオの統合、インプリメンテーション、および操作に関する資料については、このサイトを参照してください。





---

## 付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

- | 〒106-0032
- | 東京都港区六本木 3-2-31
- | IBM World Trade Asia Corporation
- | Licensing

- | 以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA  
3605 Highway 52 N  
Rochester, MN 55901  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

- | 本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム
- | 契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項
- | に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## プログラミング・インターフェース情報

この「iSeries Access for Web」資料には、プログラムを作成するユーザーが iSeries Access for Web のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

- | 1-2-3
- | Advanced Function Presentation
- | AFP
- | AIX
- | AS/400
- | DB2
- | eServer
- | i5/OS
- | IBM

- | Infoprint
- | iSeries
- | Lotus
- | NetServer
- | OS/400
- | Redbooks
- | Sametime
- | WebSphere
- | Workplace

| Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

| Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

---

## 資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、第三者の権利の不侵害の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。









Printed in Japan